

＜集計分析結果＞

(クロス集計版)

在宅介護実態調査の集計結果

～第10期介護保険事業計画の策定に向けて～

令和8年2月

＜小豆島町＞

目次

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討	[P. 1]
1.1 集計・分析の狙い	[P. 1]
1.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 2]
(1) 基礎集計	[P. 2]
(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化	[P. 4]
(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化	[P. 7]
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 12]
(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 16]
(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係	[P. 19]
(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係	[P. 23]
2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討	[P. 32]
2.1 集計・分析の狙い	[P. 32]
2.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 32]
(1) 基本集計	[P. 32]
(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み	[P. 36]
(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と 「就労継続見込み」の関係	[P. 41]
(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係	[P. 46]
(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況	[P. 48]
(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援	[P. 51]
3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討	[P. 56]
3.1 集計・分析の狙い	[P. 56]
3.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 56]
(1) 基礎集計	[P. 56]
(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス	[P. 58]
(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」	[P. 61]
(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」	[P. 66]

4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討	[P. 70]
4.1 集計・分析の狙い	[P. 70]
4.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 71]
(1) 基礎集計	[P. 71]
(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」	[P. 72]
(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」	[P. 74]
(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」	[P. 78]
5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討	[P. 82]
5.1 集計・分析の狙い	[P. 82]
5.2 集計結果と着目すべきポイント	[P. 82]
(1) 基礎集計	[P. 82]
(2) 訪問診療の利用割合	[P. 87]
(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ	[P. 89]
(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無	[P. 90]
6 サービス未利用の理由など	[P. 92]
6.1 集計・分析の狙い	[P. 92]
6.2 集計結果（参考）	[P. 93]
(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	[P. 93]
(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由	[P. 97]
(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス	[P. 101]
(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢	[P. 105]
(5) 要介護度別の抱えている傷病	[P. 106]
(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病	[P. 107]

※図表タイトルの「★」は、オプション調査項目であることを示しています。

I 介護保険事業計画の策定に向けた検討

1 在宅限界点の向上のための支援・サービスの提供体制の検討

1.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「在宅生活の継続」と「介護者不安の軽減」の2つの視点からの集計を行っています。
- それぞれ、「どのようなサービス利用パターンの場合」に、「在宅生活を継続することができると考えているのか」、もしくは「介護者の不安が軽減されているのか」を分析するために、「サービス利用パターン」とのクロス集計を行っています。
- なお、「サービス利用パターン」は、「サービス利用の組み合わせ」と「サービス利用の回数」の2つからなります。
- また、在宅限界点についての分析を行うという主旨から、多くの集計は要介護3以上、もしくは認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の方に限定して集計をしています。

1.2 集計結果と着目すべきポイント

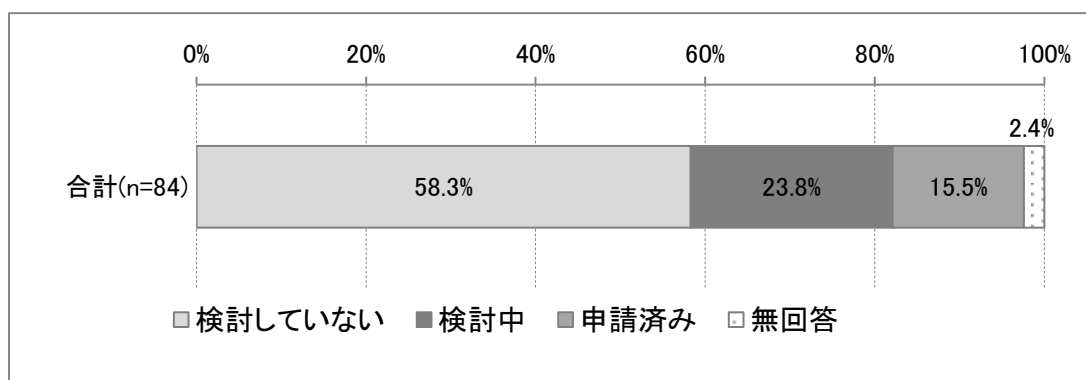
(1) 基礎集計

- 施設等の検討状況に係る、基礎的な集計を行っています（図表 1-1～図表 1-3）。
- 要介護度の重度化に伴う、施設等検討状況の変化や世帯類型ごとの施設等検討状況についてその状況を確認してください。

【施設等検討の状況】

「検討していない」の割合が最も高く 58.3%となっている。次いで、「検討中（23.8）」、「申請済み（15.5%）」となっている。

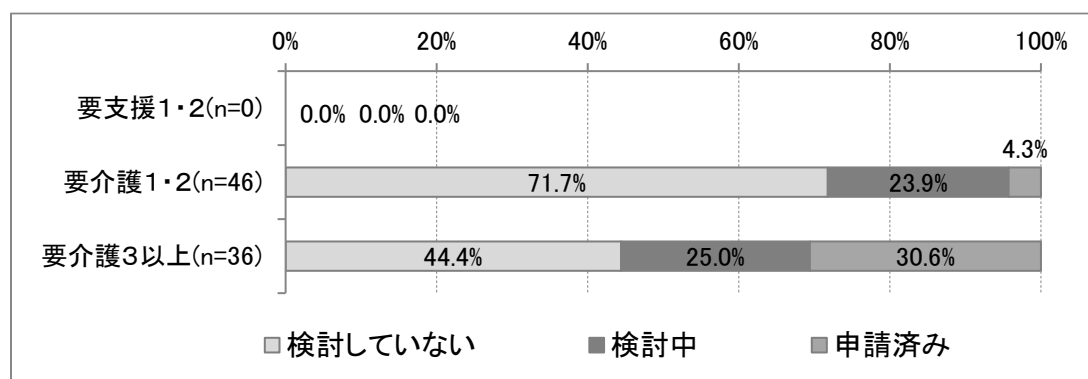
図表 1-1 施設等検討の状況



【要介護度別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が71.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.9%、「申請済み」が4.3%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が44.4%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が30.6%、「検討中」が25.0%となっている。

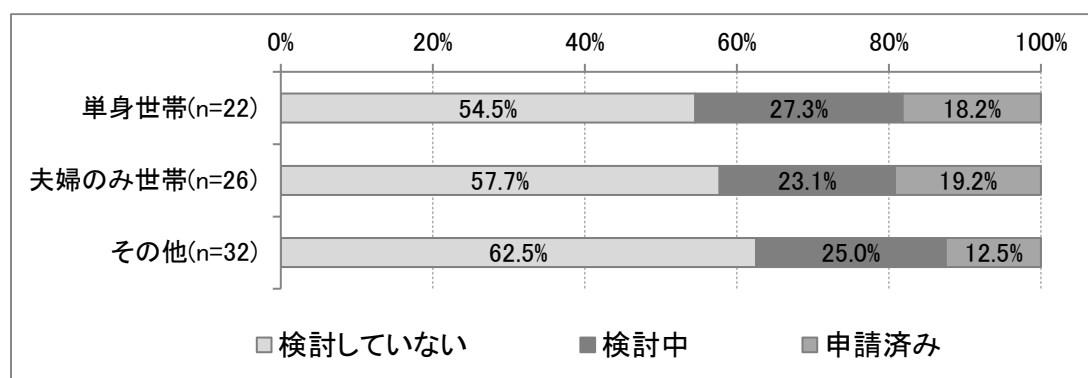
図表 1-2 要介護度別・施設等検討の状況



【世帯類型別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が54.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が18.2%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が57.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が23.1%、「申請済み」が19.2%となっている。「その他」では「検討していない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が12.5%となっている。

図表 1-3 世帯類型別・施設等検討の状況



(2) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化

【着目すべきポイント】

- 要介護度と認知症自立度の重度化に伴う「主な介護者が不安に感じる介護」の変化について、集計分析をしています（図表 1-4、図表 1-5）。
- ここでの「主な介護者が不安に感じる介護」とは、「現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安に感じる介護等」のことです。なお、ここで選択される介護は、現状で行っている介護であるか否かは問われていません。
- ここから、要介護度・認知症自立度別の、主な介護者が不安に感じる介護等を把握することができます。
- また、主な介護者の不安が相対的に大きな介護や、重度化に伴い主な介護者の不安が大きくなる介護等に着目することで、在宅限界点に大きな影響を与えと考えられる「主な介護者が不安に感じる介護」を推測することも可能になります。

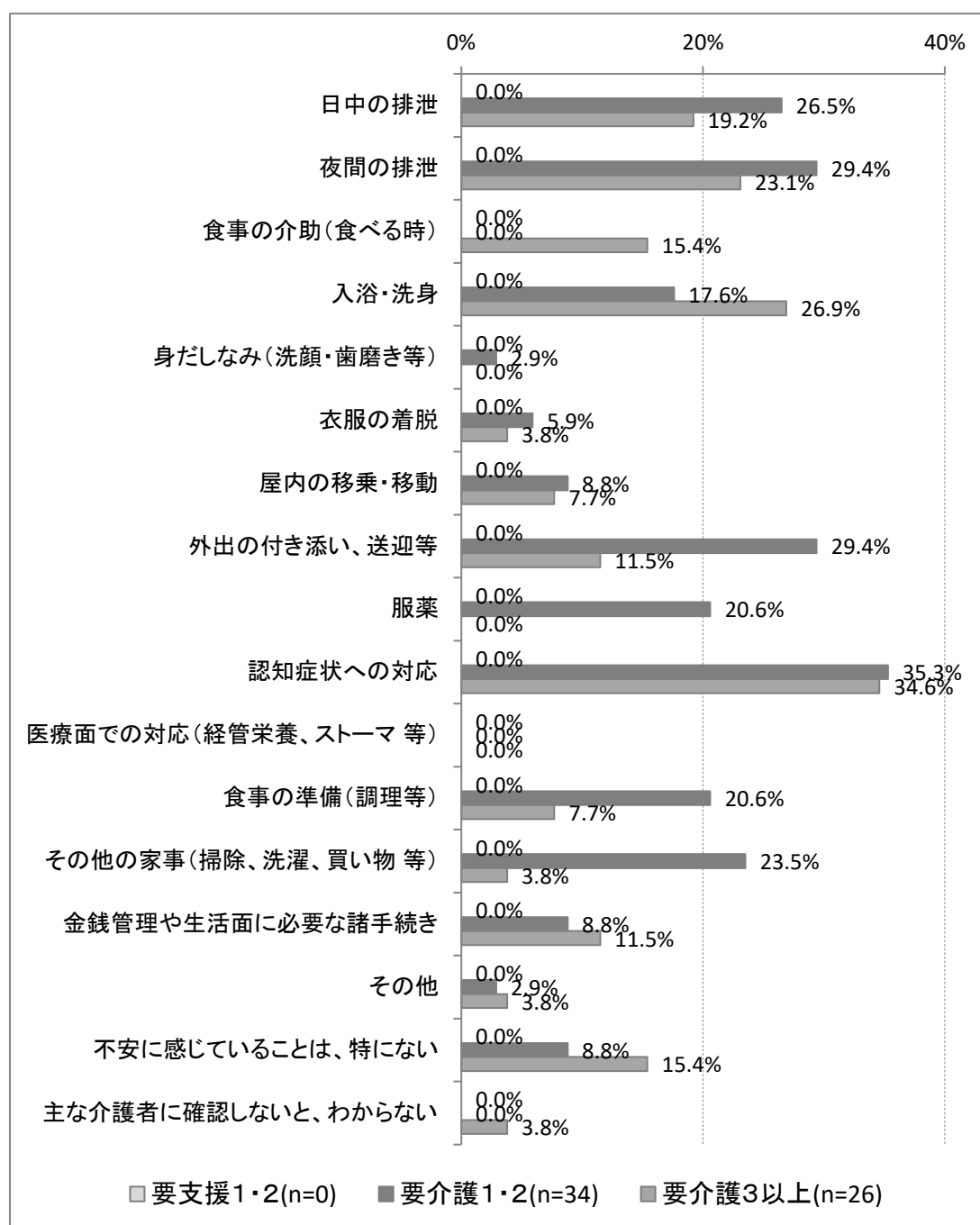
【留意事項】

- なお、「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」については、特に、実際に行われている割合が低い可能性が高いと考えられます。したがって、仮に選択した回答者が少ない場合でも、実際に医療ニーズのある要介護者を介護しているケースでは、主な介護者の不安は大きいことも考えられます。
- そのような観点から、在宅限界点に与える影響が過小評価される項目もあると考えられることから、注意が必要です。

【要介護度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「認知症状への対応」が35.3%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が29.4%、「日中の排泄」が26.5%となっている。「要介護3以上」では「認知症状への対応」が34.6%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が26.9%、「夜間の排泄」が23.1%となっている。

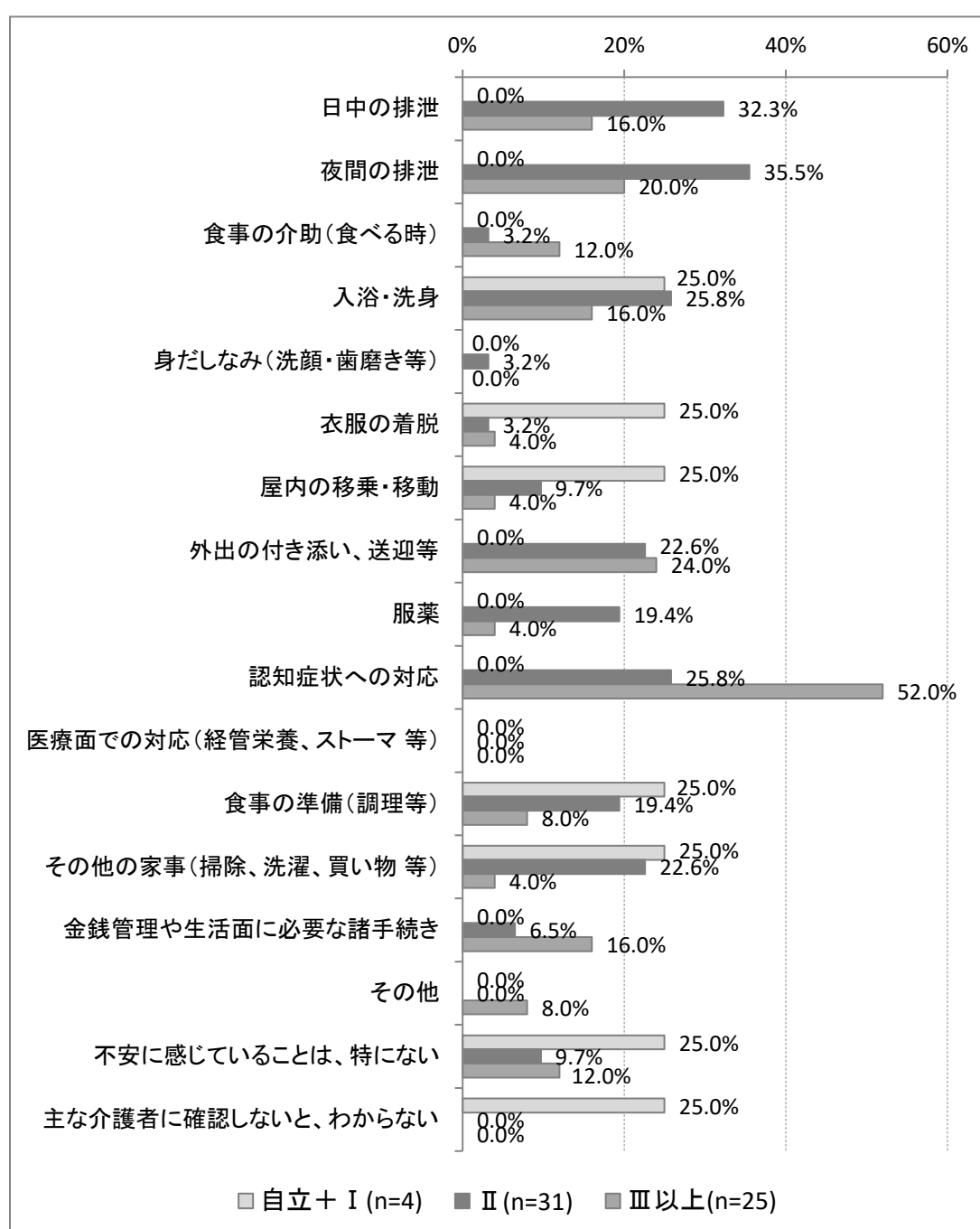
図表 1-4 要介護度別・介護者が不安に感じる介護



【認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護】

介護者が不安に感じる介護を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「屋内の移乗・移動」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」、「不安に感じていることは、特にない」、「主な介護者に確認しないと、わからない」が25.0%と最も割合が高くなっている。「Ⅱ」では「夜間の排泄」が35.5%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が32.3%、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」が25.8%となっている。「Ⅲ以上」では「認知症状への対応」が52.0%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が24.0%、「夜間の排泄」が20.0%となっている。

図表 1-5 認知症自立度別・介護者が不安に感じる介護



(3) 要介護度・認知症自立度の重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化

【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 1-6、図表 1-7）。
- 特に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- さらに、例えば今後の中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

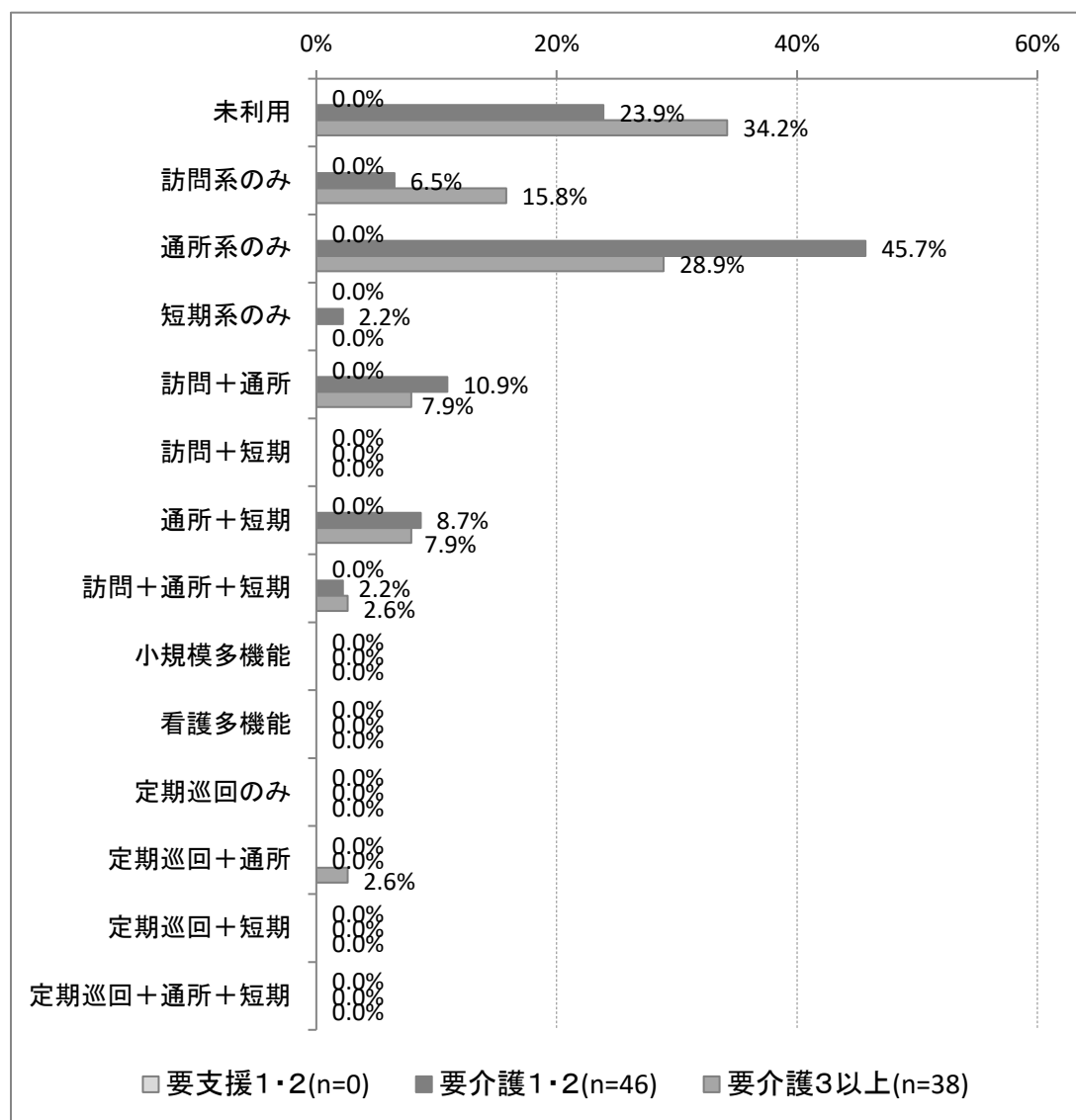
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系のみ」が45.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.9%、「訪問＋通所」が10.9%となっている。
「要介護3以上」では「未利用」が34.2%と最も割合が高く、次いで「通所系のみ」が28.9%、「訪問系のみ」が15.8%となっている。

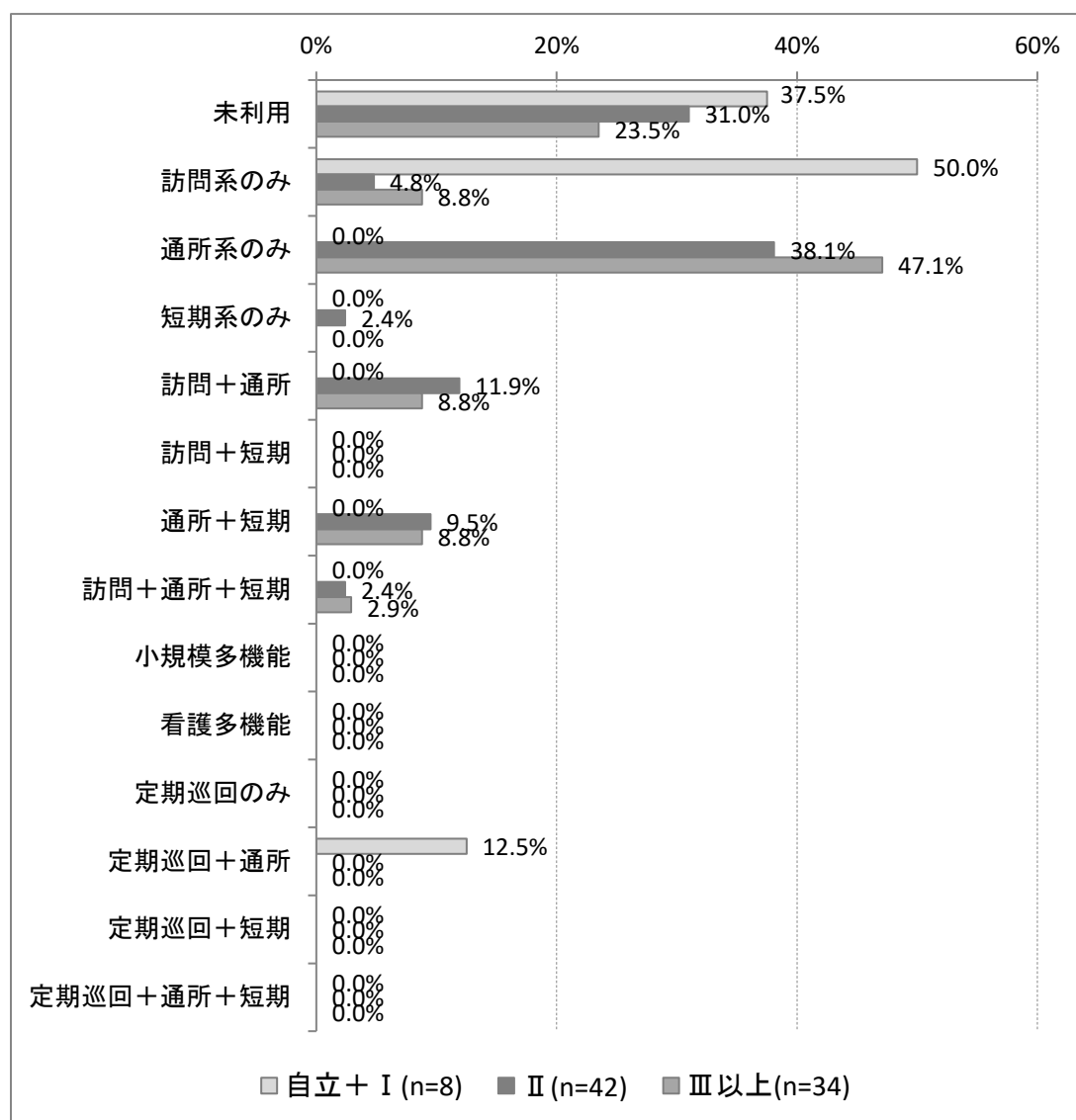
図表 1-6 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「訪問系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が37.5%、「定期巡回＋通所」が12.5%となっている。「Ⅱ」では「通所系のみ」が38.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が31.0%、「訪問＋通所」が11.9%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系のみ」が47.1%と最も割合が高く、次いで「未利用」が23.5%、「訪問系のみ」が8.8%となっている。

図表 1-7 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



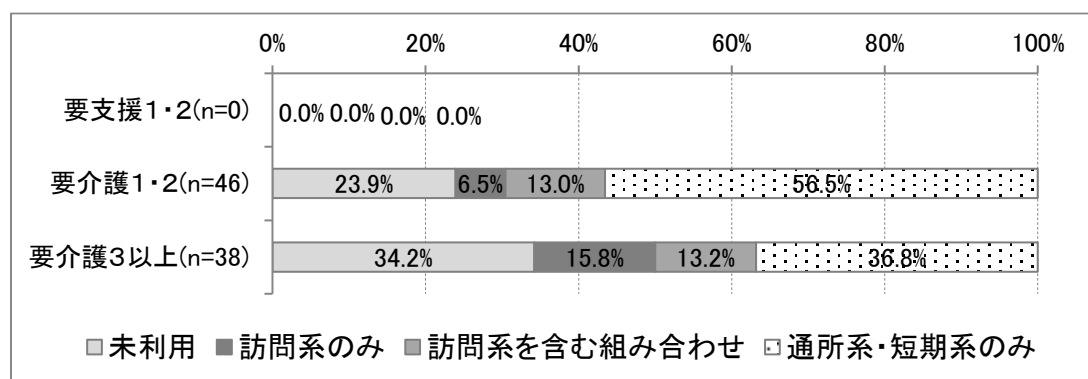
【着目すべきポイント】

- ここでは、要介護度・認知症自立度別の「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化した集計分析をしています（図表 1-8、図表 1-9）。
- 具体的には、サービス利用の組み合わせを、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその2つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の3種類（未利用除く）に分類したものです。
- 組み合わせのパターンが細分化された集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と比較して、上記のような視点から、重度化に伴う「サービス利用の組み合わせ」の変化の傾向等を分かりやすく示すことを目的としたものです。
- 前掲の集計分析（図表 1-6、図表 1-7）と同様に、重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。
- また、中重度の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が56.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.9%、「訪問系を含む組み合わせ」が13.0%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が36.8%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が34.2%、「訪問系のみ」が15.8%となっている。

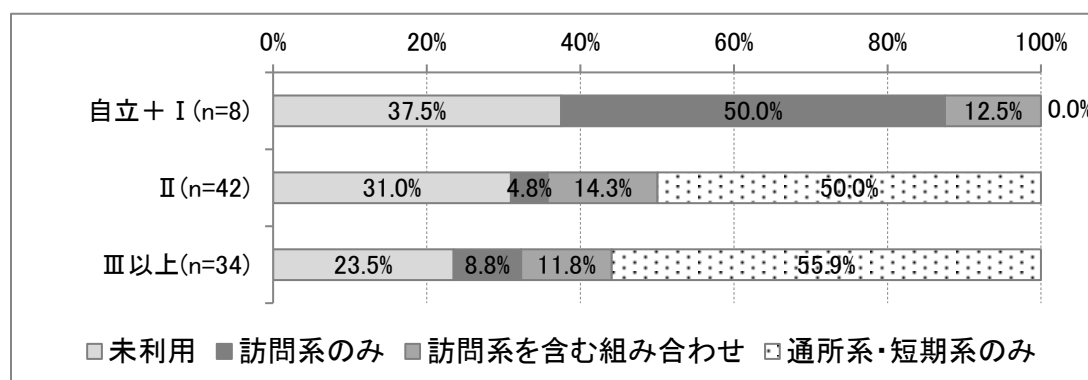
図表 1-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「訪問系のみ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が37.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が12.5%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が31.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が14.3%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が55.9%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が23.5%、「訪問系を含む組み合わせ」が11.8%となっている。

図表 1-9 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係について、集計分析をしています。それぞれ、要介護3以上と要介護4以上、認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表1-10～図表1-12は、「サービス利用の組み合わせ」別に「施設等検討の状況」の割合を集計分析したもので、特に「サービス利用の組み合わせ」ごとの「施設等検討の状況」の比較が容易です。
- また、図表1-13～図表1-15は、表側と表頭を逆にして集計したもので、「施設等検討の状況」別の「サービス利用の組み合わせ」をみることができます。これにより、例えば施設等への入所・入居を「検討していない」ケースのような「適切な在宅生活の継続を実現している」と考えられる要介護者について、実際に「どのような組み合わせのサービスを利用しているか」を把握することができます。
- したがって、例えば「検討中」や「申請済み」と比較して、「検討していない」ケースで多くみられるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

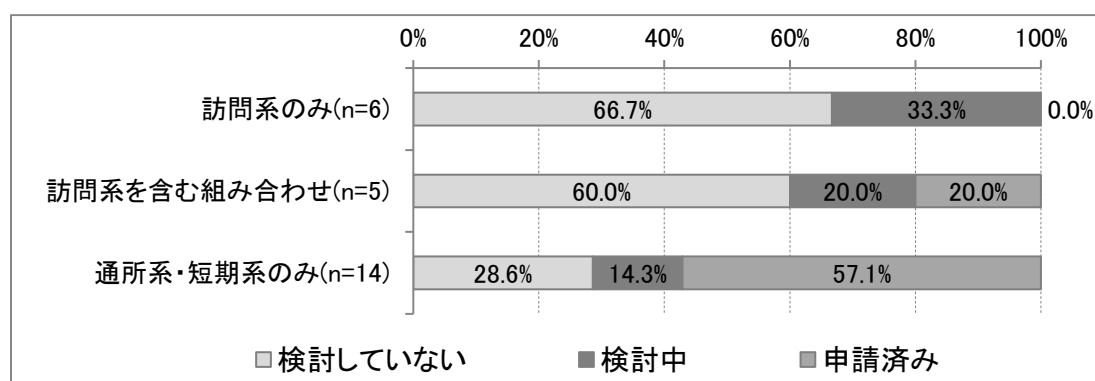
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論を交えながら、地域ごとにその効果等についての考察を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、「検討していない」の割合が高いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護3以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が20.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「申請済み」が57.1%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が28.6%、「検討中」が14.3%となっている。

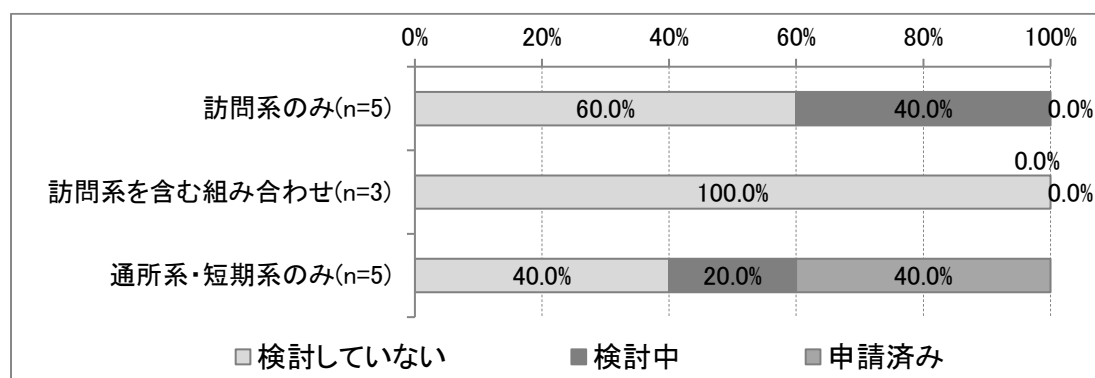
図表 1-10 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が40.0%となっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」、「申請済み」が40.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっている。

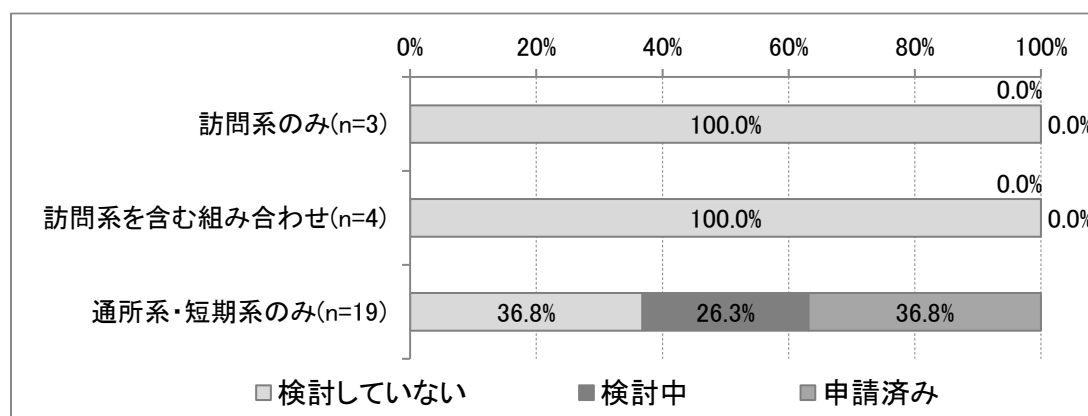
図表 1-11 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護4以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっている。「通所系・短期系のみ」では「検討していない」、「申請済み」が36.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」が26.3%となっている。

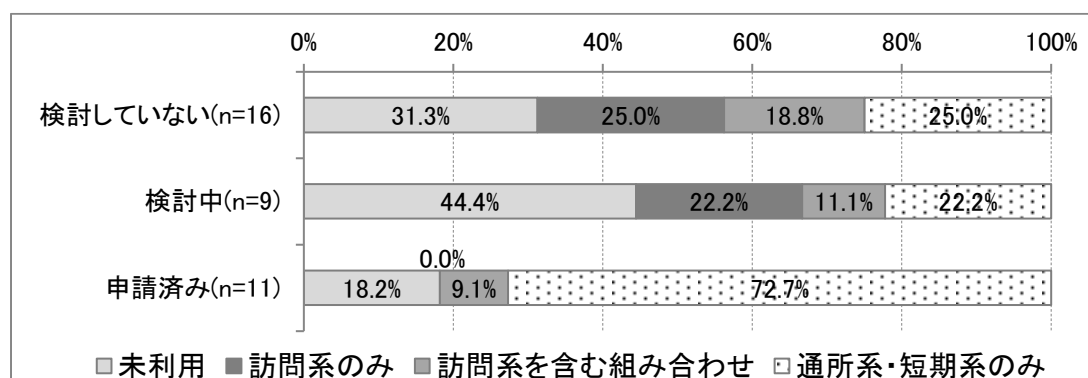
図表 1-12 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「未利用」が31.3%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が25.0%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.8%となっている。「検討中」では「未利用」が44.4%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が22.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が11.1%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が72.7%と最も割合が高く、次いで「未利用」が18.2%、「訪問系を含む組み合わせ」が9.1%となっている。

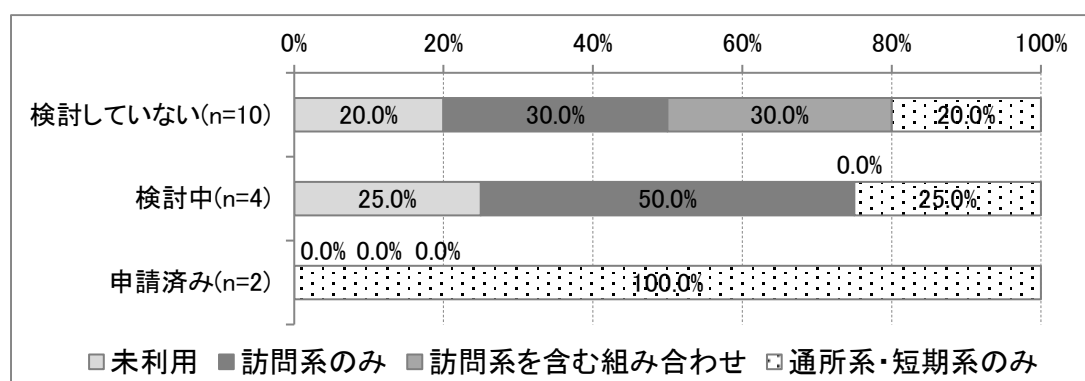
図表 1-13 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護3以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(要介護4以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が 30.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が 20.0%となっている。「検討中」では「訪問系のみ」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が 25.0%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が 100.0%と最も割合が高くなっている。

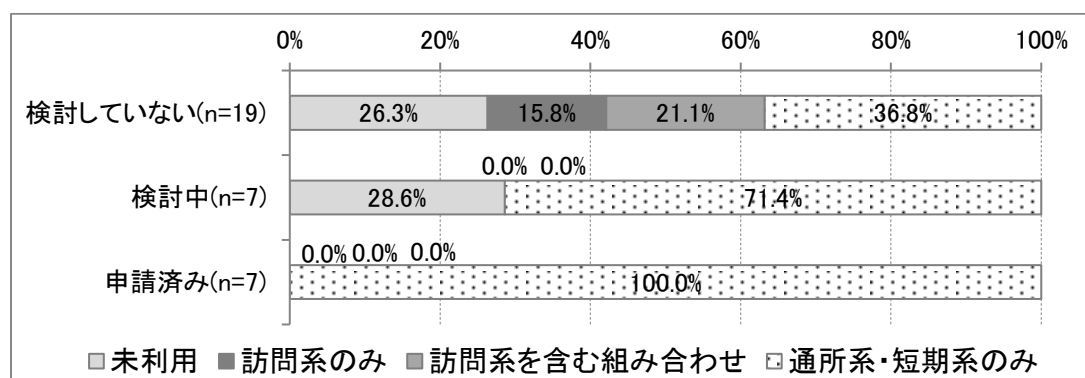
図表 1-14 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（要介護 4 以上）



【サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況(認知症Ⅲ以上)】

サービス利用の組み合わせを施設等の検討状況別にみると、「検討していない」では「通所系・短期系のみ」が 36.8%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 26.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が 21.1%となっている。「検討中」では「通所系・短期系のみ」が 71.4%と最も割合が高く、次いで「未利用」が 28.6%となっている。「申請済み」では「通所系・短期系のみ」が 100.0%と最も割合が高くなっている。

図表 1-15 サービス利用の組み合わせと施設等検討の状況（認知症Ⅲ以上）



(5) 「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係について、集計分析をしています（図表 1-16、図表 1-17）。それぞれ、要介護 3 以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の 1 つです。
- ここでは「サービス利用の組み合わせ」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- したがって、「主な介護者の不安」が比較的小さくなるような「サービス利用の組み合わせ」を推進するようなサービス整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

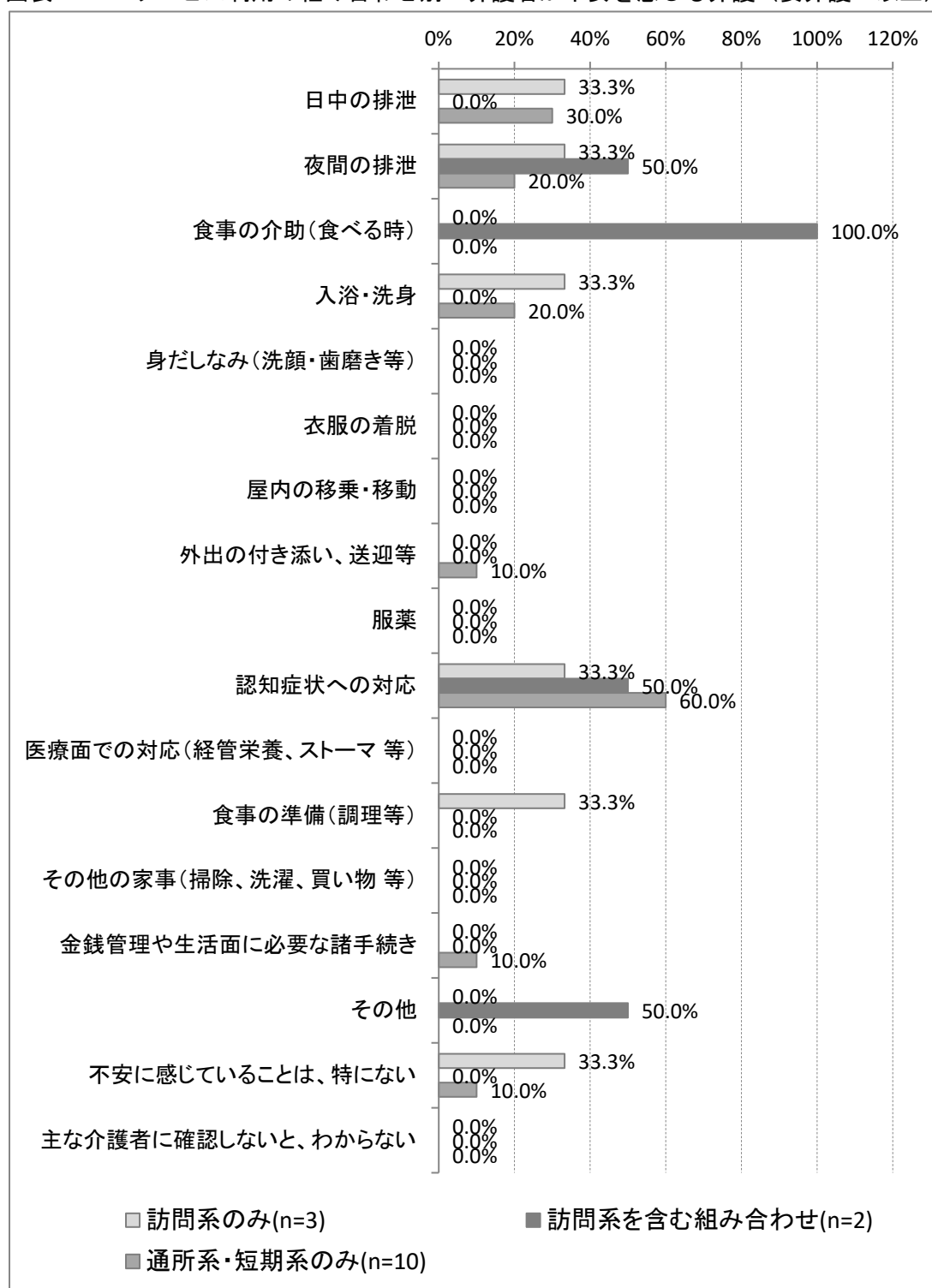
【留意事項】

- ただし、このような「サービス利用の組み合わせ」については、ケアマネジメントに直結する内容でもあることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。
- 例えば、「□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低い」といった傾向がみられたとしても、「何故、□□のサービスを利用しているケースでは、〇〇の介護について「主な介護者が不安に感じる」割合が低いのか」といった解釈には、地域の特性や専門職の知見等を踏まえた個別の議論を行うことが必要になります。

【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「食事の準備(調理等)」、「不安に感じていることは、特にない」が33.3%と最も割合が高くなっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「食事の介助(食べる時)」が100.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「その他」が50.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が60.0%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」が30.0%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が20.0%となっている。

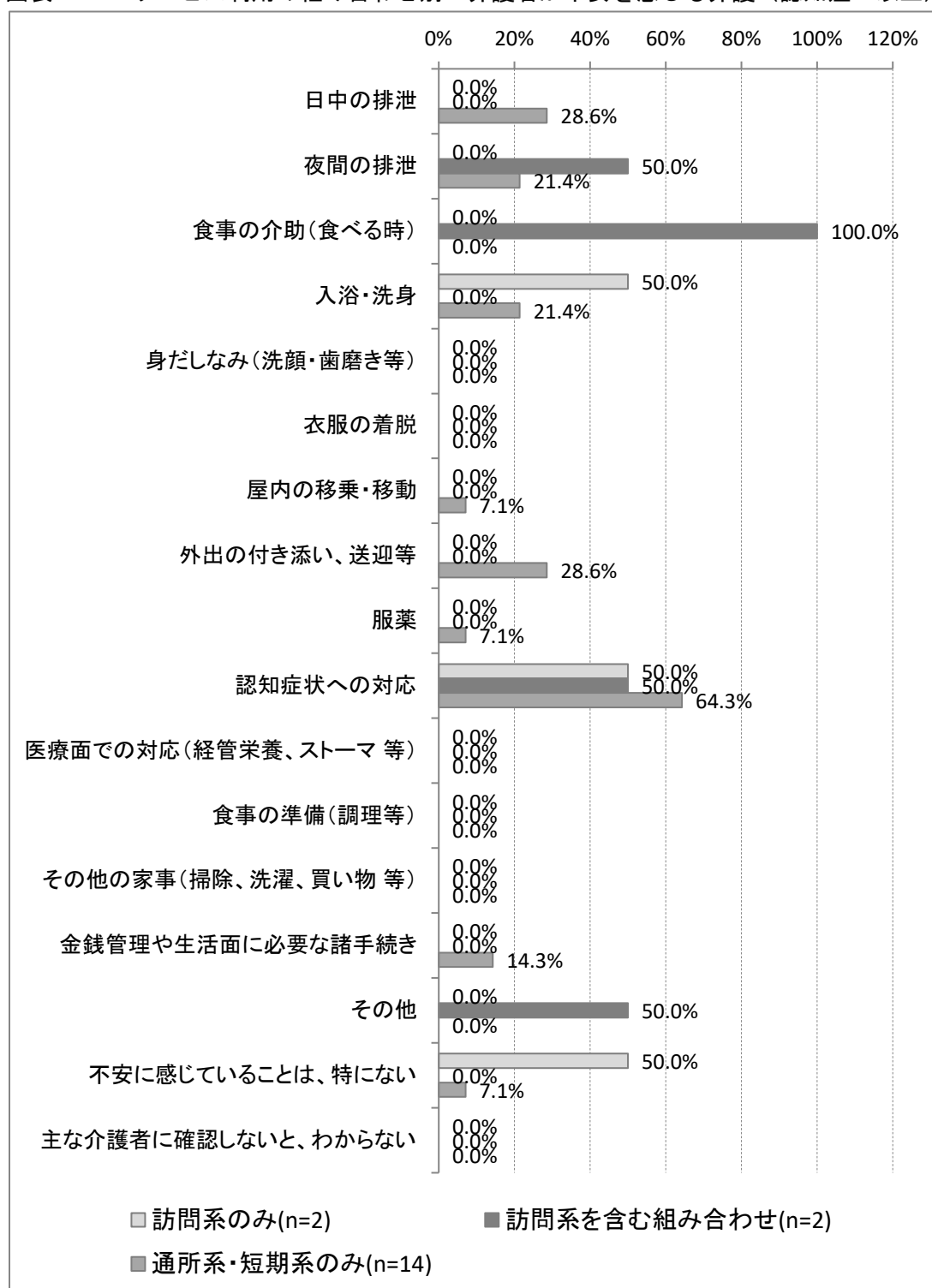
図表 1-16 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護(要介護3以上)



【サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護をサービス利用の組み合わせ別にみると、「訪問系のみ」では「入浴・洗身」、「認知症状への対応」、「不安を感じていることは、特にない」が50.0%と最も割合が高くなっている。「訪問系を含む組み合わせ」では「食事の介助（食べる時）」が100.0%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「認知症状への対応」、「その他」が50.0%となっている。「通所系・短期系のみ」では「認知症状への対応」が64.3%と最も割合が高く、次いで「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が28.6%、「夜間の排泄」、「入浴・洗身」が21.4%となっている。

図表 1-17 サービス利用の組み合わせ別・介護者が不安を感じる介護（認知症Ⅲ以上）



(6) 「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」の関係

【着目すべきポイント】

- (4)では、「サービス利用の組み合わせ」と「施設等検討の状況」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「施設等検討の状況」について、集計分析を行っています。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-18 と図表 1-19 が訪問系、図表 1-20 と図表 1-21 通所系、図表 1-22 と図表 1-23 が短期系について集計分析した結果です。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、施設等への入所・入居を「検討していない」割合が高くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

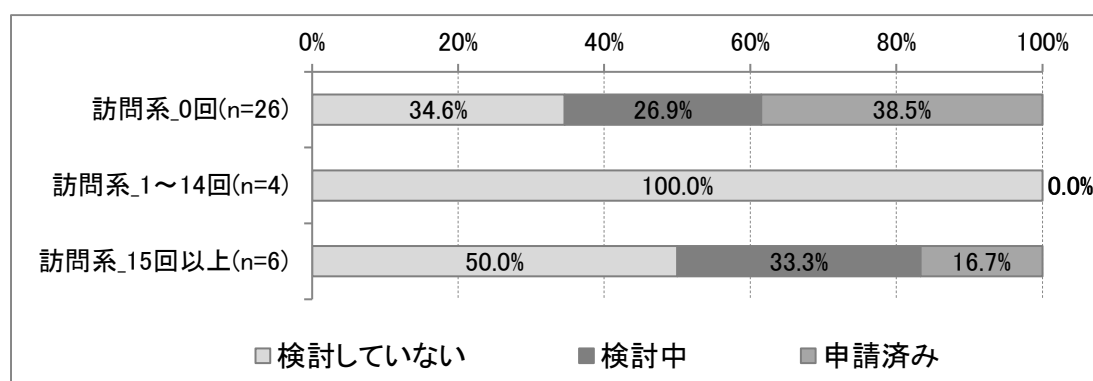
【留意事項】

- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、在宅限界点の向上に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (4)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「申請済み」が38.5%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が34.6%、「検討中」が26.9%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が16.7%となっている。

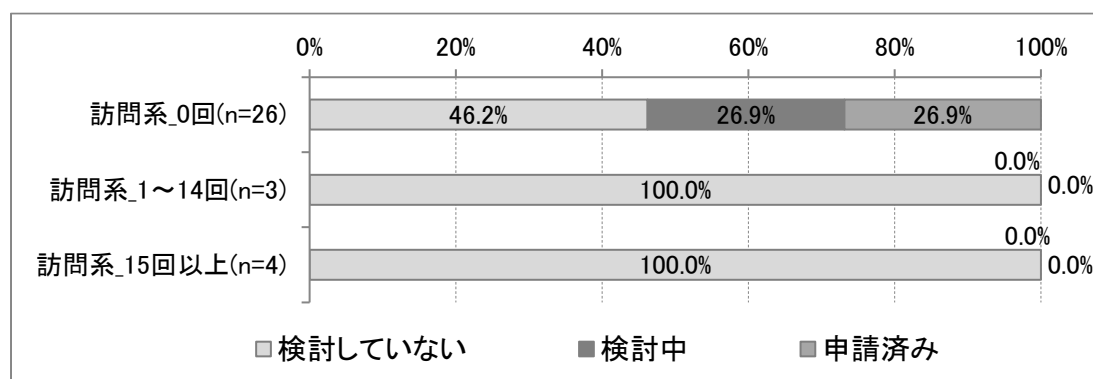
図表 1-18 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「検討していない」が46.2%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が26.9%となっている。「訪問系_1～14回」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっている。「訪問系_15回以上」では「検討していない」が100.0%と最も割合が高くなっている。

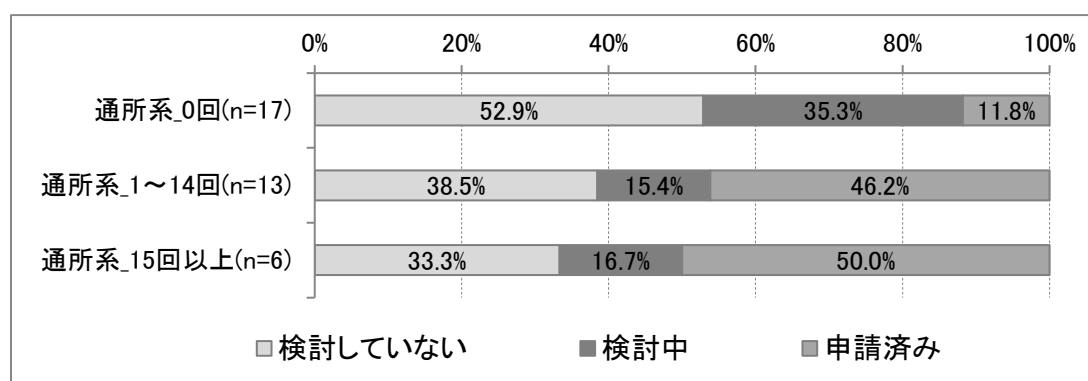
図表 1-19 サービス利用回数と施設等検討の状況（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が52.9%と最も割合が高く、次いで「検討中」が35.3%、「申請済み」が11.8%となっている。「通所系_1～14回」では「申請済み」が46.2%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が38.5%、「検討中」が15.4%となっている。「通所系_15回以上」では「申請済み」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が33.3%、「検討中」が16.7%となっている。

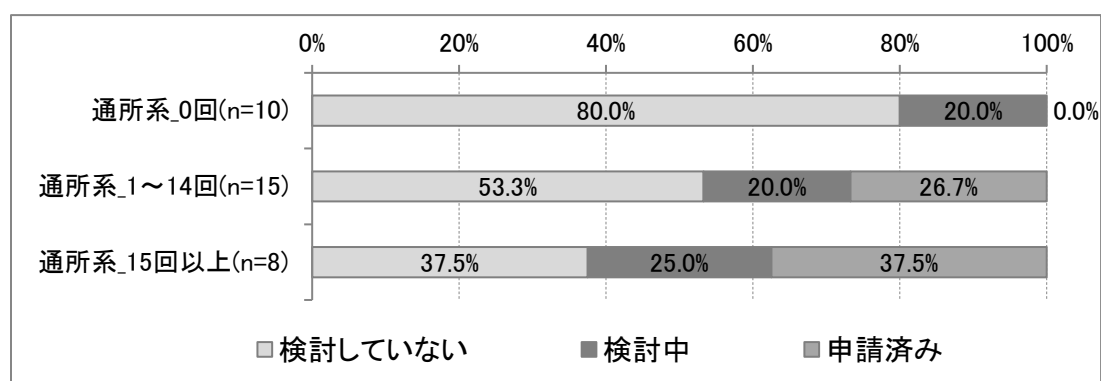
図表 1-20 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「検討していない」が80.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が20.0%となっている。「通所系_1～14回」では「検討していない」が53.3%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が26.7%、「検討中」が20.0%となっている。「通所系_15回以上」では「検討していない」、「申請済み」が37.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が25.0%となっている。

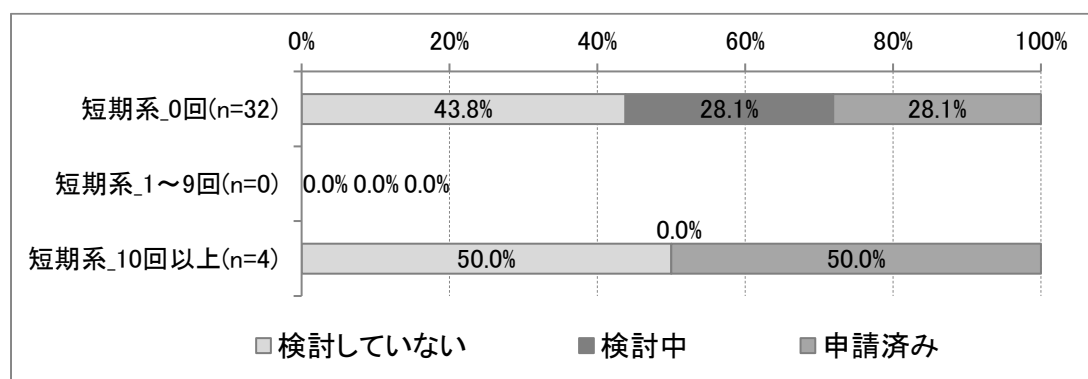
図表 1-21 サービス利用回数と施設等検討の状況（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が43.8%と最も割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が28.1%となっている。「短期系_10回以上」では「検討していない」、「申請済み」が50.0%と最も割合が高くなっている。

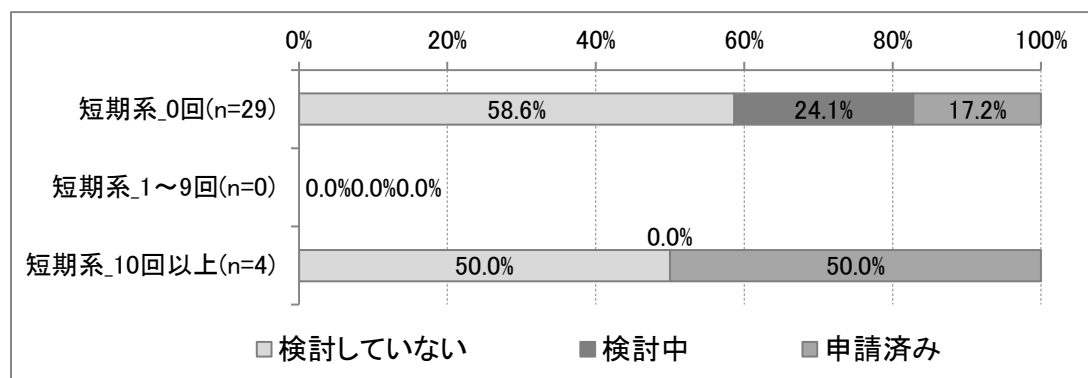
図表 1-22 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）】

施設等の検討状況を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「検討していない」が58.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が24.1%、「申請済み」が17.2%となっている。「短期系_10回以上」では「検討していない」、「申請済み」が50.0%と最も割合が高くなっている。

図表 1-23 サービス利用回数と施設等検討の状況（短期系、認知症Ⅲ以上）



(7) 「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係

【着目すべきポイント】

- (5)では、「サービス利用の組み合わせ」と「主な介護者が不安に感じる介護」の関係を分析しましたが、ここでは「サービス利用の回数」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、集計分析を行っています。
- 「在宅生活の継続に向けてポイントとなる介護（主な介護者の不安が大きな介護 等）」について、「主な介護者が不安に感じる」割合を下げることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「サービス利用の回数」との関係を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。
- 図表 1-24 と図表 1-25 が訪問系、図表 1-26 と図表 1-27 が通所系、図表 1-28 と図表 1-29 が短期系について集計分析した結果です。それぞれ、要介護3以上と認知症自立度Ⅲ以上に分けて集計分析を行っています。
- 「サービス利用の回数」の増加に伴い、「主な介護者が不安に感じる」割合が低くなるような支援・サービスの整備を進めていくことで、在宅限界点の向上につながるなどが期待されます。

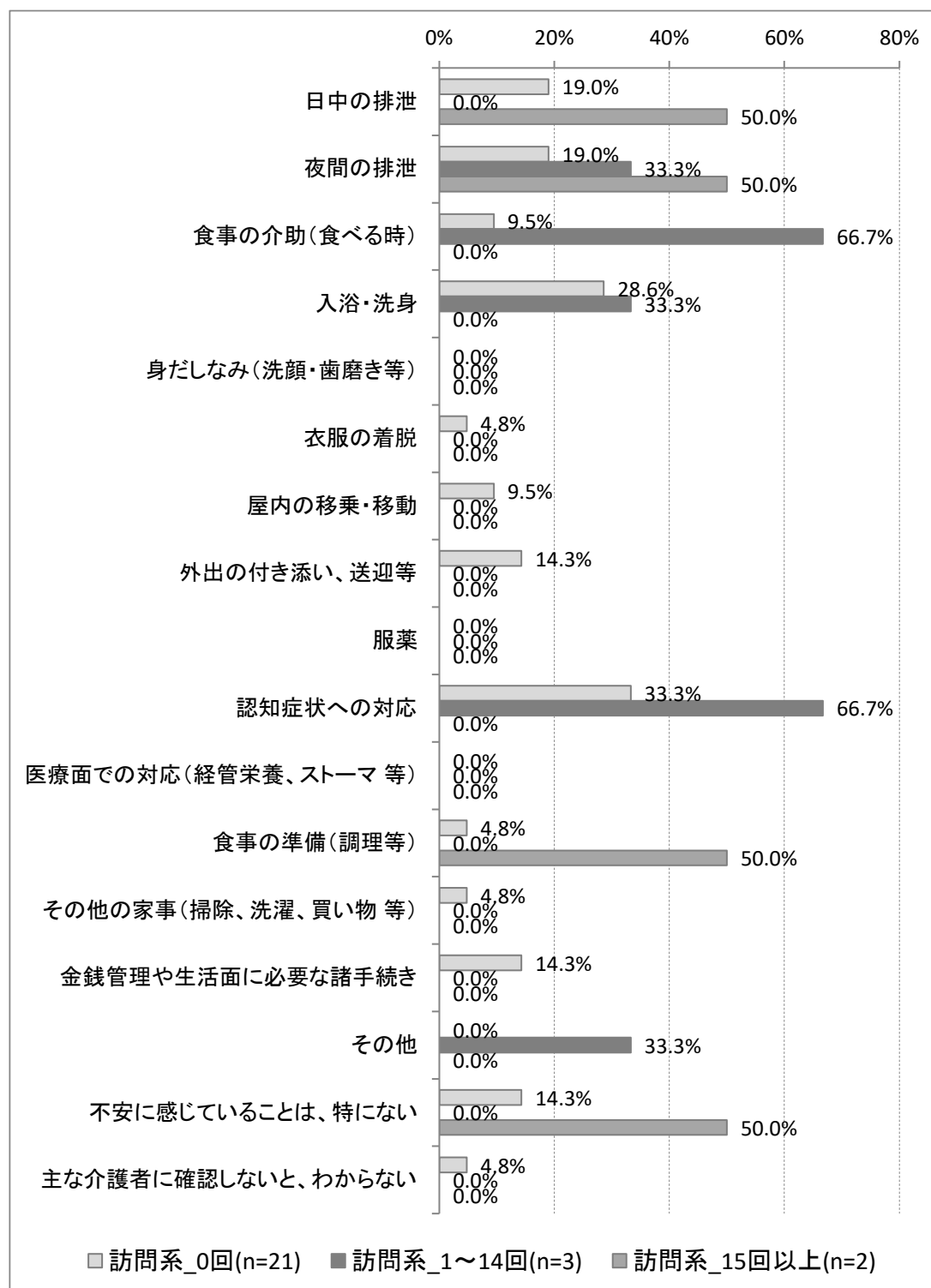
【留意事項】

- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と、ここでの「サービス利用の回数」の2つの分析結果を参考に、介護者不安の軽減に資するサービス整備方針の検討につなげていくことが重要です。
- (5)の「サービス利用の組み合わせ」と同様、ケアマネジメントに直結する内容であることから、ここでの集計分析結果やその解釈については、ケアマネジャー等を含む専門職との議論・考察を交えながら、地域ごとにその効果等についての議論を深めていくことが重要となります。

【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）】

介護者が不安に感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が33.3%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が28.6%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」が19.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「食事の介助（食べる時）」、「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「その他」が33.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「食事の準備（調理等）」、「不安に感じていることは、特にない」が50.0%と最も割合が高くなっている。

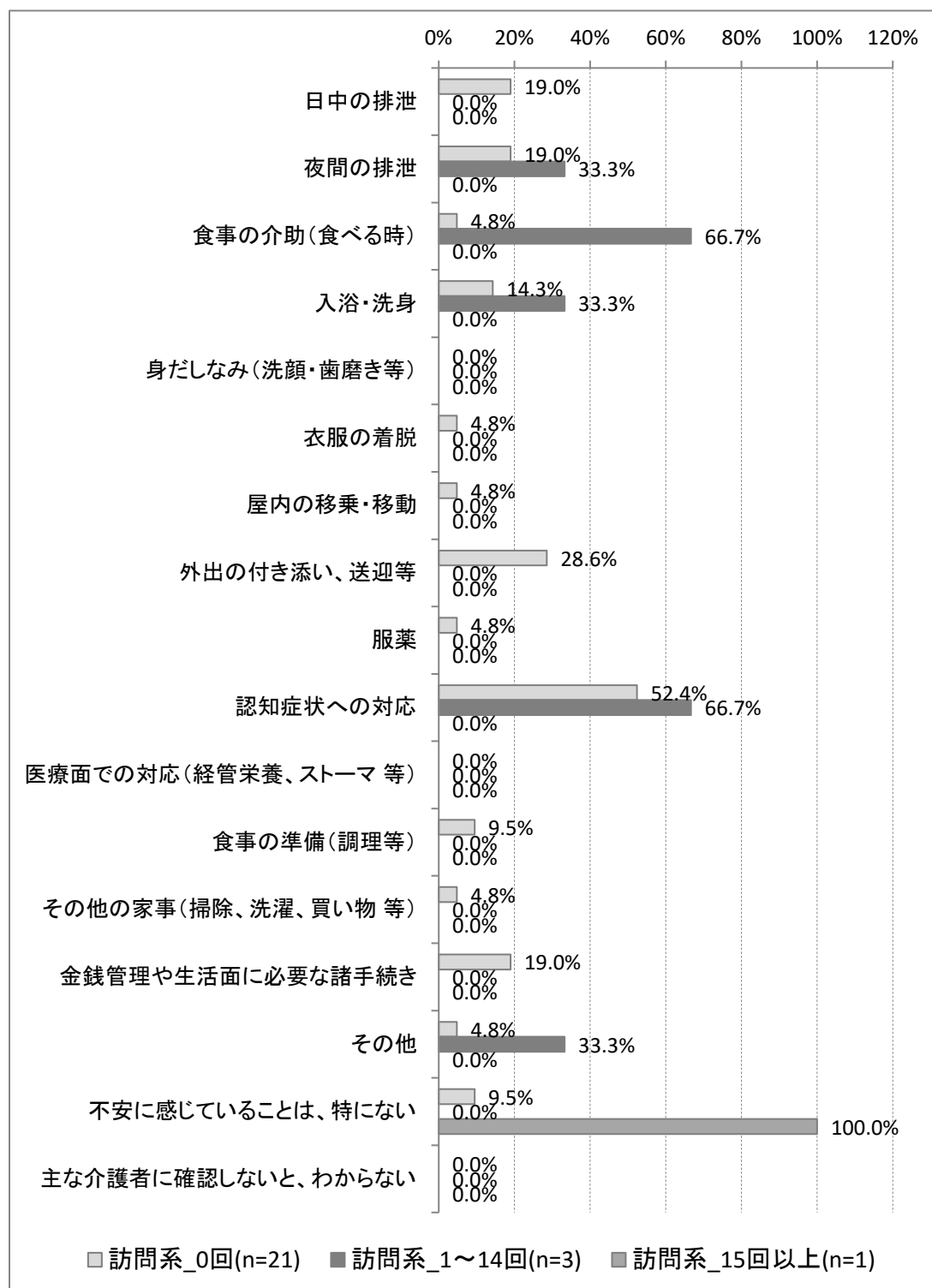
図表 1-24 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を訪問系の利用回数別にみると、「訪問系_0回」では「認知症状への対応」が52.4%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が28.6%、「日中の排泄」、「夜間の排泄」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が19.0%となっている。「訪問系_1～14回」では「食事の介助（食べる時）」、「認知症状への対応」が66.7%と最も割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「入浴・洗身」、「その他」が33.3%となっている。「訪問系_15回以上」では「不安に感じていることは、特にない」が100.0%と最も割合が高くなっている。

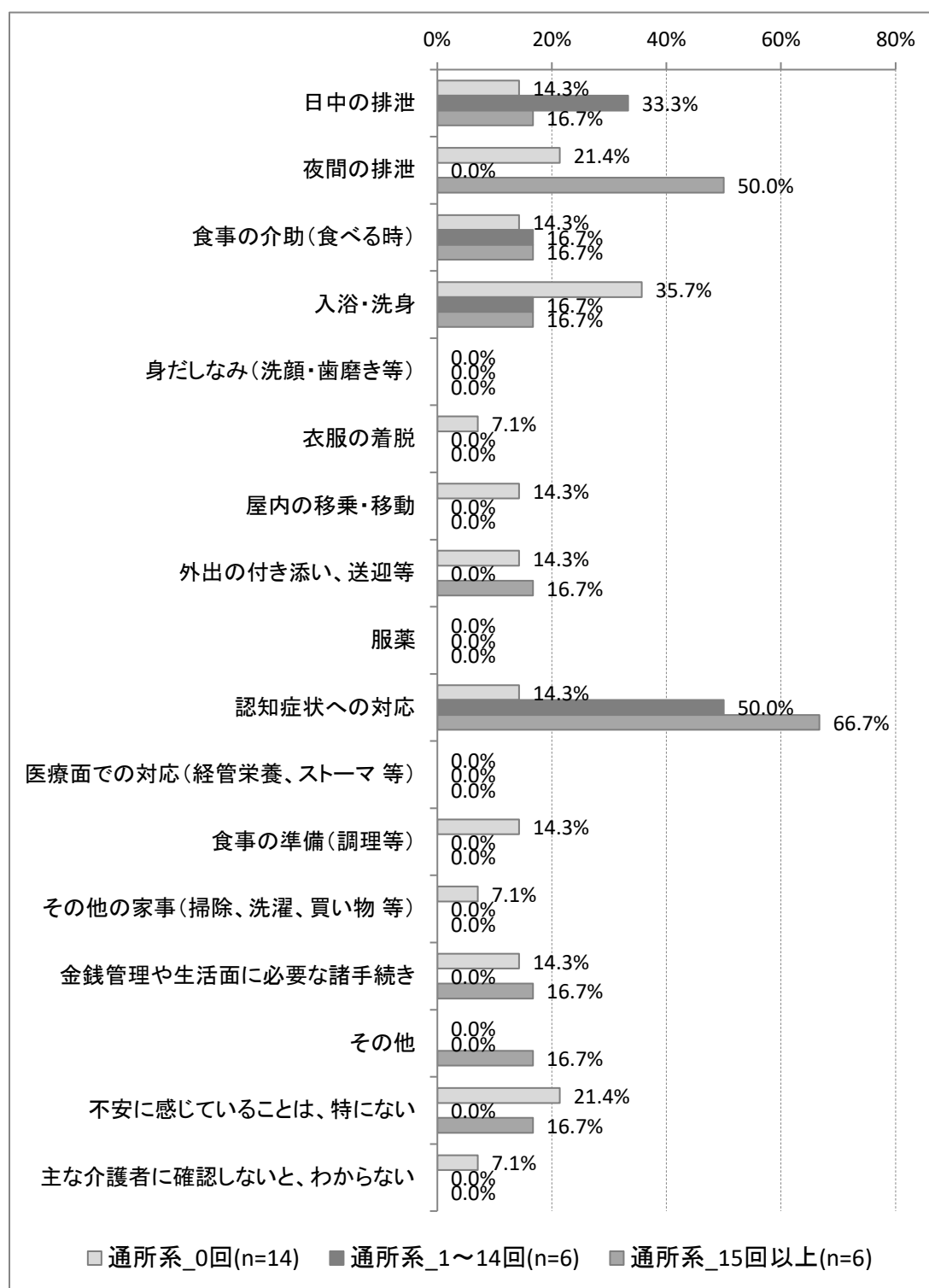
図表 1-25 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（訪問系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、要介護3以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「入浴・洗身」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「不安に感じていることは、特にない」が21.4%、「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「屋内の移乗・移動」、「外出の付き添い、送迎等」、「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が14.3%となっている。「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」が33.3%、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」が16.7%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が50.0%、「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「入浴・洗身」、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「その他」、「不安に感じていることは、特にない」が16.7%となっている。

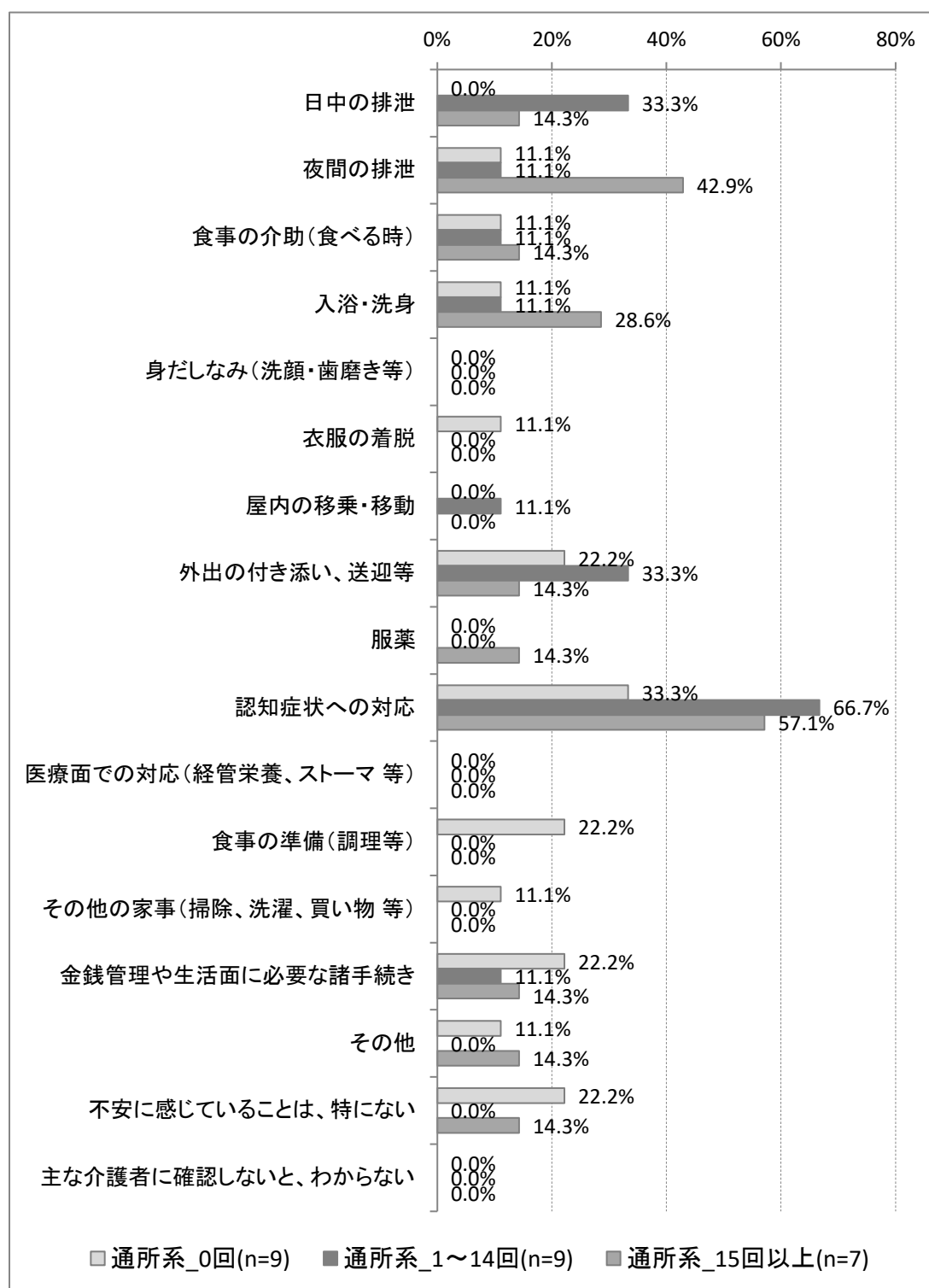
図表 1-26 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護(通所系、認知症Ⅲ以上)】

介護者が不安を感じる介護を通所系の利用回数別にみると、「通所系_0回」では「認知症状への対応」が33.3%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備(調理等)」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」、「不安に感じていることは、特にない」が22.2%、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「入浴・洗身」、「衣服の着脱」、「その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)」、「その他」が11.1%となっている。「通所系_1～14回」では「認知症状への対応」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」が33.3%、「夜間の排泄」、「食事の介助(食べる時)」、「入浴・洗身」、「屋内の移乗・移動」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が11.1%となっている。「通所系_15回以上」では「認知症状への対応」が57.1%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」が42.9%、「入浴・洗身」が28.6%となっている。

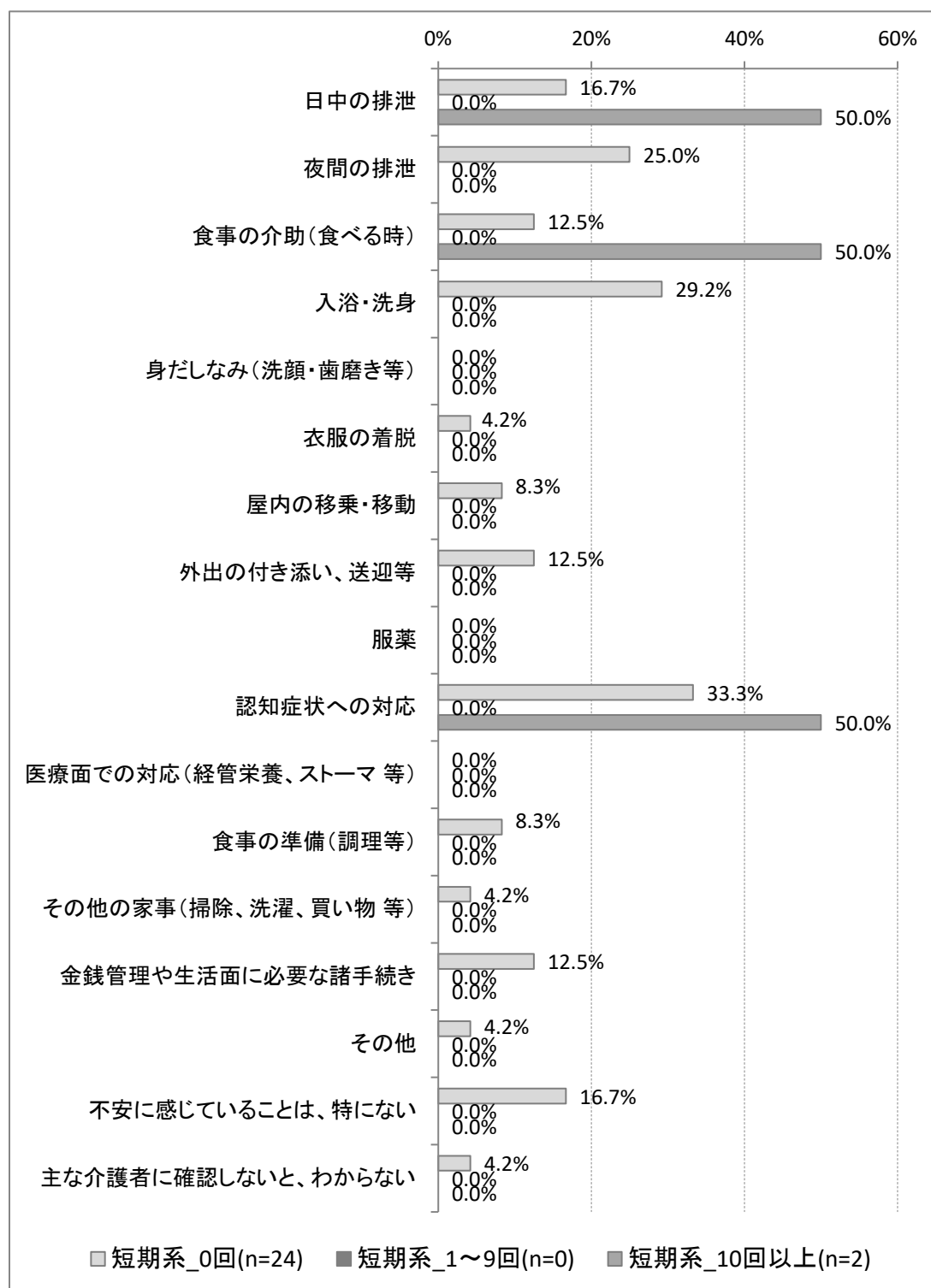
図表 1-27 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（通所系、認知症Ⅲ以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が33.3%と最も割合が高く、次いで「入浴・洗身」が29.2%、「夜間の排泄」が25.0%となっている。「短期系_10回以上」では「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」、「認知症状への対応」が50.0%と最も割合が高くなっている。

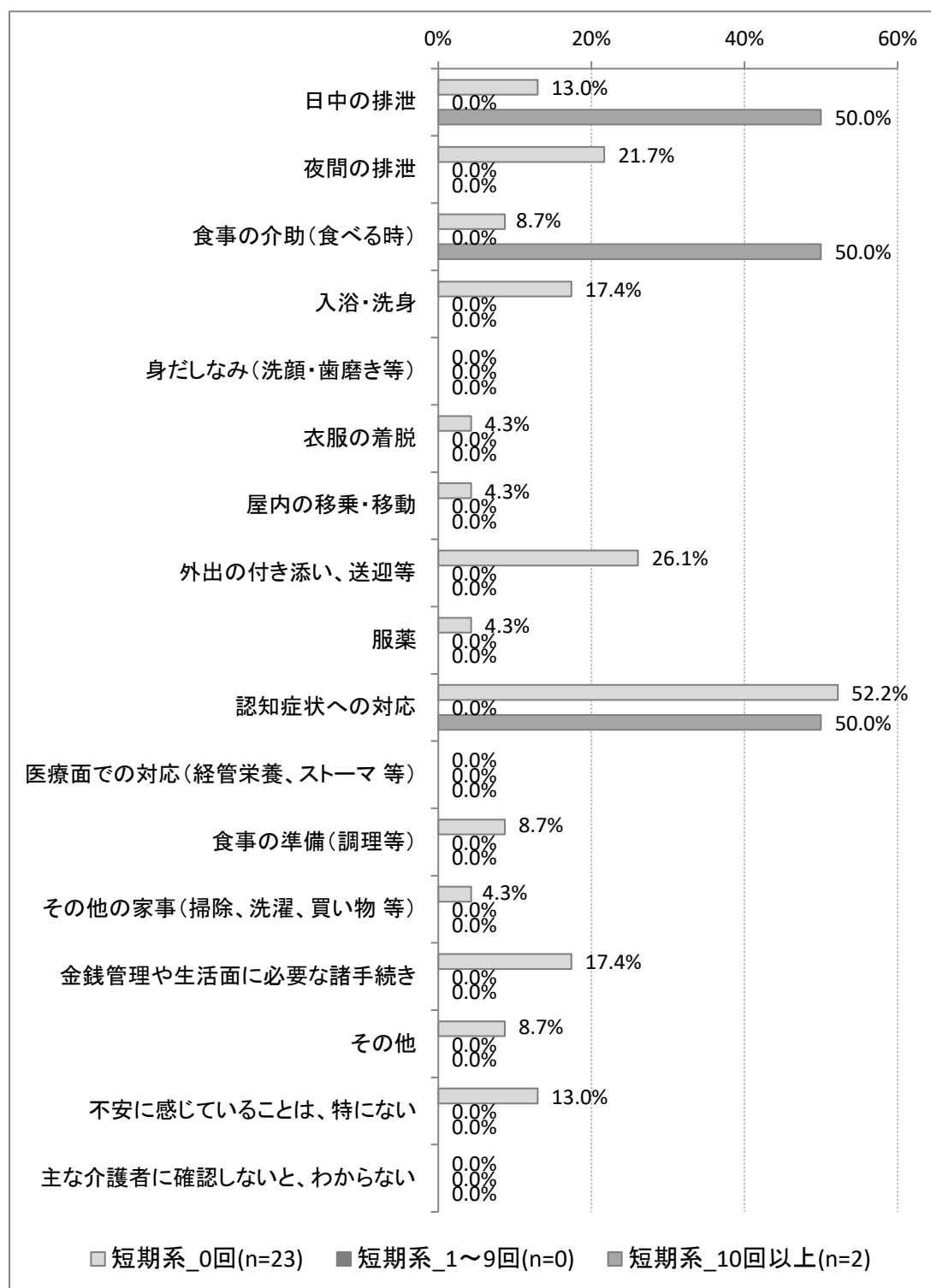
図表 1-28 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、要介護3以上）



【サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）】

介護者が不安を感じる介護を短期系の利用回数別にみると、「短期系_0回」では「認知症状への対応」が52.2%と最も割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が26.1%、「夜間の排泄」が21.7%となっている。「短期系_10回以上」では「日中の排泄」、「食事の介助（食べる時）」が50.0%と最も割合が高くなっている。

図表 1-29 サービス利用回数別・介護者が不安を感じる介護（短期系、認知症Ⅲ以上）



2 仕事と介護の両立に向けた支援・サービスの提供体制の検討

2.1 集計・分析の狙い

- ここでは、介護者の就労継続見込みの向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、「主な介護者の就労状況」と「主な介護者の就労継続見込み」の2つの視点からの集計を行っています。
- 具体的には、「就労している介護者（フルタイム勤務、パートタイム勤務）」と「就労していない介護者」の違いに着目し、就労している介護者の属性や介護状況の特徴別に、必要な支援を集計・分析しています。
- さらに、「どのようなサービス利用」や「働き方の調整・職場の支援」を受けている場合に、「就労を継続することができる」という見込みを持つことができるのかを分析するために、主な介護者の「就労継続見込み」と、「主な介護者が行っている介護」や「介護保険サービスの利用の有無」、「介護のための働き方の調整」などとのクロス集計を行っています。
- 上記の視点からの分析では、要介護度や認知症高齢者の日常生活自立度といった要介護者の状態別の分析も加え、要介護者の自立度が重くなっても、在宅生活や就労を継続できる支援のあり方を検討しています。

2.2 集計結果と着目すべきポイント

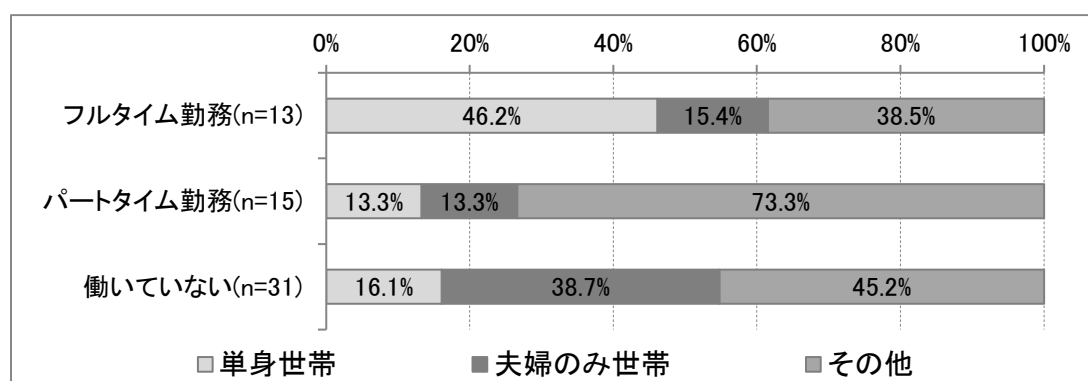
(1) 基本集計

- 主な介護者の就労状況（フルタイム勤務・パートタイム勤務・働いていない）別に、世帯や介護者の特徴などの基礎的な集計を行っています。
- 主な介護者の属性や、要介護者の要介護度・認知症自立度について、就労状況別にその状況を確認してください。

【就労状況別・世帯類型】

世帯類型を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「単身世帯」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が38.5%、「夫婦のみ世帯」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「その他」が73.3%ともっとも割合が高く、次いで「単身世帯」、「夫婦のみ世帯」が13.3%となっている。「働いていない」では「その他」が45.2%ともっとも割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が38.7%、「単身世帯」が16.1%となっている。

図表 2-1 就労状況別・世帯類型

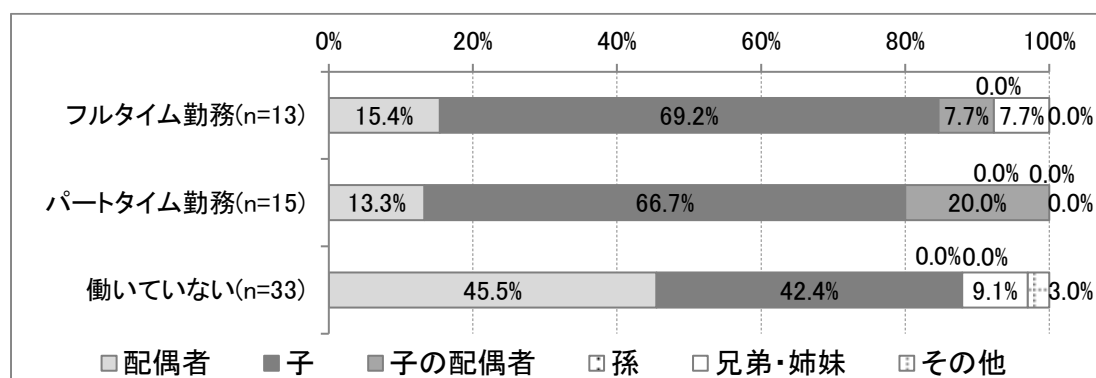


【就労状況別・★主な介護者の本人との関係】

主な介護者を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「子」が69.2%ともっとも割合が高く、次いで「配偶者」が15.4%、「子の配偶者」、「兄弟・姉妹」が7.7%となっている。

「パートタイム勤務」では「子」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「子の配偶者」が20.0%、「配偶者」が13.3%となっている。「働いていない」では「配偶者」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「子」が42.4%、「兄弟・姉妹」が9.1%となっている。

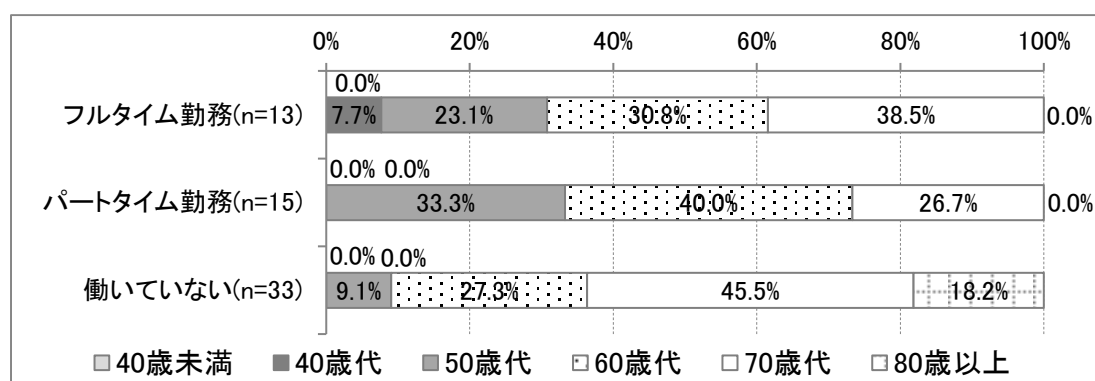
図表 2-2 就労状況別・★主な介護者の本人との関係



【就労状況別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「70 歳代」が 38.5% ともっとも割合が高く、次いで「60 歳代」が 30.8%、「50 歳代」が 23.1% となっている。「パートタイム勤務」では「60 歳代」が 40.0% ともっとも割合が高く、次いで「50 歳代」が 33.3%、「70 歳代」が 26.7% となっている。「働いていない」では「70 歳代」が 45.5% ともっとも割合が高く、次いで「60 歳代」が 27.3%、「80 歳以上」が 18.2% となっている。

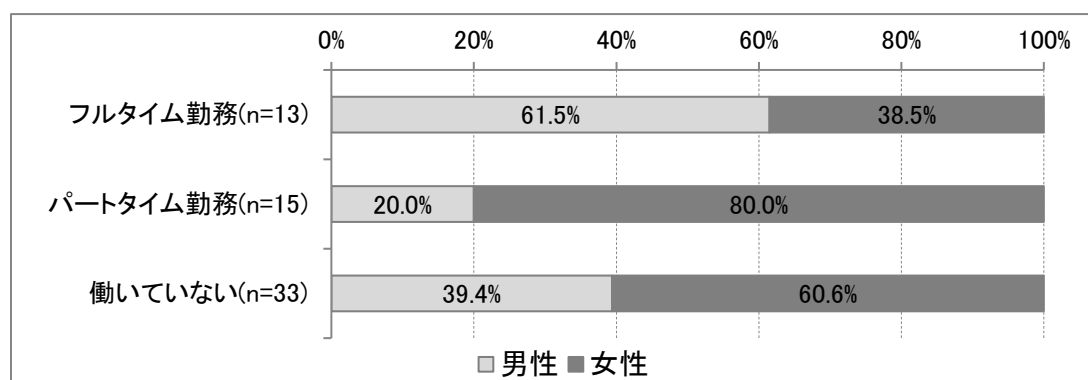
図表 2-3 就労状況別・主な介護者の年齢



【就労状況別・主な介護者の性別】

介護者の性別を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「男性」が 61.5% ともっとも割合が高く、次いで「女性」が 38.5% となっている。「パートタイム勤務」では「女性」が 80.0% ともっとも割合が高く、次いで「男性」が 20.0% となっている。「働いていない」では「女性」が 60.6% ともっとも割合が高く、次いで「男性」が 39.4% となっている。

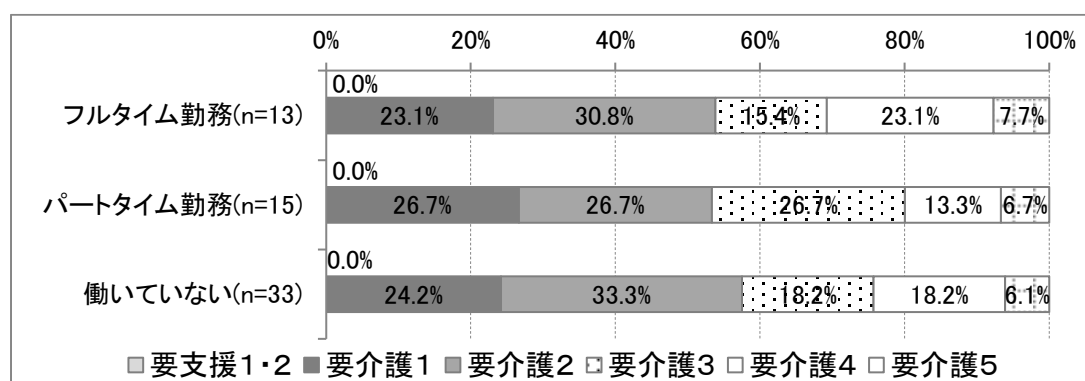
図表 2-4 就労状況別・主な介護者の性別



【就労状況別・要介護度】

二次判定結果を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「要介護2」が30.8%と最も割合が高く、次いで「要介護1」、「要介護4」が23.1%、「要介護3」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「要介護1」、「要介護2」、「要介護3」が26.7%と最も割合が高く、次いで「要介護4」が13.3%、「要介護5」が6.7%となっている。「働いていない」では「要介護2」が33.3%と最も割合が高く、次いで「要介護1」が24.2%、「要介護3」、「要介護4」が18.2%となっている。

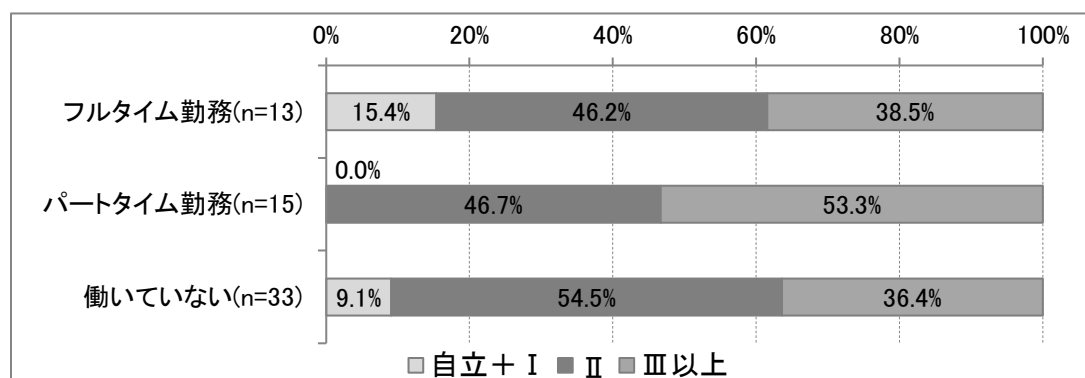
図表 2-5 就労状況別・要介護度



【就労状況別・認知症自立度】

認知症高齢者自立度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「Ⅱ」が46.2%と最も割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が38.5%、「自立+Ⅰ」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「Ⅲ以上」が53.3%と最も割合が高く、次いで「Ⅱ」が46.7%となっている。「働いていない」では「Ⅱ」が54.5%と最も割合が高く、次いで「Ⅲ以上」が36.4%、「自立+Ⅰ」が9.1%となっている。

図表 2-6 就労状況別・認知症自立度



(2) 就労状況別の、主な介護者が行っている介護と就労継続見込み

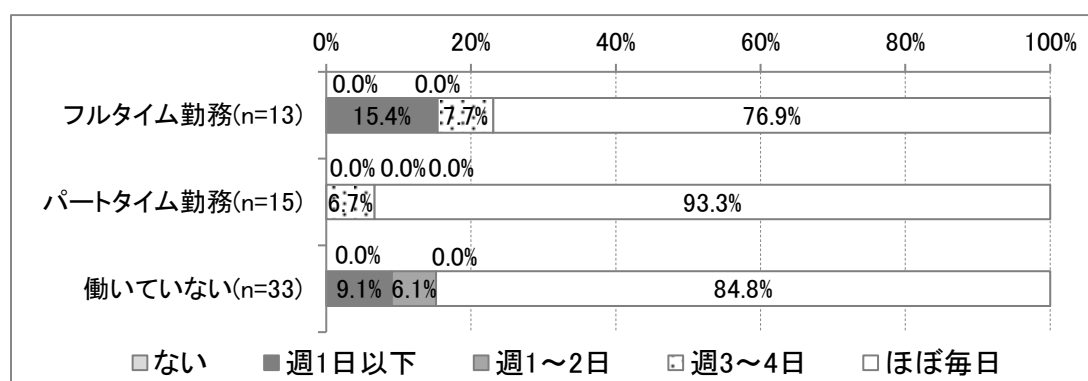
【着目すべきポイント】

- ここでは、「主な介護者が行っている介護」と「今後の就労継続見込み」について、主な介護者の就労状況別に集計分析をしています（図表 2-8、図表 2-9）。
- 「主な介護者が行っている介護」について、例えば、「働いていない」人と比較して、「フルタイム勤務」や「パートタイム勤務」で少ない介護は、働いている介護者が、他の介護者や介護サービスの支援を必要としているものと考えられます。
- 「今後の就労継続見込み」については、「就労状況」との関係に加え、「要介護度」や「認知症自立度」別についても、集計分析を行っています。これにより、要介護者の重度化に伴って就労継続見込みを困難と考える人が増加するかどうかを把握することができます。
- なお、就労継続見込みの分析においては、「問題なく、続けていける」の割合と、「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」をあわせた「続けていける」と考えている人の割合の2つの指標に着目しています（図表 2-10、図表 2-11）。

【就労状況別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「ほぼ毎日」が76.9%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が15.4%、「週3～4日」が7.7%となっている。「パートタイム勤務」では「ほぼ毎日」が93.3%と最も割合が高く、次いで「週3～4日」が6.7%となっている。「働いていない」では「ほぼ毎日」が84.8%と最も割合が高く、次いで「週1日以下」が9.1%、「週1～2日」が6.1%となっている。

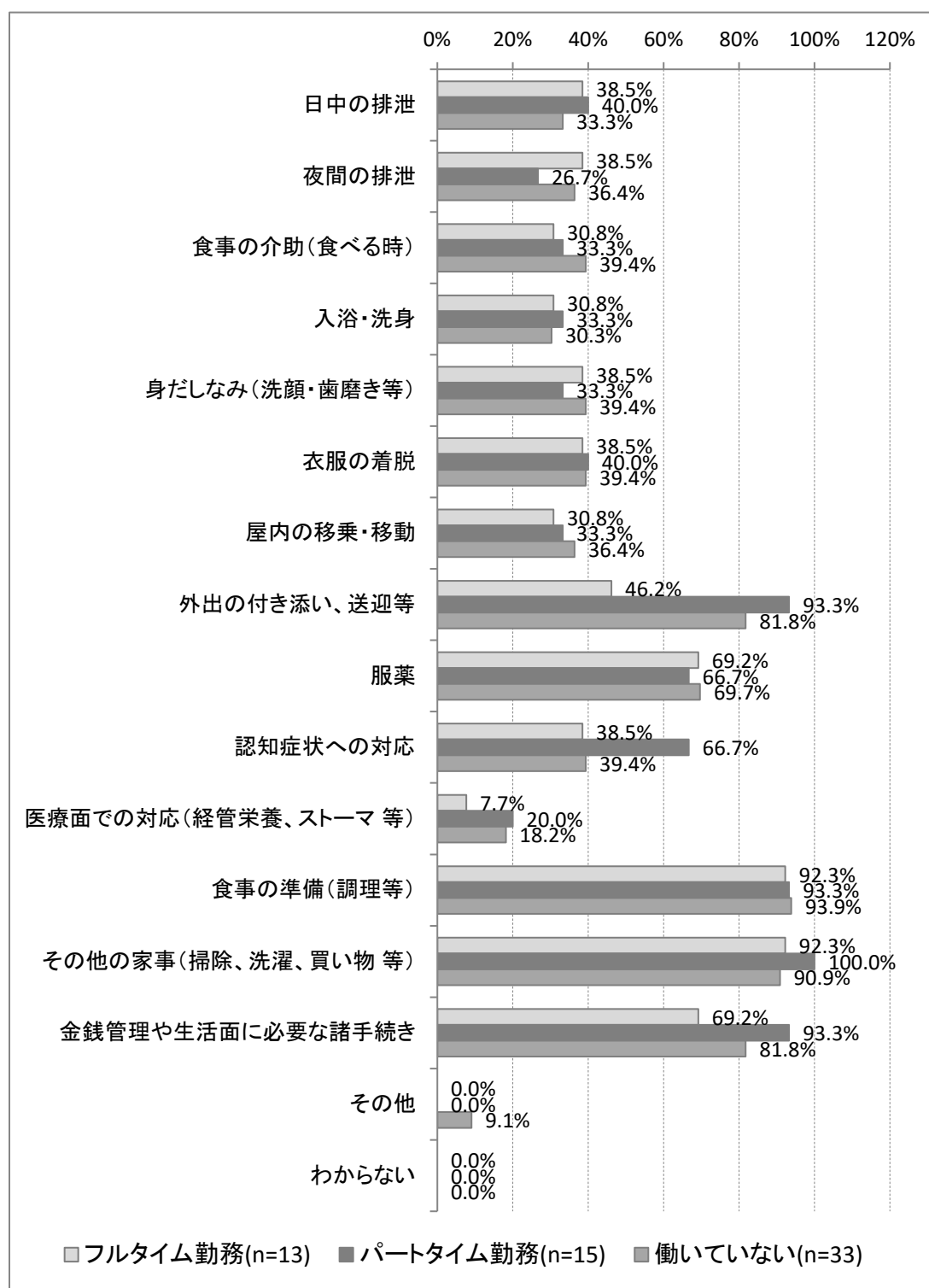
図表 2-7 就労状況別・家族等による介護の頻度



【就労状況別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 92.3% ともっとも割合が高く、次いで「服薬」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 69.2%、「外出の付き添い、送迎等」が 46.2% となっている。「パートタイム勤務」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 100.0% ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」、「食事の準備（調理等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 93.3%、「服薬」、「認知症状への対応」が 66.7% となっている。「働いていない」では「食事の準備（調理等）」が 93.9% ともっとも割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が 90.9%、「外出の付き添い、送迎等」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 81.8% となっている。

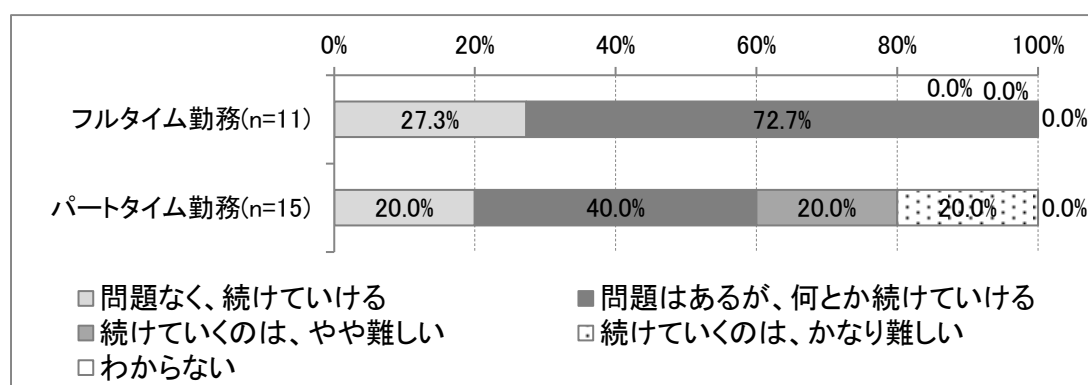
図表 2-8 就労状況別・★主な介護者が行っている介護



【就労状況別・就労継続見込み】

介護者の就労継続の可否に係る意識を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が72.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が27.3%となっている。「パートタイム勤務」では「問題はあるが、何とか続けていける」が40.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が20.0%となっている。

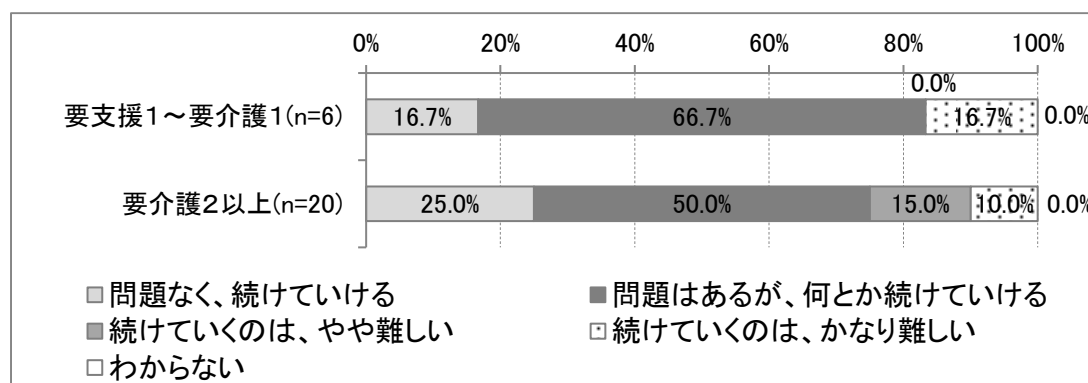
図表 2-9 就労状況別・就労継続見込み



【要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）】

介護者の就労継続の可否に係る意識を二次判定結果別にみると、「要支援1～要介護1」では「問題はあるが、何とか続けていける」が66.7%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、かなり難しい」が16.7%となっている。「要介護2以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が50.0%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」が25.0%、「続けていくのは、かなり難しい」が15.0%となっている。

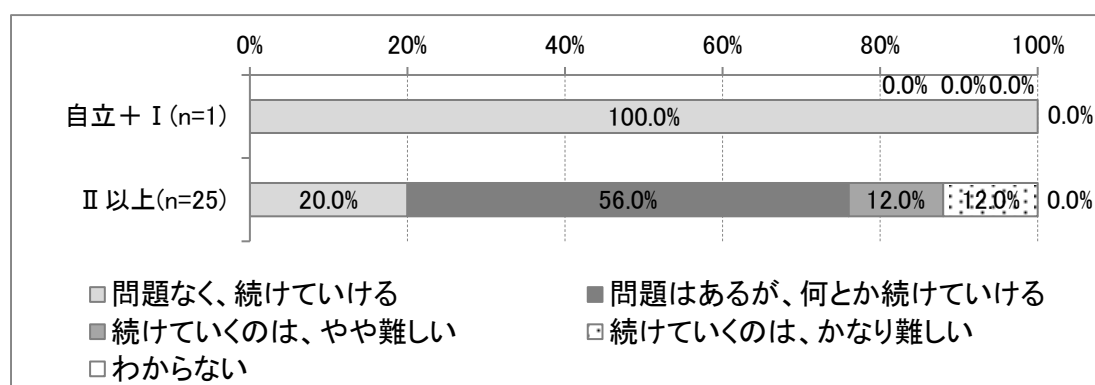
図表 2-10 要介護度別・就労継続見込み（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【認知症自立度別・就労継続見込み(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「問題なく、続けていける」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。「Ⅱ以上」では「問題はあるが、何とか続けていける」が56.0%ともっとも割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」が20.0%、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が12.0%となっている。

図表 2-11 認知症自立度別・就労継続見込み（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(3) 「介護保険サービスの利用状況」・「主な介護者が不安に感じる介護」と「就労継続見込み」の関係

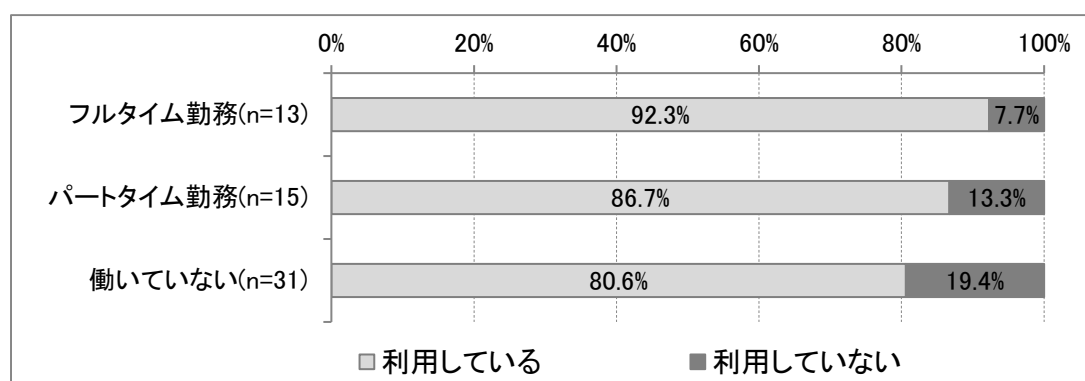
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護保険サービスの利用状況」と「主な介護者が不安に感じる介護」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-12～図表 2-15）。
- 「介護保険サービスの利用状況」と「就労継続見込み」の関係についての集計分析から、サービス利用による就労継続見込みへの影響を把握することができます。さらに、サービスを利用していない人の「サービス未利用の理由」について、就労継続が困難と考える人が、そうでない人と比較して特徴がみられる理由に着目することで、必要なサービス利用がなされているかどうかを推測することができます。
- 例えば、就労継続が困難と考える人において、サービスを「利用していない」割合が高く、かつサービスを利用していない理由として、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が低い割合にとどまっている場合には、サービス利用の必要性が低くないにも関わらず、サービスの利用がなされていないこととなります（図表 2-13、図表 2-14）。
- 「主な介護者が不安に感じる介護」については、就労継続見込みの困難化に伴い、どのような介護等で不安が増加しているかに着目することで、在宅生活を継続しながらの就労継続について、介護者がその可否を判断するポイントとなる可能性がある介護等を把握することができます。

【就労状況別・★介護保険サービス利用の有無】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用している」が92.3%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が7.7%となっている。「パートタイム勤務」では「利用している」が86.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が13.3%となっている。「働いていない」では「利用している」が80.6%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が19.4%となっている。

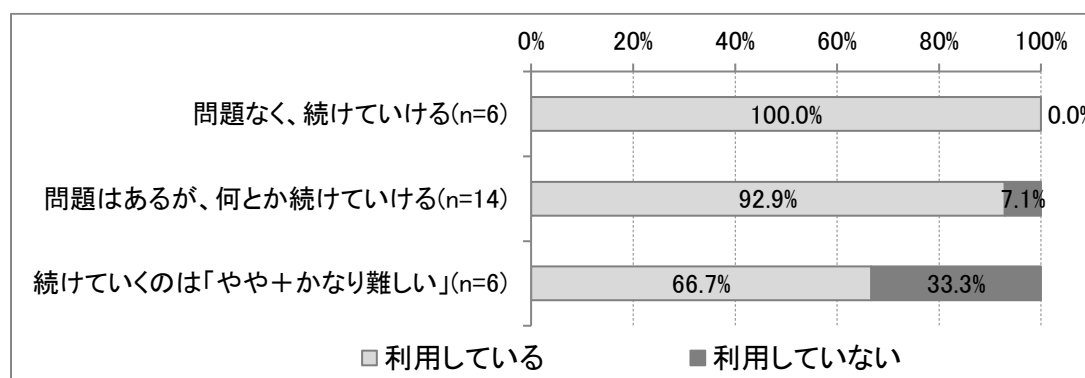
図表 2-12 就労状況別・★介護保険サービス利用の有無



【就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護保険サービスの利用の有無を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「利用している」が100.0%と最も割合が高くなっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「利用している」が92.9%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が7.1%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「利用している」が66.7%と最も割合が高く、次いで「利用していない」が33.3%となっている。

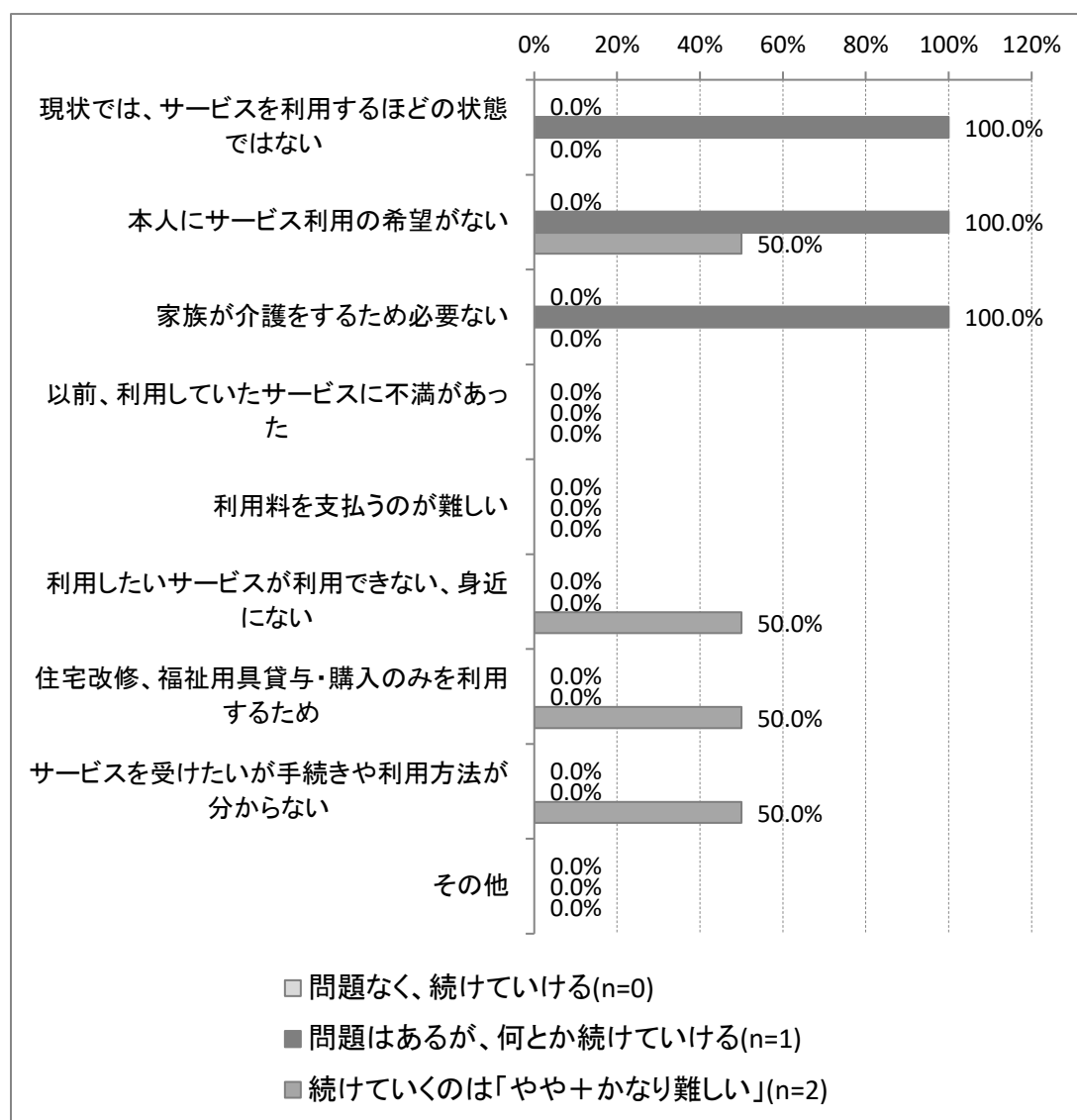
図表 2-13 就労継続見込み別・★介護保険サービス利用の有無（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【就労継続見込み別・★サービス未利用の理由(フルタイム勤務+パート勤務)】

未利用の理由を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題はあるが、何とか続けていける」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「本人にサービス利用の希望がない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が50.0%ともっとも割合が高くなっている。

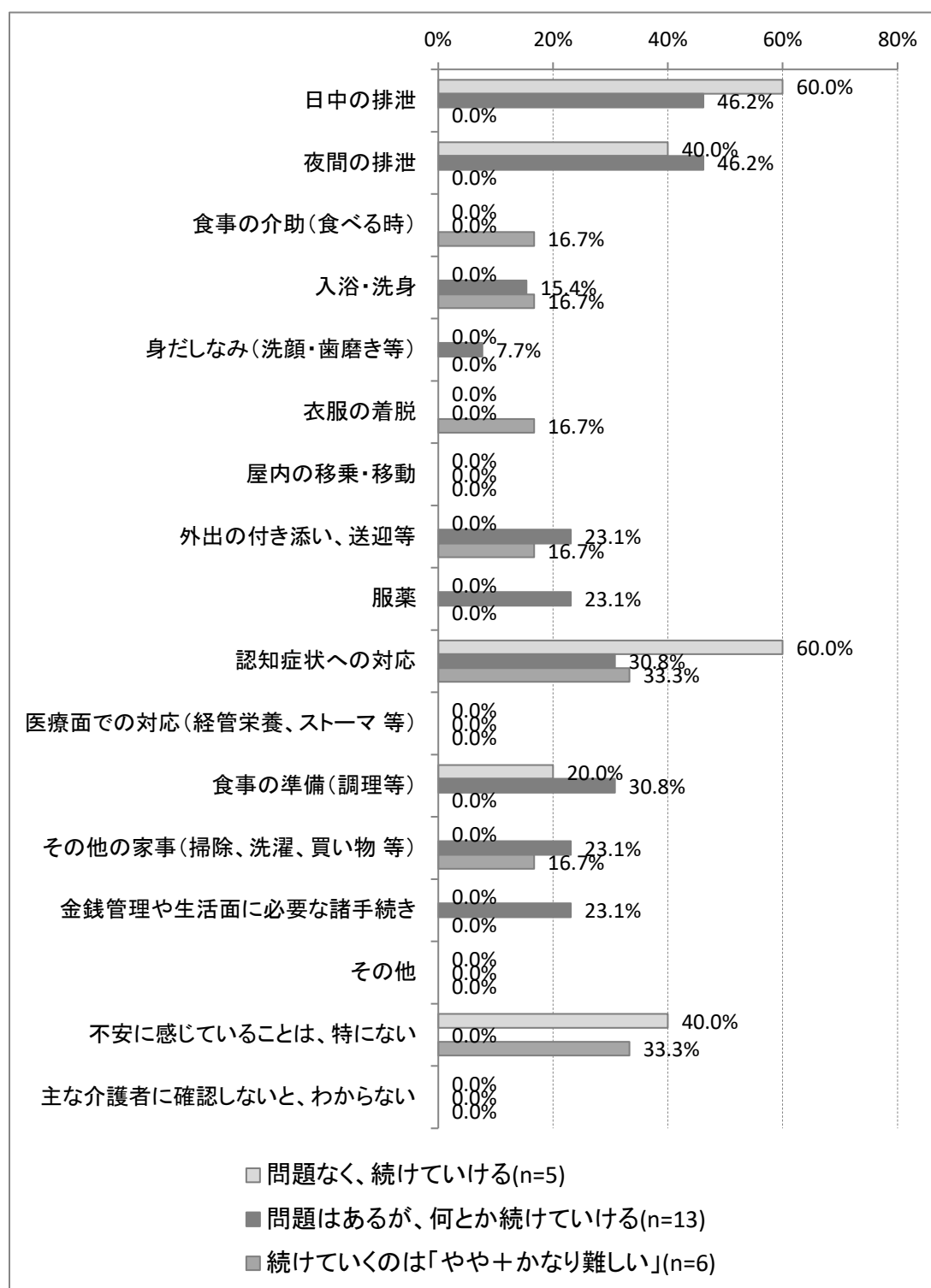
図表 2-14 就労継続見込み別・★サービス未利用の理由（フルタイム勤務+パート勤務）



【就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護(フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

介護者が不安に感じる介護を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「日中の排泄」、「認知症状への対応」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「夜間の排泄」、「不安に感じていることは、特にない」が40.0%、「食事の準備（調理等）」が20.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「日中の排泄」、「夜間の排泄」が46.2%ともっとも割合が高く、次いで「認知症状への対応」、「食事の準備（調理等）」が30.8%、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が23.1%となっている。「続けていくのは「やや＋かなり難しい」では「認知症状への対応」、「不安に感じていることは、特にない」が33.3%ともっとも割合が高くなっている。

図表 2-15 就労継続見込み別・介護者が不安に感じる介護（フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(4) 「サービス利用の組み合わせ」と「就労継続見込み」の関係

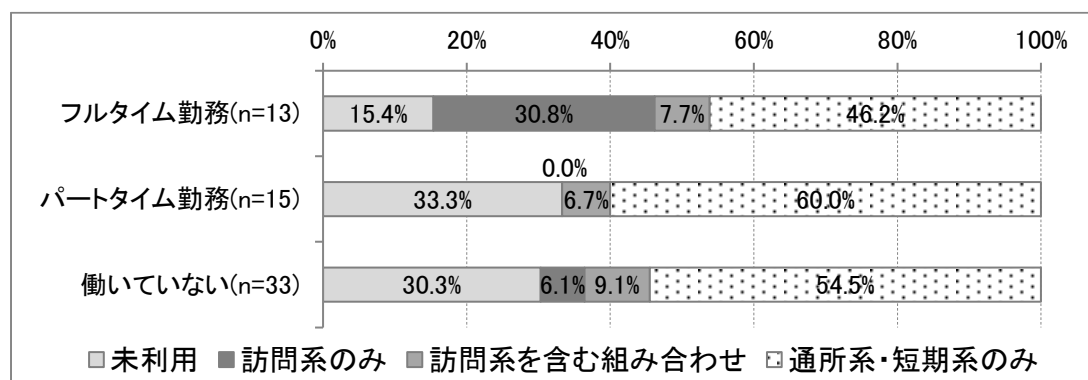
【着目すべきポイント】

- ここでは、「サービス利用の組み合わせ」について、組み合わせのパターンを簡略化し、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています。さらに、訪問系サービスについては、要介護2以上、認知症自立度Ⅱ以上に分けて集計分析を行っています（図表2-16～図表2-18）。
- ここから、主な介護者の就労状況によって、「サービス利用の組み合わせ」に差がみられるかどうかを把握することができます。
- また、「訪問系サービスの利用の有無」と「就労継続見込み」の関係を集計分析することで、訪問系サービスの利用が、就労継続見込みの「問題なく、続けていける」「問題はあるが、何とか続けていける」の割合に影響を与えているかどうかを推測することが可能です。

【就労状況別・サービス利用の組み合わせ】

サービス利用の組み合わせを介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が46.2%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が30.8%、「未利用」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「通所系・短期系のみ」が60.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が33.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が6.7%となっている。「働いていない」では「通所系・短期系のみ」が54.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が30.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が9.1%となっている。

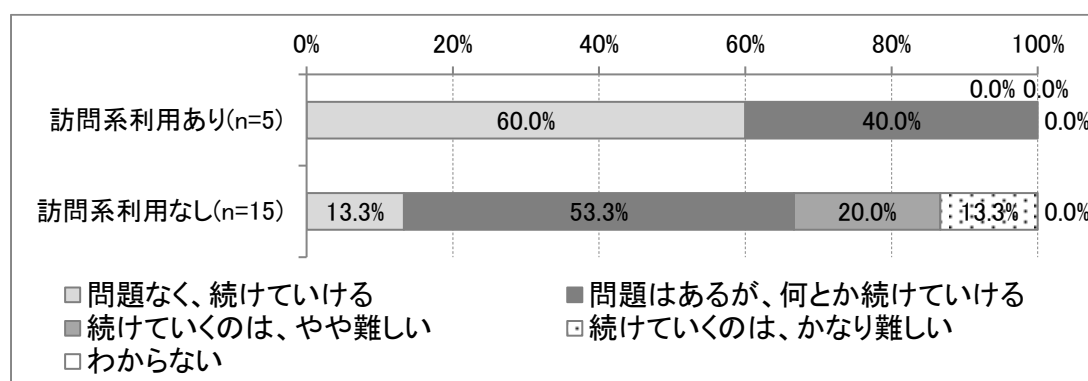
図表 2-16 就労状況別・サービス利用の組み合わせ



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題なく、続けていける」が60.0%と最も割合が高く、次いで「問題はあるが、何とか続けていける」が40.0%となっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が53.3%と最も割合が高く、次いで「続けていくのは、やや難しい」が20.0%、「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、かなり難しい」が13.3%となっている。

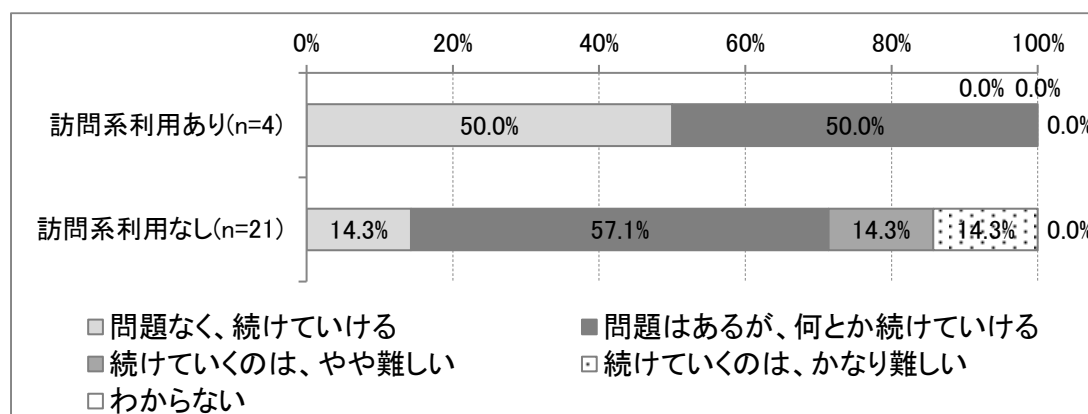
図表 2-17 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（要介護2以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



【サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み(認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務)】

介護者の就労継続の可否に係る意識を訪問系の利用の有無別にみると、「訪問系利用あり」では「問題なく、続けていける」、「問題はあるが、何とか続けていける」が50.0%と最も割合が高くなっている。「訪問系利用なし」では「問題はあるが、何とか続けていける」が57.1%と最も割合が高く、次いで「問題なく、続けていける」、「続けていくのは、やや難しい」、「続けていくのは、かなり難しい」が14.3%となっている。

図表 2-18 サービス利用の組み合わせ別・就労継続見込み（認知症自立度Ⅱ以上、フルタイム勤務＋パートタイム勤務）



(5) 就労状況別の、保険外の支援・サービスの利用状況と、施設等検討の状況

【着目すべきポイント】

- ここでは、「保険外の支援・サービスの利用状況」、「訪問診療の利用の有無」、「施設等検討の状況」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-19～図表 2-22）。
- 「利用している保険外の支援・サービス」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」の差をみることにより、働いている介護者が必要と感じているが、実際には利用されていない生活支援サービスを把握することができます。
- また、「訪問診療の利用の有無」と就労状況との関係を集計分析することで、訪問診療の利用が就労状況により異なるかどうかを把握することができます。
- 「施設等検討の状況」については、働いていない介護者に比べて、働いている介護者では、施設入所を必要と感じているかどうか分析することを目的としています。
- さらに、要介護 2 以上の中重度者については、就労継続見込みについて「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」と考える人のうち、どの程度の人が施設を検討しているかに着目しています。これにより、在宅での仕事と介護の両立が困難となった場合の対応として、施設対応の必要性和、在宅サービスや働き方の調整による対応の必要性のそれぞれについて、把握することができます。

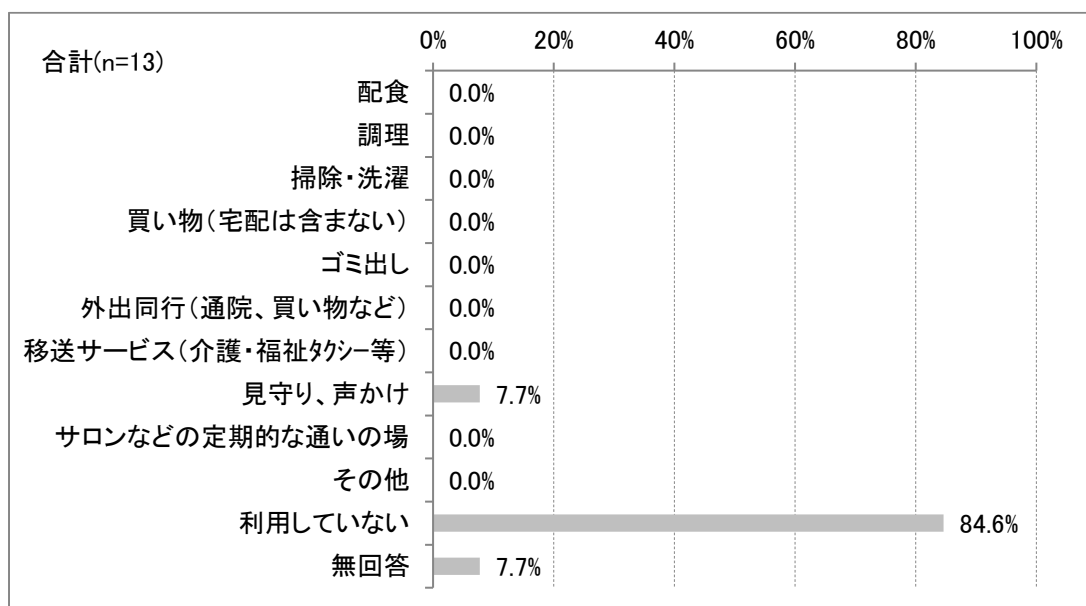
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。
- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。

【★利用している保険外の支援・サービス(フルタイム勤務)】

「利用していない」の割合が最も高く 84.6%となっている。次いで、「見守り、声かけ (7.7%)」、「配食 (0.0%)」、「調理 (0.0%)」、「掃除・洗濯 (0.0%)」、「買い物(宅配は含まない) (0.0%)」、「ゴミ出し (0.0%)」、「外出同行(通院、買い物など) (0.0%)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等) (0.0%)」、「サロンなどの定期的な通いの場 (0.0%)」、「その他 (0.0%)」となっている。

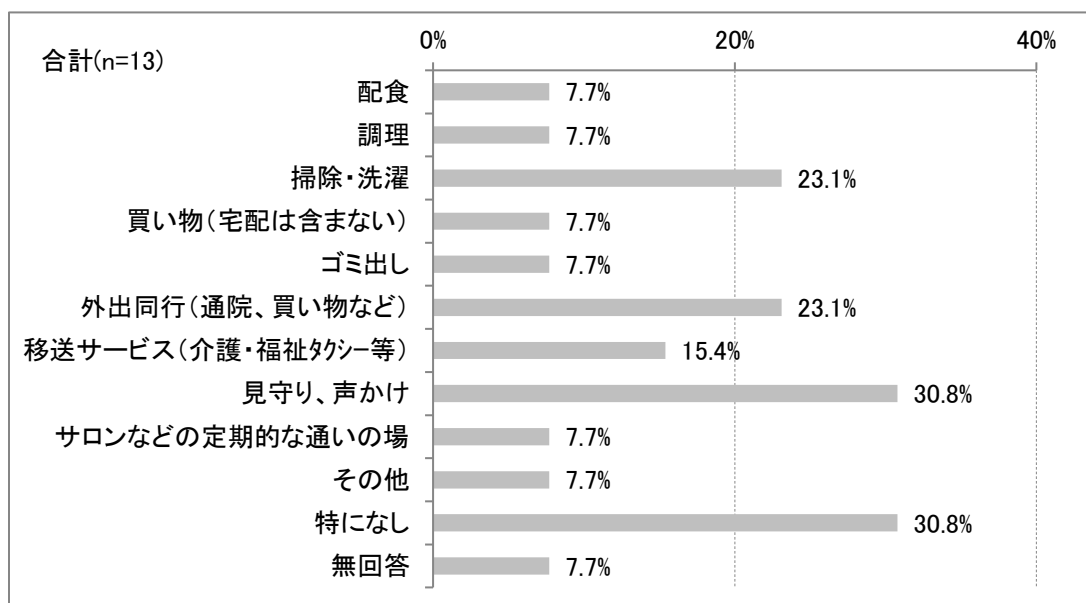
図表 2-19_1 ★利用している保険外の支援・サービス（フルタイム勤務）



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(フルタイム勤務)】

「見守り、声かけ」、「特になし」の割合が高く、それぞれ 30.8%となっている。次いで、「掃除・洗濯 (23.1%)」、「外出同行(通院、買い物など) (23.1%)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等) (15.4%)」となっている。

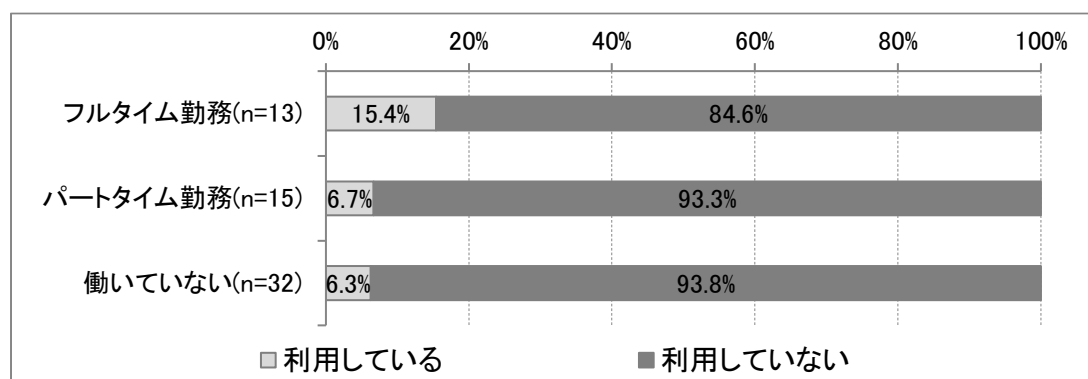
図表 2-19_2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（フルタイム勤務）



【就労状況別・★訪問診療の利用の有無】

訪問診療の利用の有無を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「利用していない」が84.6%と最も割合が高く、次いで「利用している」が15.4%となっている。「パートタイム勤務」では「利用していない」が93.3%と最も割合が高く、次いで「利用している」が6.7%となっている。「働いていない」では「利用していない」が93.8%と最も割合が高く、次いで「利用している」が6.3%となっている。

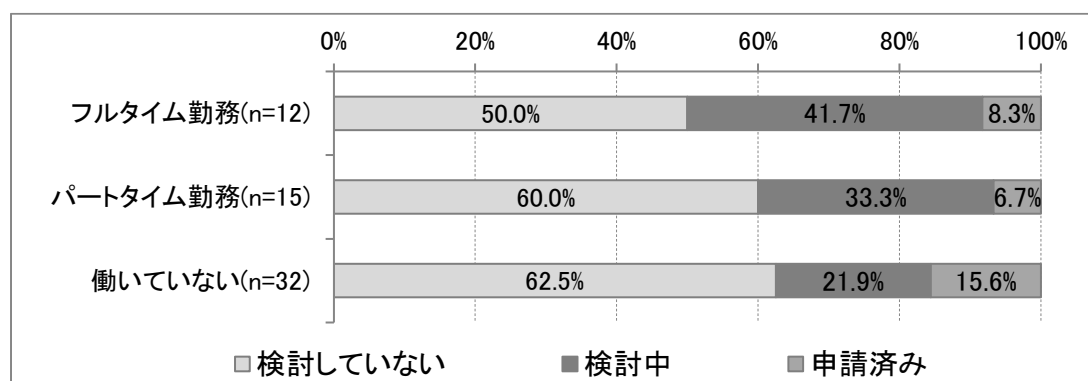
図表 2-20 就労状況別・★訪問診療の利用の有無



【就労状況別・施設等検討の状況】

施設等の検討状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「検討していない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が41.7%、「申請済み」が8.3%となっている。「パートタイム勤務」では「検討していない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が6.7%となっている。「働いていない」では「検討していない」が62.5%と最も割合が高く、次いで「検討中」が21.9%、「申請済み」が15.6%となっている。

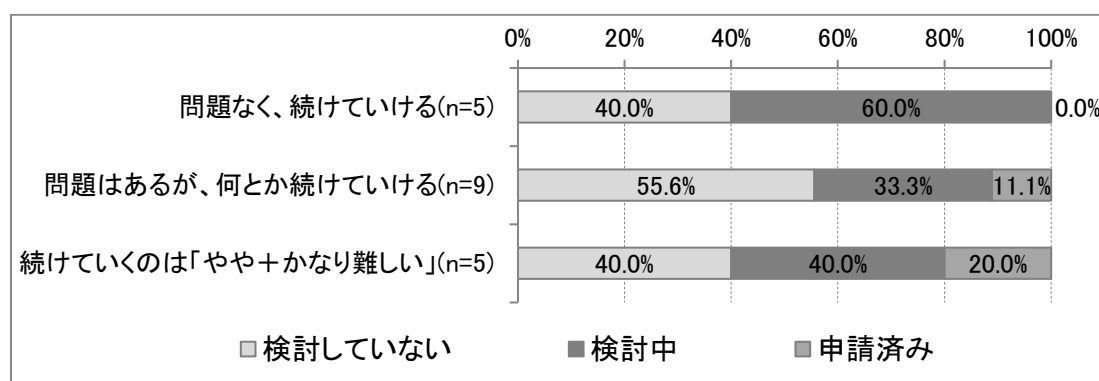
図表 2-21 就労状況別・施設等検討の状況



【就労継続見込み別・施設等検討の状況(要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

施設等の検討状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「検討中」が60.0%と最も割合が高く、次いで「検討していない」が40.0%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「検討していない」が55.6%と最も割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が11.1%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「検討していない」、「検討中」が40.0%と最も割合が高く、次いで「申請済み」が20.0%となっている。

図表 2-22 就労継続見込み別・施設等検討の状況（要介護2以上、フルタイム勤務+パートタイム勤務）



(6) 就労状況別の、介護のための働き方の調整と効果的な勤め先からの支援

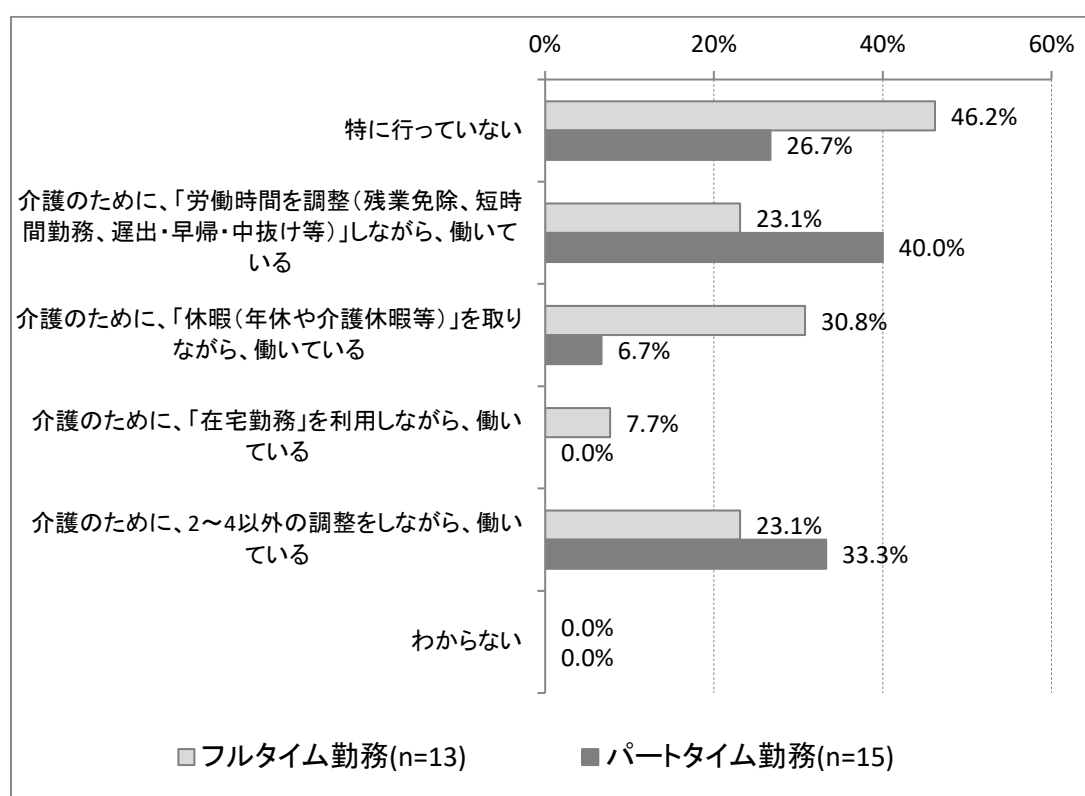
【着目すべきポイント】

- ここでは、「介護のための働き方の調整」と、「効果的な勤め先からの支援」について、主な介護者の就労状況別及び就労継続見込み別に集計分析をしています（図表 2-23～図表 2-26）。
- 就労継続見込みによって、介護のために働き方を調整している割合や、効果的と考える勤め先の支援内容がどのように変化するかに着目して集計分析をしています。
- ただし、「問題なく、続けていける」とする人において、働き方の調整を「特に行っていない」割合、もしくは効果的な勤め先の支援として「特にない」が高いケースは、職場が恒常的な長時間労働や、休暇取得が困難といった状況ではなく、介護のために特段働き方の調整や勤め先からの支援を行わなくても、両立可能な職場であることが考えられます。
- このように、職場の状況や業務の内容によっても、必要な調整や支援の内容が異なることに留意することが必要です。

【就労状況別・介護のための働き方の調整】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特に行っていない」が46.2%と最も割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が30.8%、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が23.1%となっている。「パートタイム勤務」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が40.0%と最も割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が33.3%、「特に行っていない」が26.7%となっている。

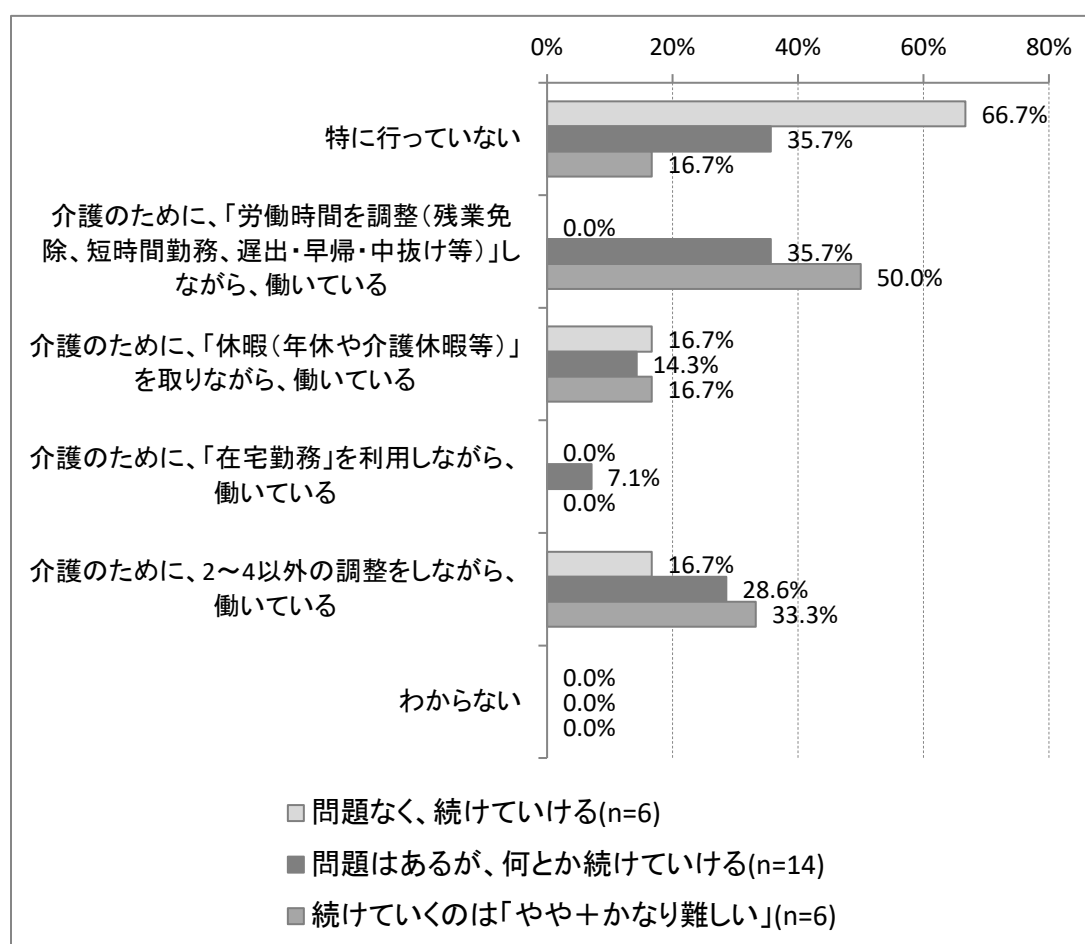
図表 2-23 就労状況別・介護のための働き方の調整



【就労継続見込み別・介護のための働き方の調整(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

介護者の働き方の調整の状況を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特に行っていない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」、「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が16.7%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「特に行っていない」、「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が28.6%、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が14.3%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護のために、「労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）」しながら、働いている」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「介護のために、2～4以外の調整をしながら、働いている」が33.3%、「特に行っていない」、「介護のために、「休暇（年休や介護休暇等）」を取りながら、働いている」が16.7%となっている。

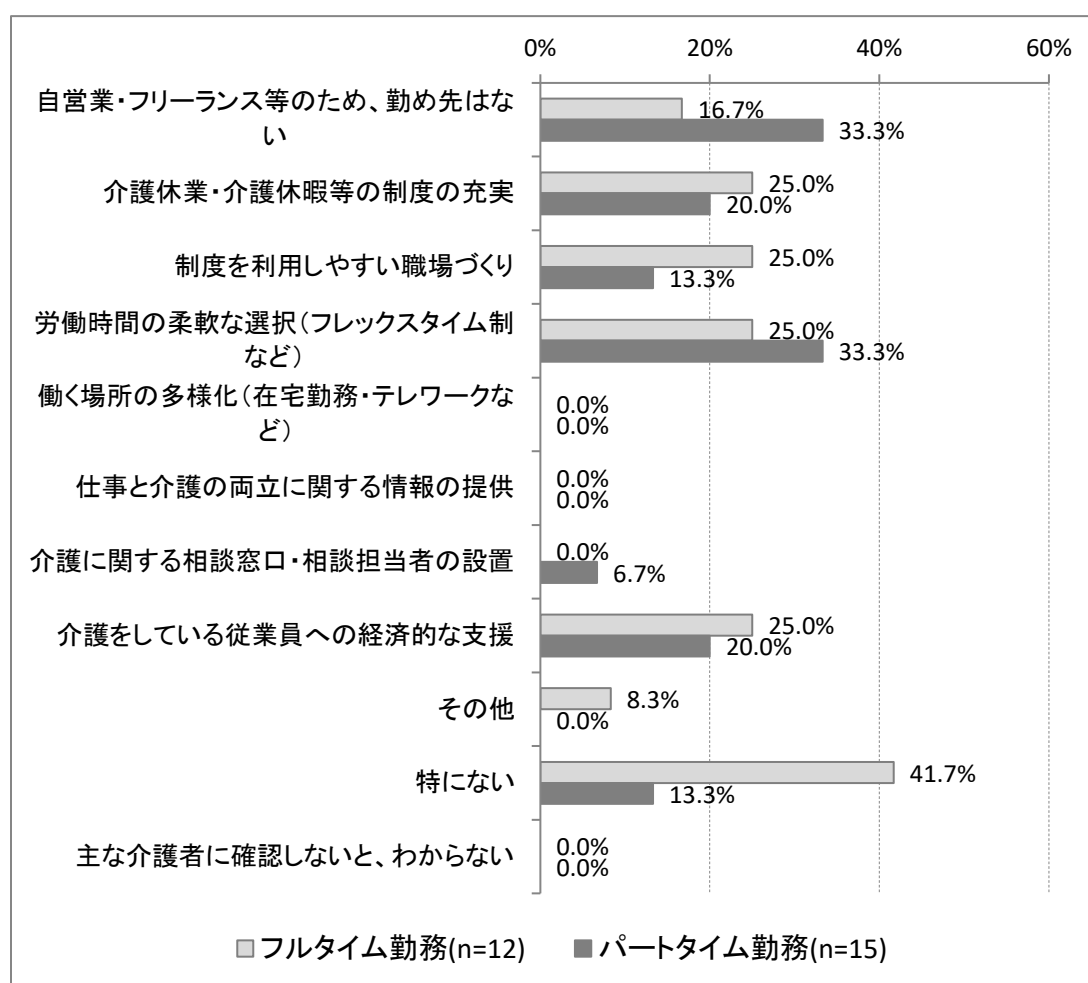
図表 2-24 就労継続見込み別・介護のための働き方の調整（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



【就労状況別・★効果的な勤め先からの支援】

効果的な勤め先からの支援を介護者の勤務形態別にみると、「フルタイム勤務」では「特にな
い」が 41.7%と最も割合が高く、次いで「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用
しやすい職場づくり」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「介護をしている従
業員への経済的な支援」が 25.0%、「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が 16.7%と
なっている。「パートタイム勤務」では「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「労働
時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 33.3%と最も割合が高く、次いで「介護休
業・介護休暇等の制度の充実」、「介護をしている従業員への経済的な支援」が 20.0%、「制度を利用
しやすい職場づくり」、「特にな

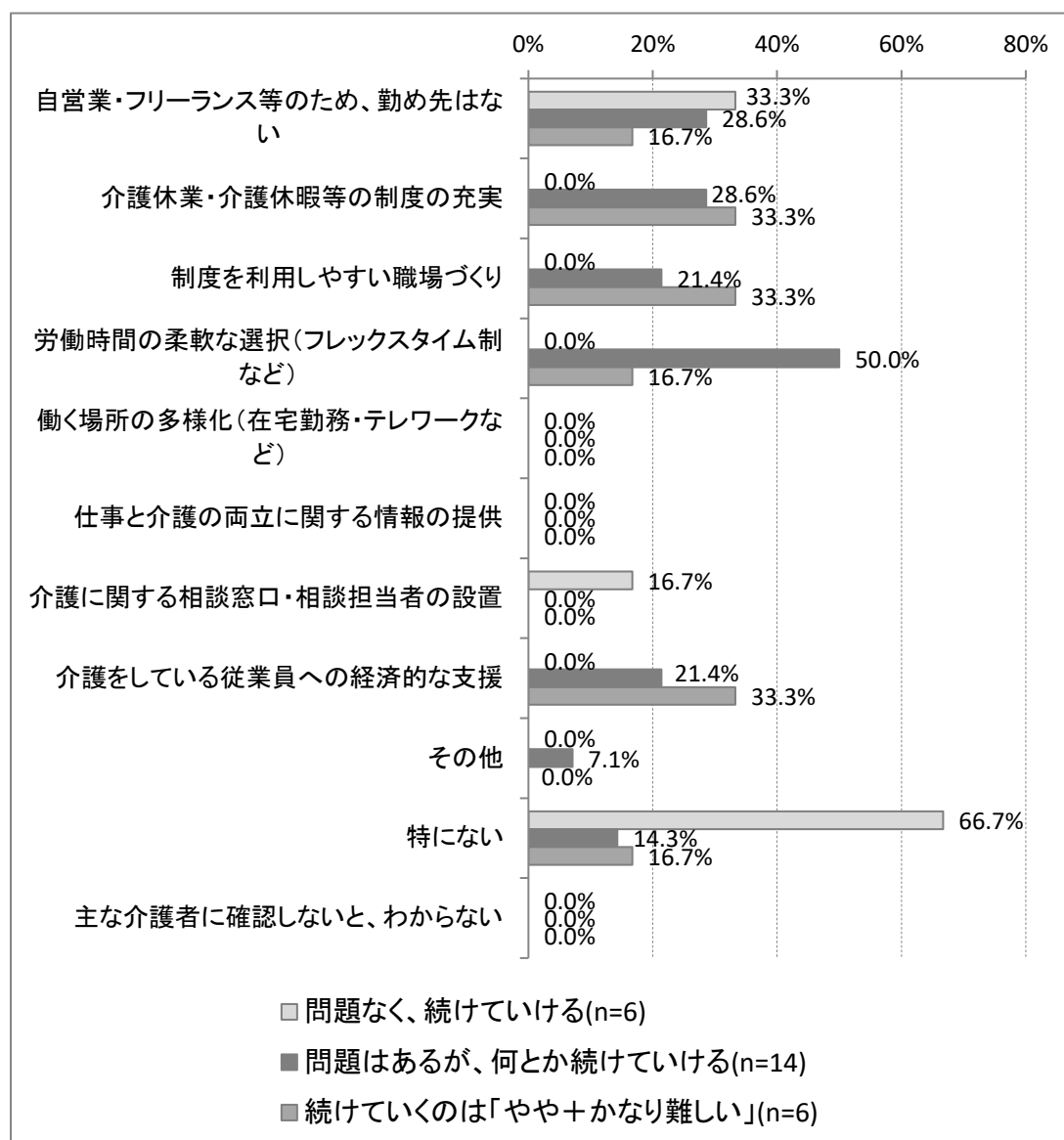
図表 2-25 就労状況別・★効果的な勤め先からの支援



【就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援(フルタイム勤務+パートタイム勤務)】

効果的な勤め先からの支援を介護者の就労継続の可否に係る意識別にみると、「問題なく、続けていける」では「特にない」が66.7%と最も割合が高く、次いで「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」が33.3%、「介護に関する相談窓口・相談担当者の設置」が16.7%となっている。「問題はあるが、何とか続けていける」では「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が50.0%と最も割合が高く、次いで「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が28.6%、「制度を利用しやすい職場づくり」、「介護をしている従業員への経済的な支援」が21.4%となっている。「続けていくのは「やや+かなり難しい」」では「介護休業・介護休暇等の制度の充実」、「制度を利用しやすい職場づくり」、「介護をしている従業員への経済的な支援」が33.3%と最も割合が高く、次いで「自営業・フリーランス等のため、勤め先はない」、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」、「特にない」が16.7%となっている。

図表 2-26 就労継続見込み別・★効果的な勤め先からの支援（フルタイム勤務+パートタイム勤務）



3 保険外の支援・サービスを中心とした地域資源の整備の検討

3.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上に向けて必要となる支援・サービスを検討するために、特に「保険外の支援・サービス」に焦点を当てた集計を行っています。ここで把握された現状やニーズは、生活支援体制整備事業の推進のために活用していくことなどが考えられます。
- 具体的には、「現在利用している保険外の支援・サービス」と「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）」について、要介護度別や世帯類型別のクロス集計を行い、現在の利用状況の把握と今後さらに充実が必要となる支援・サービスについての分析を行います。
- なお、調査の中では、総合事業に基づく支援・サービスは介護保険サービスに含めるとともに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、介護保険サービスか保険外の支援・サービスであるかは区別していません。

3.2 集計結果と着目すべきポイント

(1) 基礎集計

【着目すべきポイント】

- 「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-1、図表 3-2）。
- 例えば、「保険外の支援・サービスの利用状況」については、現状の把握のみでなく、保険外の支援・サービスの利用促進の取組に係るアウトプットとして、その「利用割合」を設定することで、経年的にその成果をモニタリングしていくことも可能になると考えられます。
- さらに、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」からは、在宅限界点の向上という地域目標の達成に向けて、その地域において特に重要となる支援・サービスの種類を把握することができます。

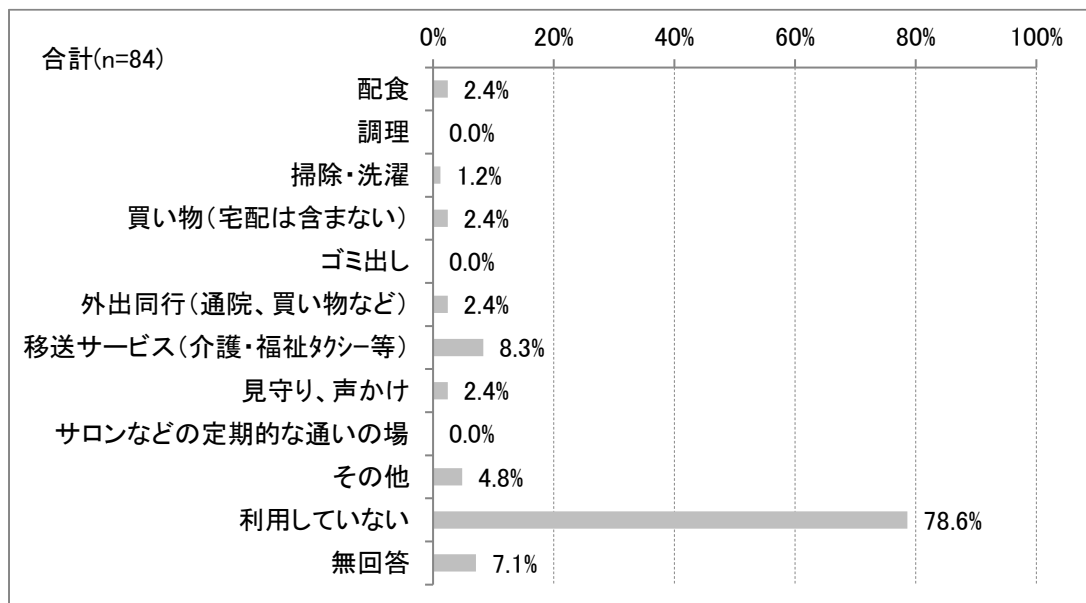
【留意事項】

- ここでの「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」とは、保険外の支援・サービスに限定されるものではありません。必要となる支援・サービスの整備方法については、必ずしも保険外のサービスに限定せず、幅広い視点から検討を進めることが重要です。

【★保険外の支援・サービスの利用状況】

「利用していない」の割合が最も高く 78.6%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（8.3%）」、「その他（4.8%）」となっている。

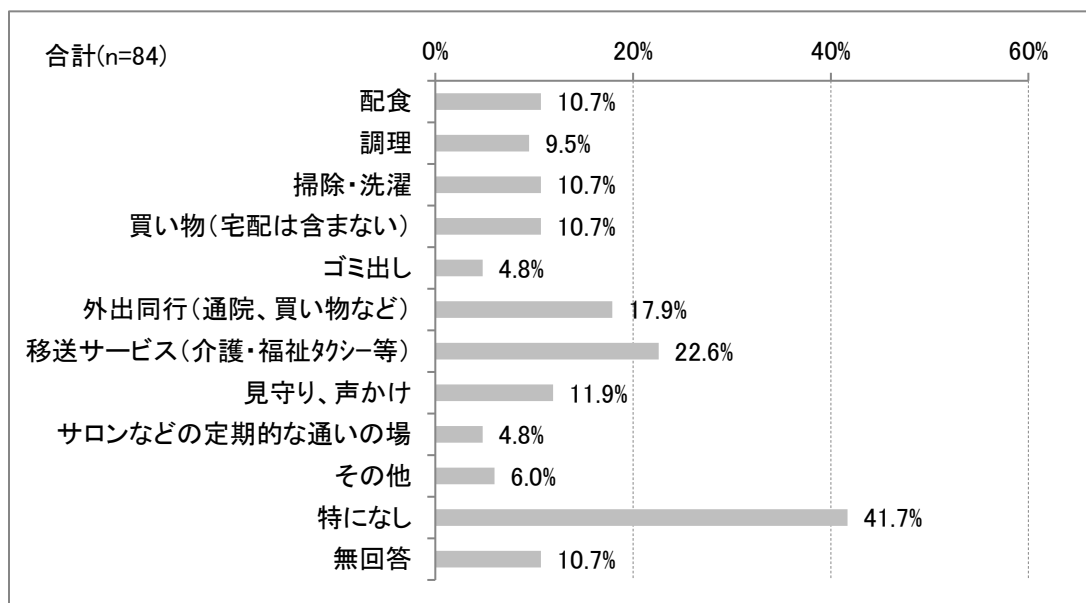
図表 3-1 ★保険外の支援・サービスの利用状況



【★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

「特になし」の割合が最も高く 41.7%となっている。次いで、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）（22.6%）」、「外出同行（通院、買い物など）（17.9%）」となっている。

図表 3-2 ★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(2) 世帯類型別の、保険外の支援・サービスの利用状況と必要と感じる支援・サービス

【着目すべきポイント】

- 世帯類型別に「保険外の支援・サービスの利用状況」と、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-3、図表 3-4）。
- 「保険外の支援・サービスの利用割合」については、世帯類型別の割合をアウトプット指標としてモニタリングしていくも考えられます。
- また、「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、世帯類型別に異なる傾向がみられた場合は、世帯類型に応じたアプローチを検討していくことが重要になると考えられます。

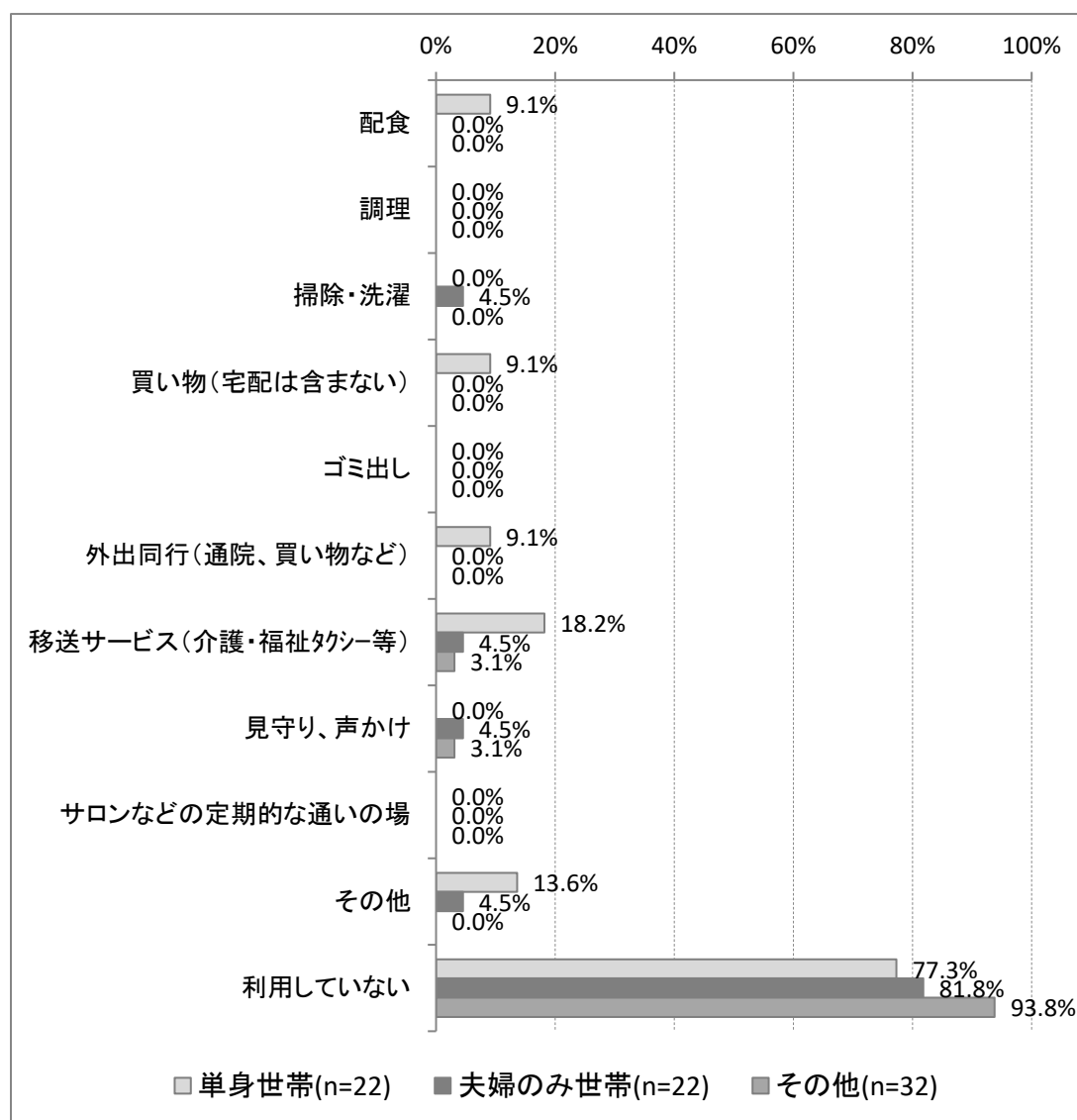
【留意事項】

- アンケート調査の中で「必要な支援・サービス」を回答して頂くと、「無くても大丈夫であるが、無いよりはあった方が良い」といった回答も含まれることが想定されることから、回答結果は実際のニーズよりもやや過大となる可能性があります。
- 「在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス」については、特に「複数の支援・サービスを比較して、より優先順位の高い支援・サービスを明らかにする」といった視点でみることが重要です。

【世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が77.3%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が18.2%、「その他」が13.6%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が81.8%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「その他」が4.5%となっている。「その他」では「利用していない」が93.8%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が3.1%となっている。

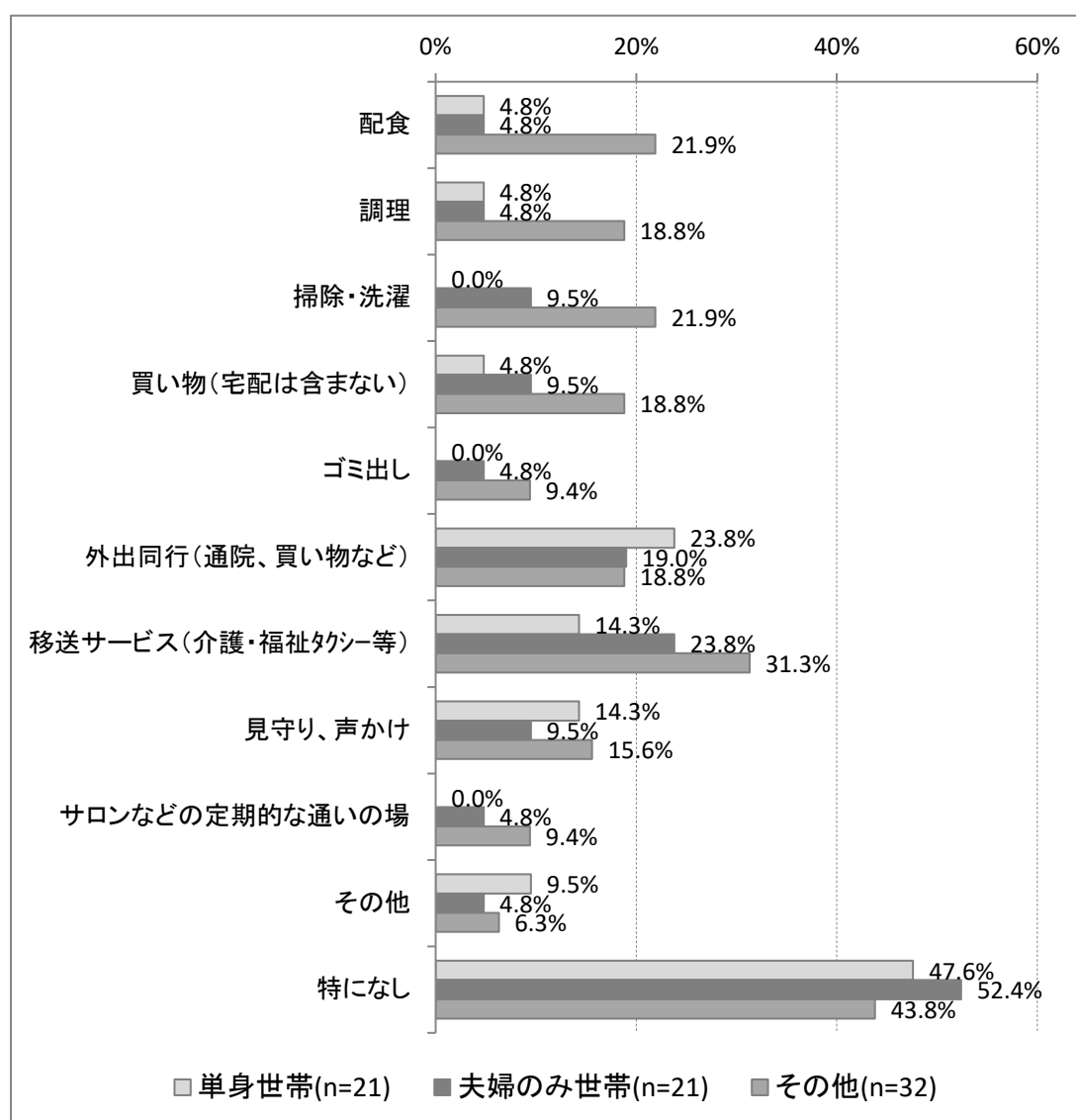
図表 3-3 世帯類型別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「特になし」が47.6%ともっとも割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」が23.8%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」が14.3%となっている。「夫婦のみ世帯」では「特になし」が52.4%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が23.8%、「外出同行（通院、買い物など）」が19.0%となっている。「その他」では「特になし」が43.8%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が31.3%、「配食」、「掃除・洗濯」が21.9%となっている。

図表 3-4 世帯類型別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



(3) 「世帯類型」×「要介護度」×「保険外の支援・サービスの利用状況」

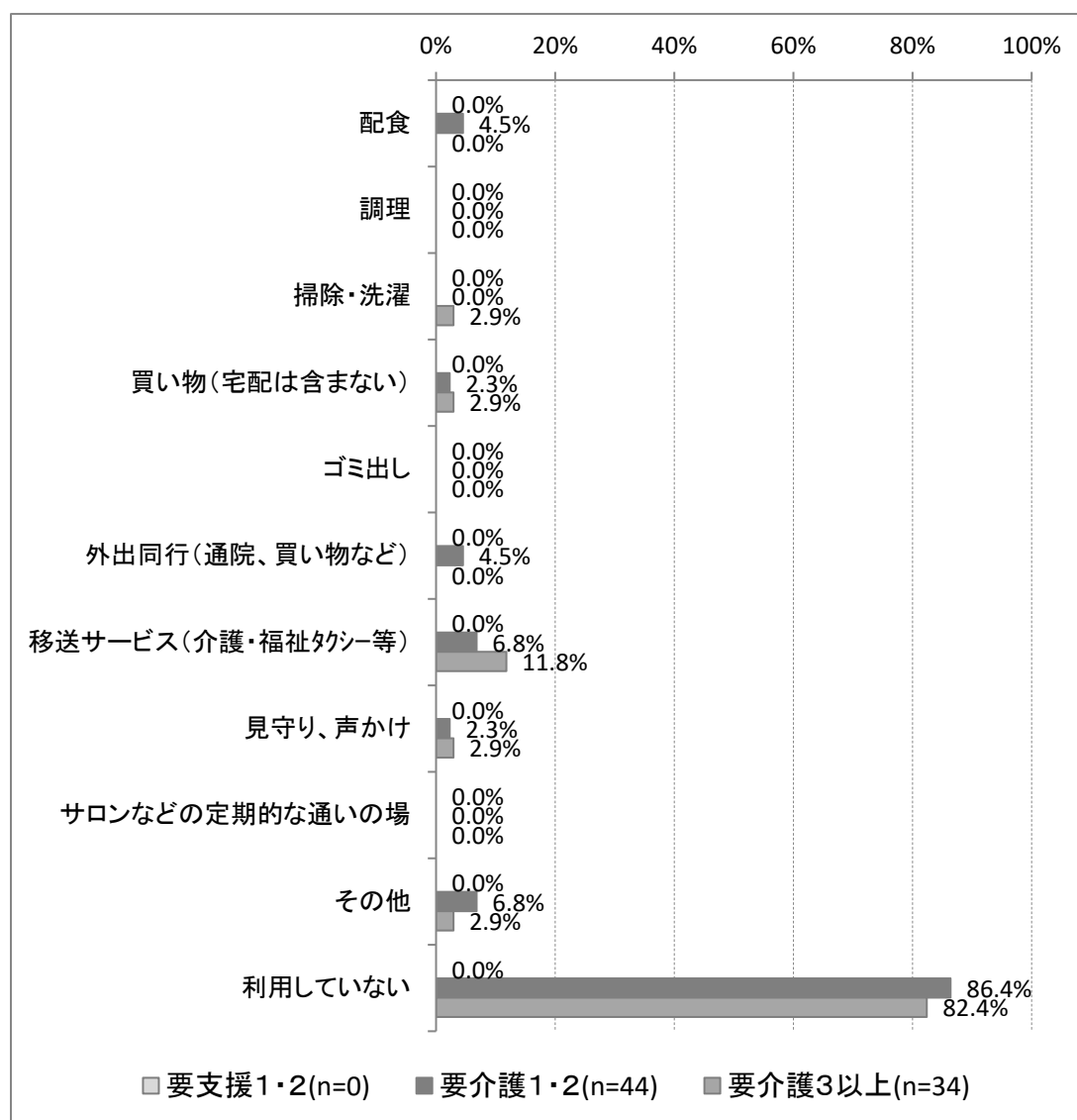
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「保険外の支援・サービスの利用状況」について、集計分析をしています（図表 3-5～図表 3-8）。
- 利用割合の低い世帯類型であっても、要介護度の重度化に伴い利用割合が増加している支援・サービスがあることも考えられます。
- 介護保険サービスと同様、重度化に伴い、どのような支援・サービスの利用割合が増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような支援・サービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを把握することができます。

【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が86.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が6.8%、「配食」、「外出同行（通院、買い物など）」が4.5%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が82.4%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が11.8%、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「見守り、声かけ」、「その他」が2.9%となっている。

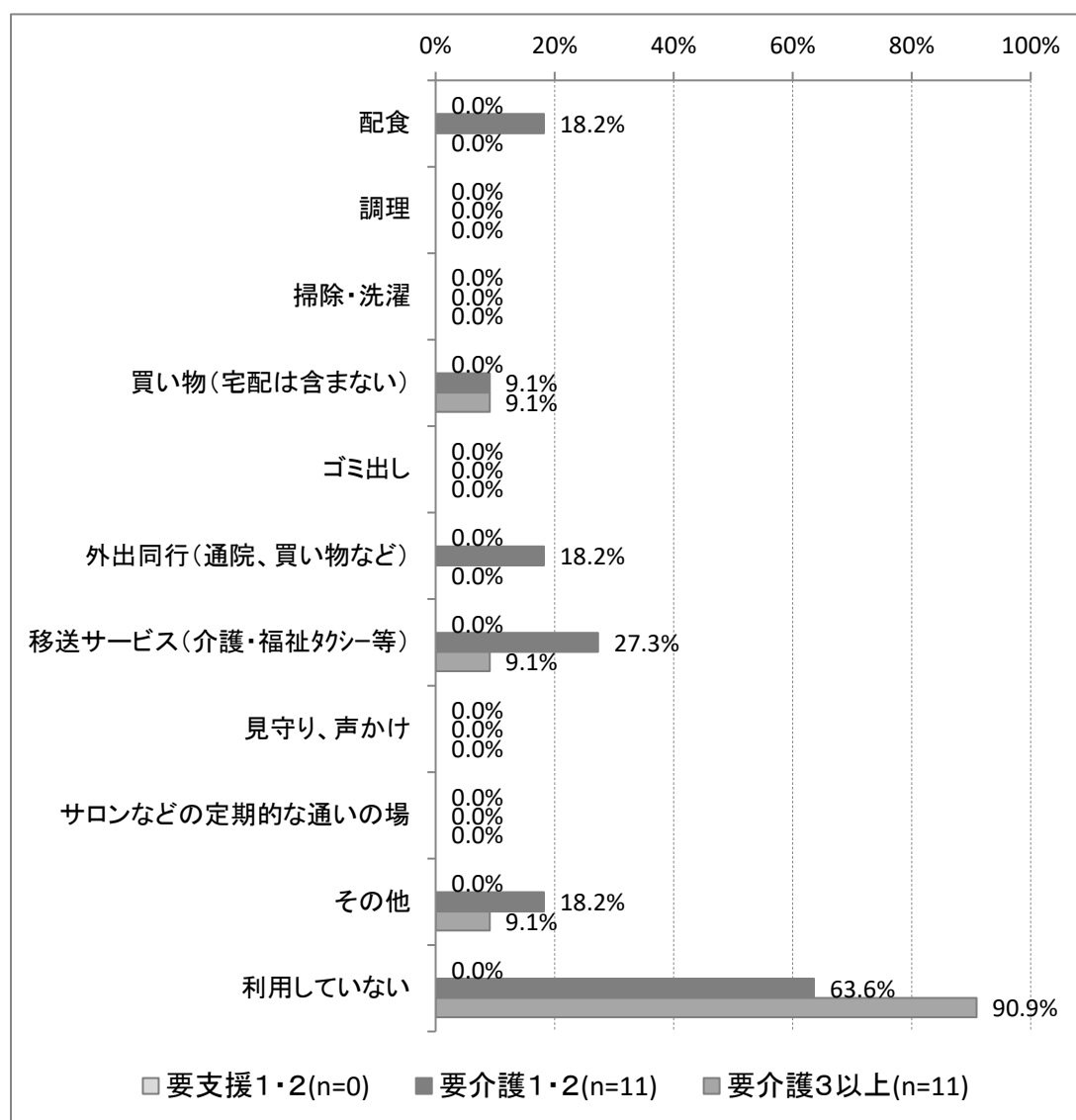
図表 3-5 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が63.6%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が27.3%、「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」が18.2%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が90.9%と最も割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「その他」が9.1%となっている。

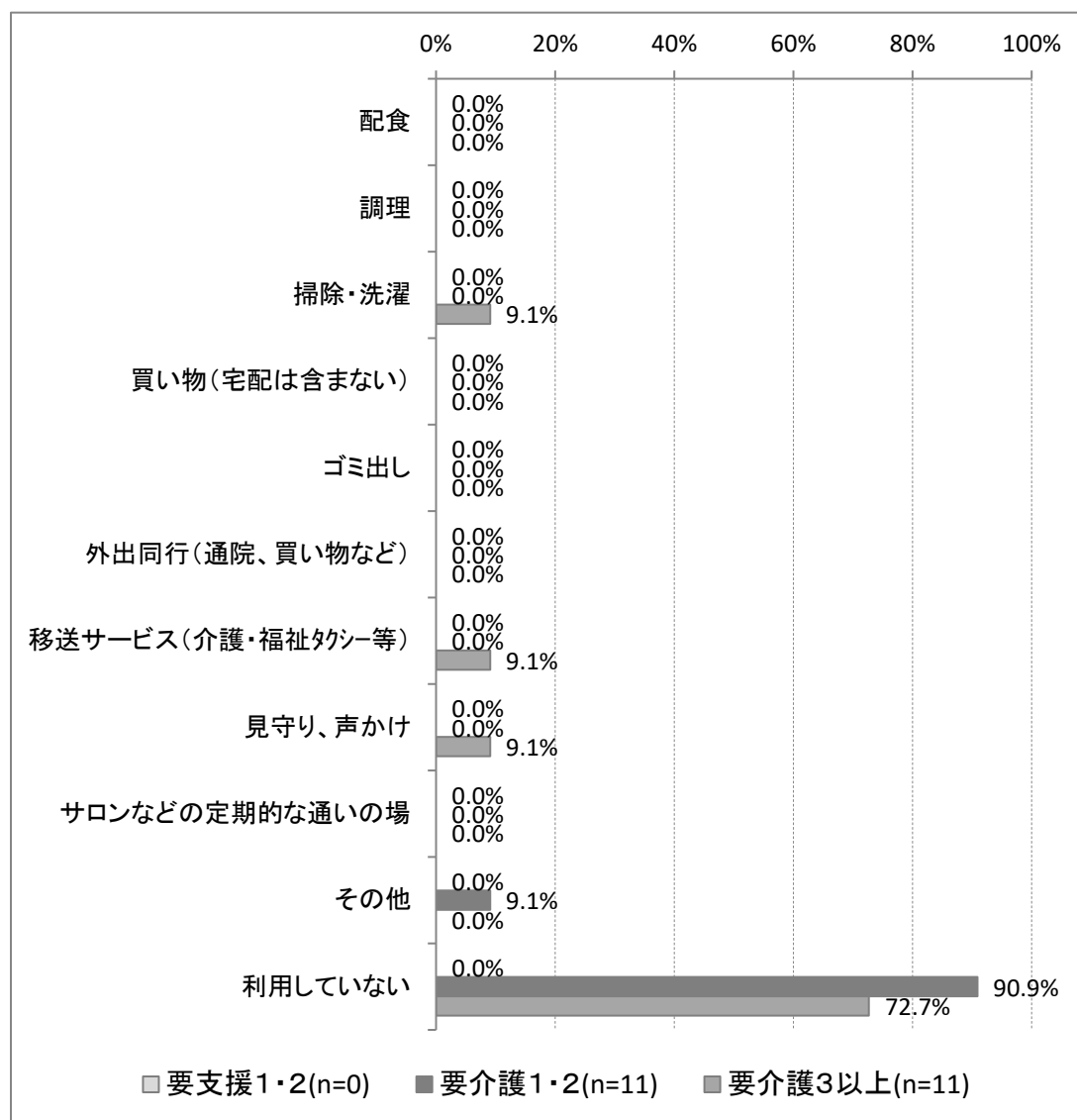
図表 3-6 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(単身世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が90.9%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が9.1%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が72.7%ともっとも割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「見守り、声かけ」が9.1%となっている。

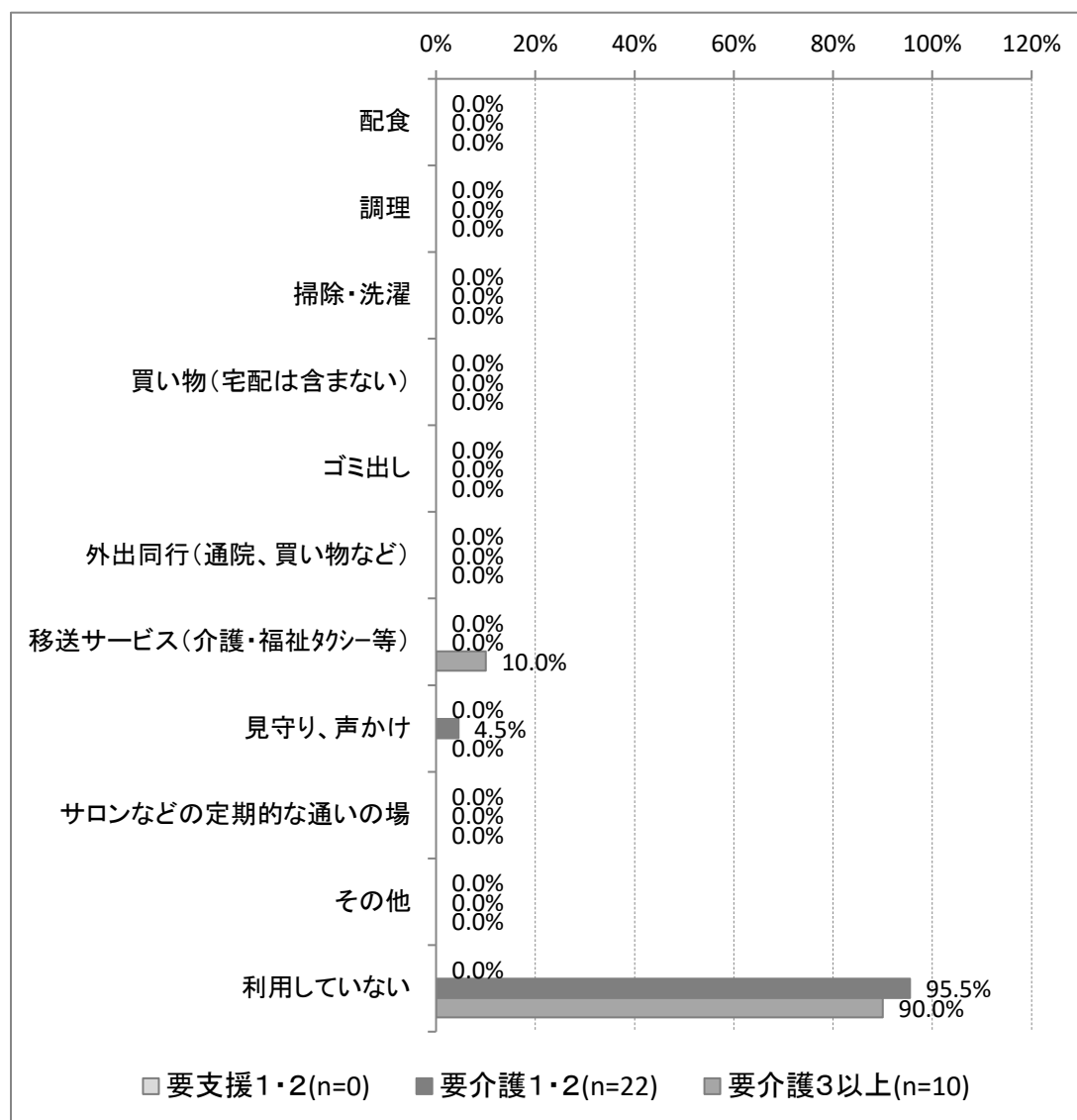
図表 3-7 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの利用状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「利用していない」が95.5%ともっとも割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が4.5%となっている。「要介護3以上」では「利用していない」が90.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が10.0%となっている。

図表 3-8 要介護度別・★保険外の支援・サービスの利用状況(その他世帯)



(4) 「世帯類型」×「要介護度」×「必要と感じる支援・サービス」

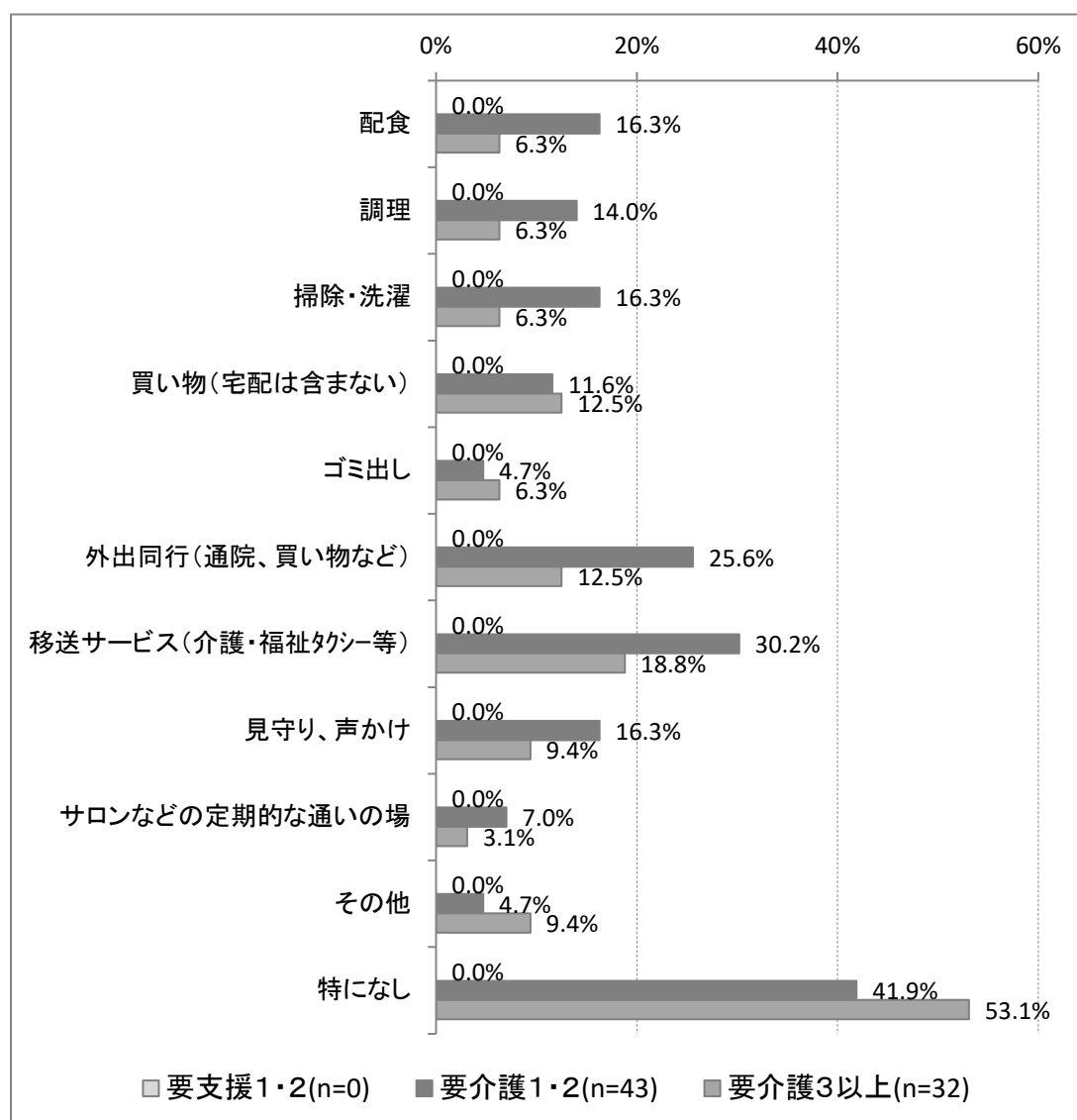
【着目すべきポイント】

- 世帯類型別・要介護度別に「必要と感じる支援・サービス」について、集計分析をしています（図表 3-9～図表 3-12）。
- 特に、各世帯類型の要介護度別のニーズに着目しながら、各地域の実情に応じた取組を推進していく必要があります。

【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護 1・2」では「特になし」が 41.9%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 30.2%、「外出同行（通院、買い物など）」が 25.6%となっている。「要介護 3 以上」では「特になし」が 53.1%と最も割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 18.8%、「買い物（宅配は含まない）」が 12.5%となっている。

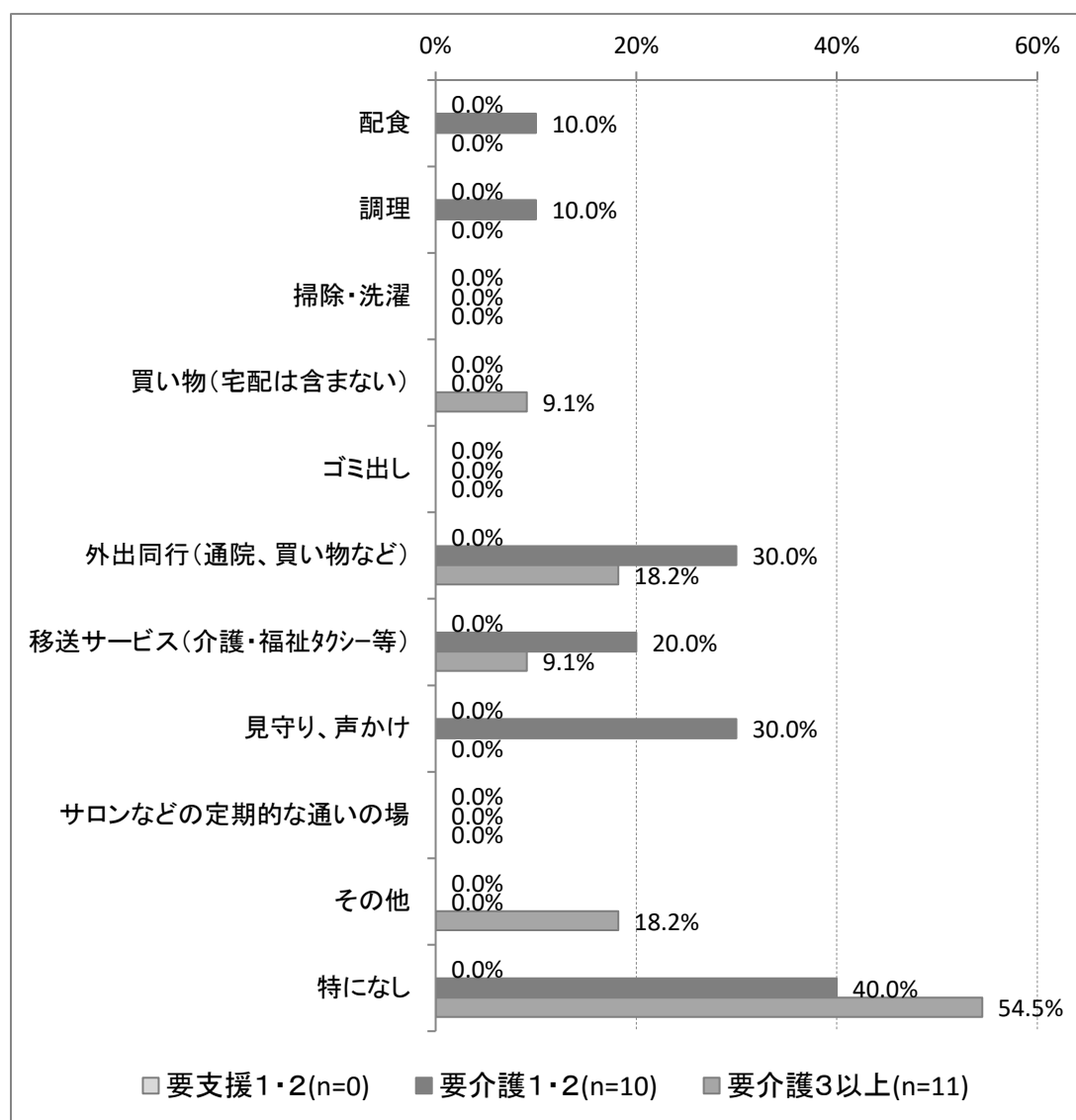
図表 3-9 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「特になし」が40.0%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「見守り、声かけ」が30.0%、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.0%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が54.5%と最も割合が高く、次いで「外出同行（通院、買い物など）」、「その他」が18.2%、「買い物（宅配は含まない）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が9.1%となっている。

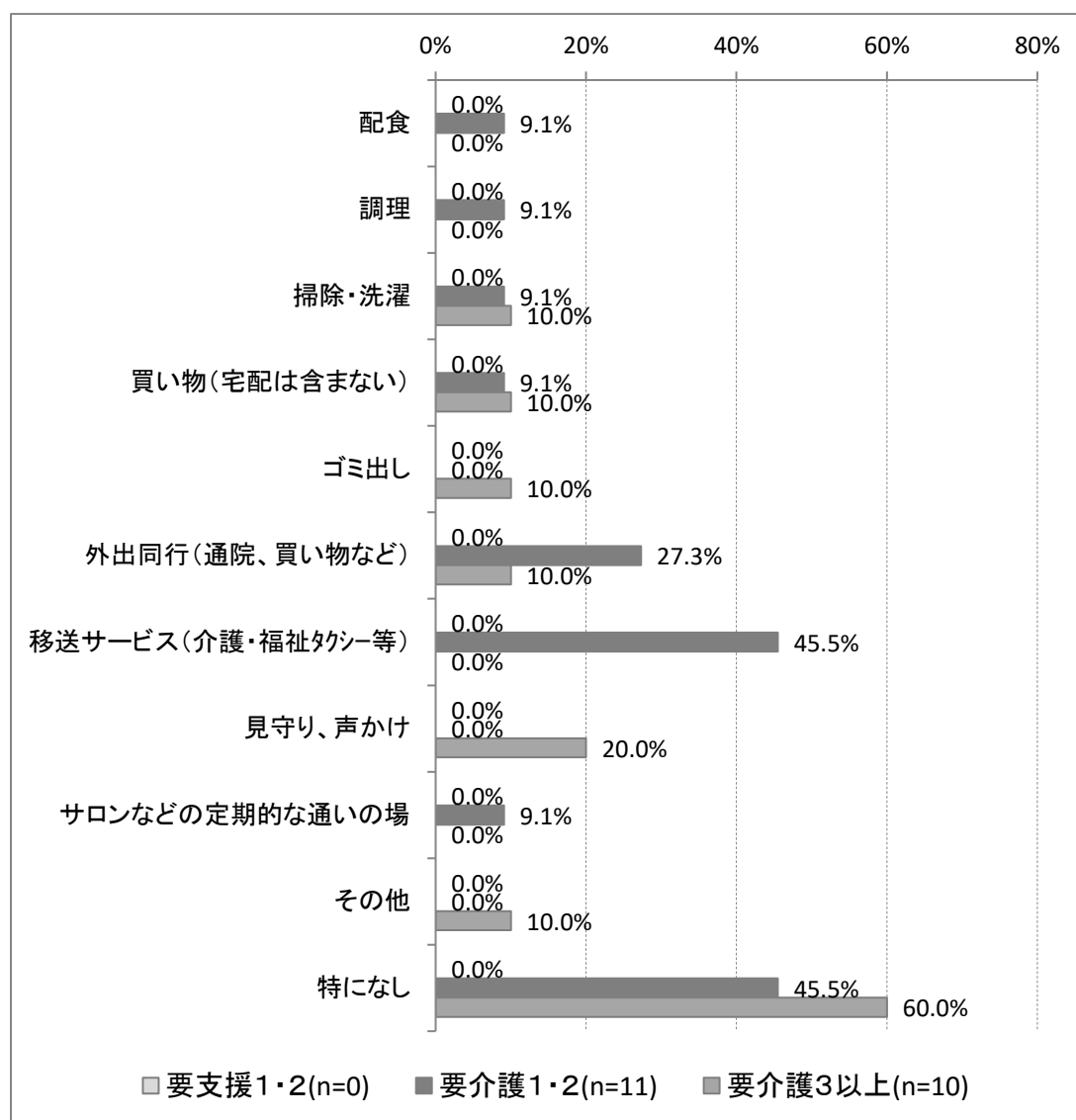
図表 3-10 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（単身世帯）



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「特になし」が45.5%と最も割合が高く、次いで「外出同行(通院、買い物など)」が27.3%、「配食」、「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物(宅配は含まない)」、「サロンなどの定期的な通いの場」が9.1%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が60.0%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が20.0%、「掃除・洗濯」、「買い物(宅配は含まない)」、「ゴミ出し」、「外出同行(通院、買い物など)」、「その他」が10.0%となっている。

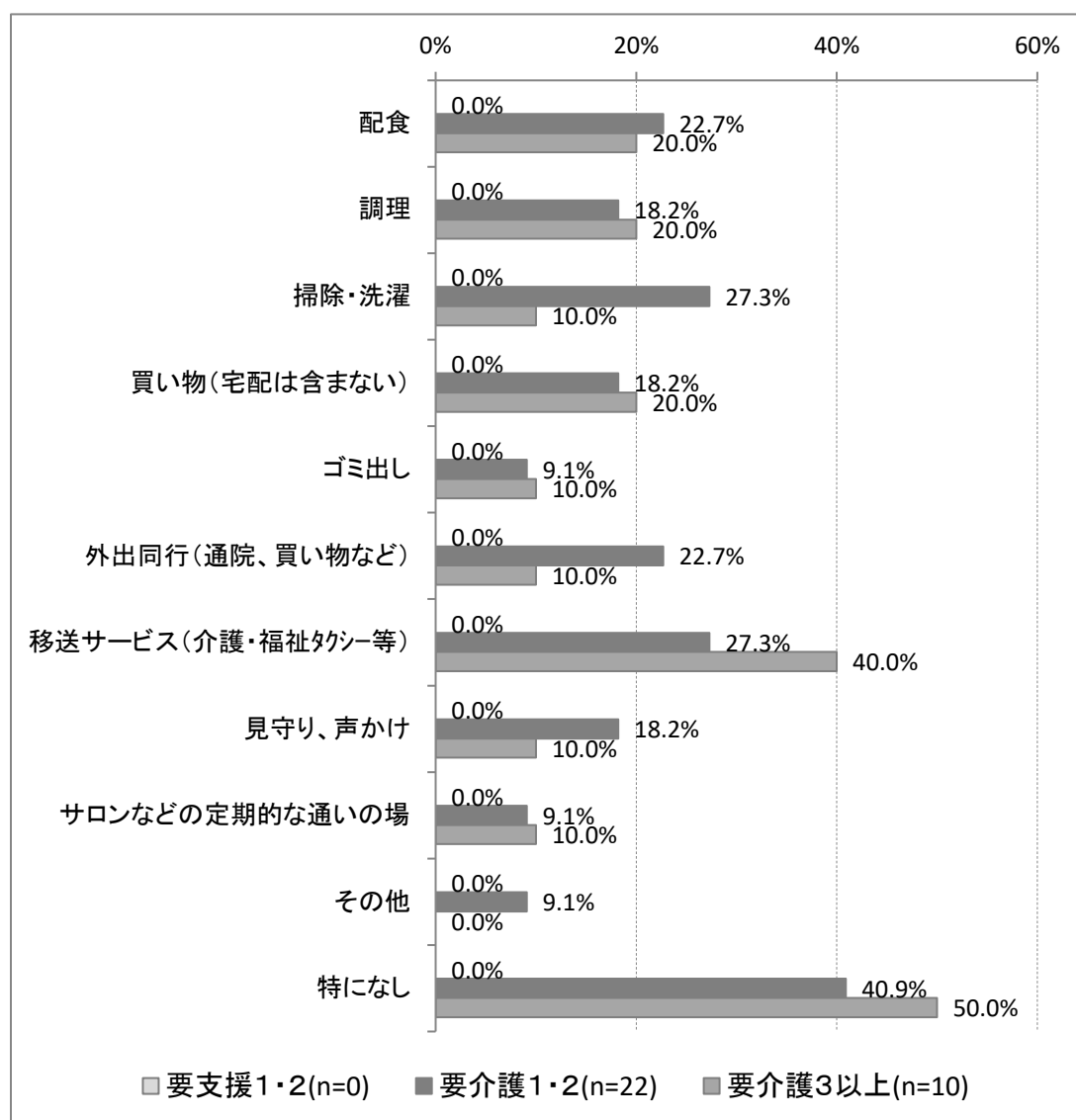
図表 3-11 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「特になし」が40.9%と最も割合が高く、次いで「掃除・洗濯」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が27.3%、「配食」、「外出同行(通院、買い物など)」が22.7%となっている。「要介護3以上」では「特になし」が50.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が40.0%、「配食」、「調理」、「買い物(宅配は含まない)」が20.0%となっている。

図表 3-12 要介護度別・★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)



4 将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討

4.1 集計・分析の狙い

- ここでは、在宅限界点の向上のための、将来の世帯類型の変化に応じた支援・サービスの提供体制の検討につなげるため、特に世帯類型別の「サービス利用の特徴」や「施設等検討の状況」に焦点を当てた集計を行っています。
- 具体的には、世帯類型別の「家族等による介護の頻度」、「サービス利用の組み合わせ」、「施設等検討の状況」などの分析を行います。
- 将来の高齢世帯の世帯類型の構成は、地域ごとに異なりますので、それぞれ地域の実情に応じた支援・サービスの検討につなげていくことが重要となります。

4.2 集計結果と着目すべきポイント

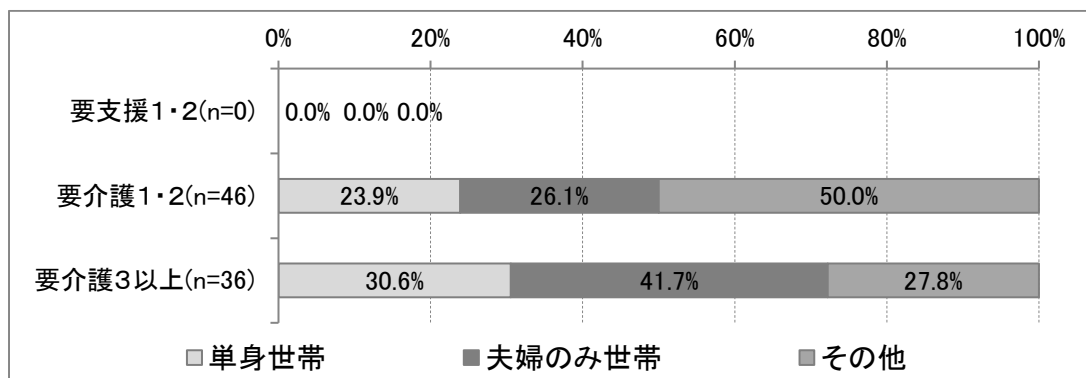
(1) 基礎集計

- 「要介護度別の世帯類型の割合」および「世帯類型別の要介護度の割合」を集計しています（図表 4-1、図表 4-2）。
- 要介護度の重度化に伴う、世帯類型の変化などを確認してください。

【要介護度別・世帯類型】

世帯類型を二次判定結果別にみると、「要介護 1・2」では「その他」が 50.0%と最も割合が高く、次いで「夫婦のみ世帯」が 26.1%、「単身世帯」が 23.9%となっている。「要介護 3 以上」では「夫婦のみ世帯」が 41.7%と最も割合が高く、次いで「単身世帯」が 30.6%、「その他」が 27.8%となっている。

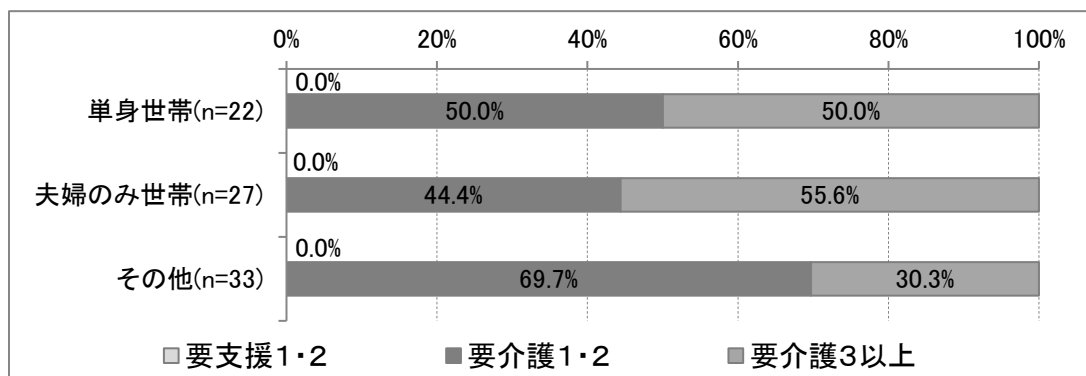
図表 4-1 要介護度別・世帯類型



【世帯類型別・要介護度】

二次判定結果を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「要介護 1・2」、「要介護 3 以上」が 50.0%と最も割合が高くなっている。「夫婦のみ世帯」では「要介護 3 以上」が 55.6%と最も割合が高く、次いで「要介護 1・2」が 44.4%となっている。「その他」では「要介護 1・2」が 69.7%と最も割合が高く、次いで「要介護 3 以上」が 30.3%となっている。

図表 4-2 世帯類型別・要介護度



(2) 「要介護度別・世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」

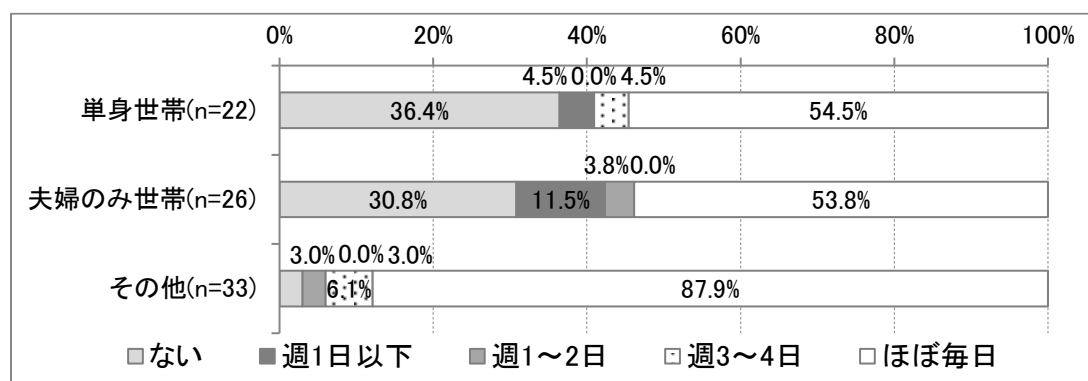
【着目すべきポイント】

- 図表 4-3 では、「世帯類型別」の「家族等による介護の頻度」の割合を集計しています。また、図表 4-4～図表 4-6 では、世帯類型別に「要介護度別」の「家族等による介護の頻度」を集計しています。
- 「単身世帯」については、同居の家族等はいなくても、近居の家族等による介護が行われているケースも多いと考えられます。中重度の単身世帯のうち、家族等の介護がない中で在宅生活を送っているケースがどの程度あるかなど、現状についてご確認ください。

【世帯類型別・家族等による介護の頻度】

ご家族等の介護の頻度を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「ほぼ毎日」が 54.5%と最も割合が高く、次いで「ない」が 36.4%、「週 1 日以下」、「週 3～4 日」が 4.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「ほぼ毎日」が 53.8%と最も割合が高く、次いで「ない」が 30.8%、「週 1 日以下」が 11.5%となっている。「その他」では「ほぼ毎日」が 87.9%と最も割合が高く、次いで「週 3～4 日」が 6.1%、「ない」、「週 1～2 日」が 3.0%となっている。

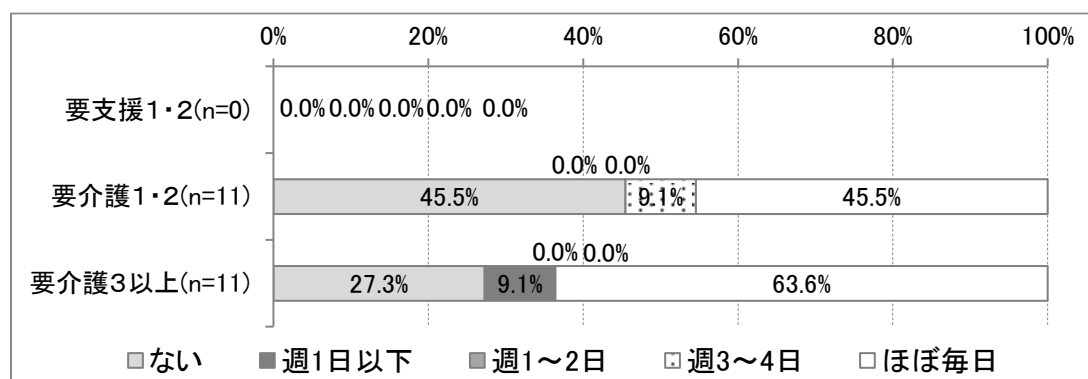
図表 4-3 世帯類型別・家族等による介護の頻度



【要介護度別・家族等による介護の頻度(単身世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要介護１・２」では「ない」、「ほぼ毎日」が45.5%と最も割合が高く、次いで「週３～４日」が9.1%となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が63.6%と最も割合が高く、次いで「ない」が27.3%、「週１日以下」が9.1%となっている。

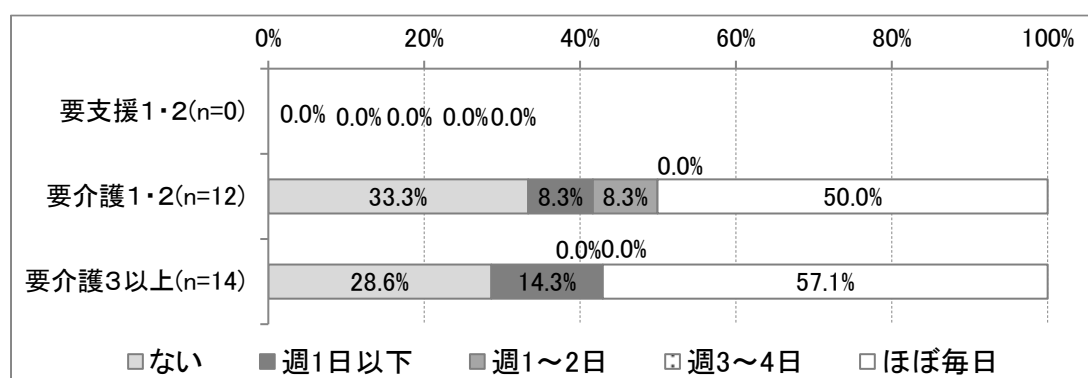
図表 4-4 要介護度別・家族等による介護の頻度（単身世帯）



【要介護度別・家族等による介護の頻度(夫婦のみ世帯)】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が50.0%と最も割合が高く、次いで「ない」が33.3%、「週１日以下」、「週１～２日」が8.3%となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が57.1%と最も割合が高く、次いで「ない」が28.6%、「週１日以下」が14.3%となっている。

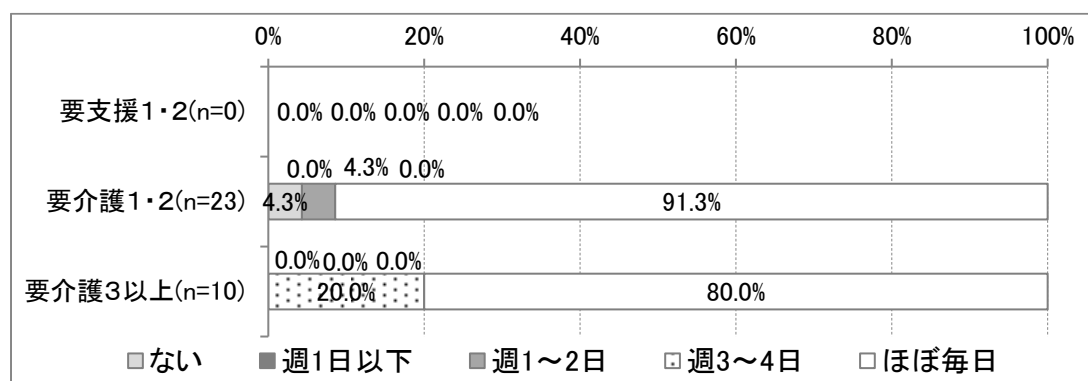
図表 4-5 要介護度別・家族等による介護の頻度（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）】

ご家族等の介護の頻度を二次判定結果別にみると、「要介護１・２」では「ほぼ毎日」が 91.3% ともっとも割合が高く、次いで「ない」、「週１～２日」が 4.3% となっている。「要介護３以上」では「ほぼ毎日」が 80.0% ともっとも割合が高く、次いで「週３～４日」が 20.0% となっている。

図表 4-6 要介護度別・家族等による介護の頻度（その他世帯）



(3) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」

【着目すべきポイント】

- 要介護度別・認知症自立度別の「世帯類型別のサービス利用の組み合わせ」について、集計分析をしています（図表 4-7～図表 4-12）。
- サービス利用の組み合わせは、「訪問系のみ」のサービス利用と、レスパイト機能をもつ「通所系」および「短期系」のみのサービス利用、さらにその２つを組み合わせた「訪問系を含むサービス利用」の３種類（未利用除く）に簡略化したものを使用しています。
- 重度化に伴い、どのようなサービス利用の組み合わせが増加しているかに着目することで、現在在宅で生活をする中重度の要介護者が、どのような組み合わせのサービス利用を増加させることで在宅生活を維持しているかを、世帯類型別に把握することができます。
- また、世帯類型別の要介護者の増加に伴い、どのような「サービス利用の組み合わせ」のニーズが大きくなると考えられるかを推測することも可能になります。
- 例えば、特に今後「要介護度が中重度の単身世帯」が増加すると見込まれる場合は、単身世帯の要介護者が要介護度の重度化に伴いどのようなサービス利用の組み合わせを増加させているかに着目し、推測することなどが考えられます。

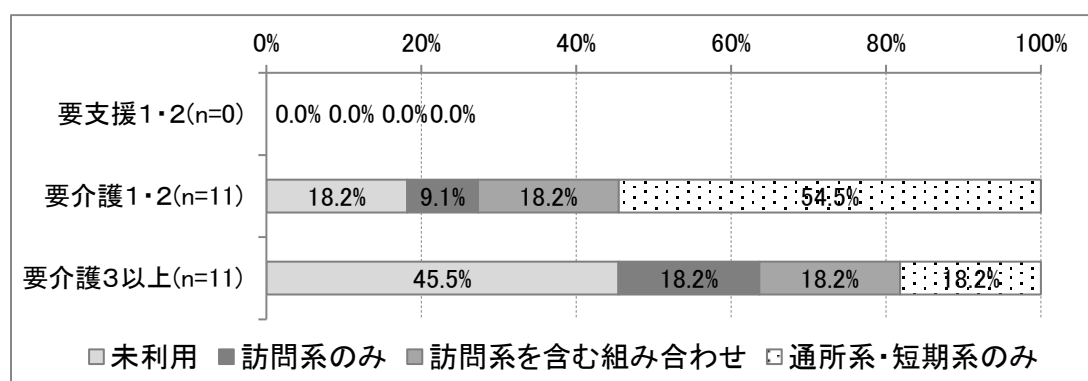
【留意事項】

- ただし、現在利用しているサービスが「地域目標を達成するためのサービス」であるとは限らない点には注意が必要です。

【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が18.2%、「訪問系のみ」が9.1%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が45.5%ともっとも割合が高く、次いで「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」、「通所系・短期系のみ」が18.2%となっている。

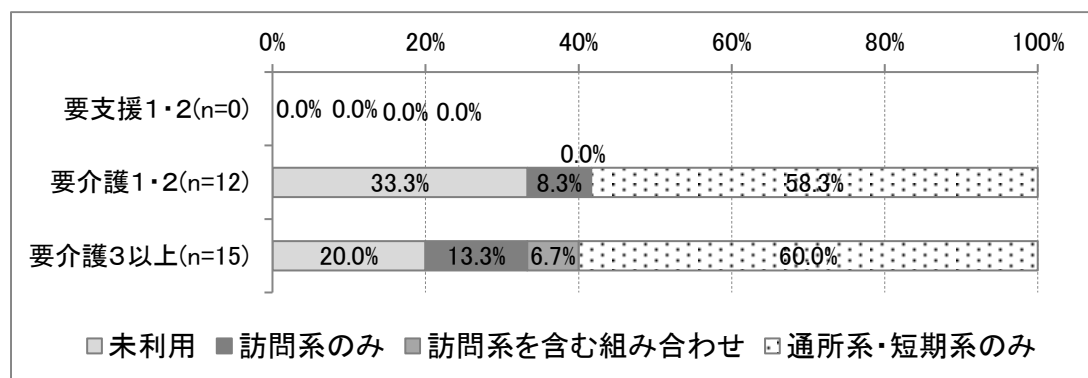
図表 4-7 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (単身世帯)



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(夫婦のみ世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が58.3%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が33.3%、「訪問系のみ」が8.3%となっている。「要介護3以上」では「通所系・短期系のみ」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「未利用」が20.0%、「訪問系のみ」が13.3%となっている。

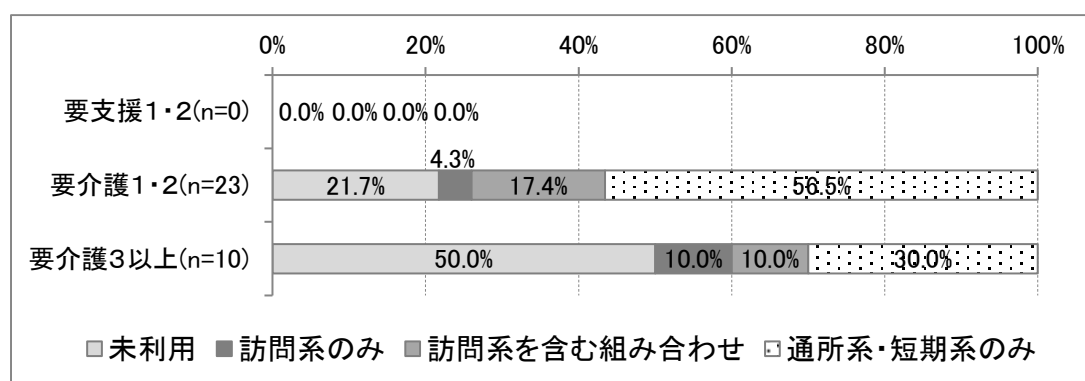
図表 4-8 要介護度別・サービス利用の組み合わせ (夫婦のみ世帯)



【要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)】

サービス利用の組み合わせを二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「通所系・短期系のみ」が56.5%と最も割合が高く、次いで「未利用」が21.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が17.4%となっている。「要介護3以上」では「未利用」が50.0%と最も割合が高く、次いで「通所系・短期系のみ」が30.0%、「訪問系のみ」、「訪問系を含む組み合わせ」が10.0%となっている。

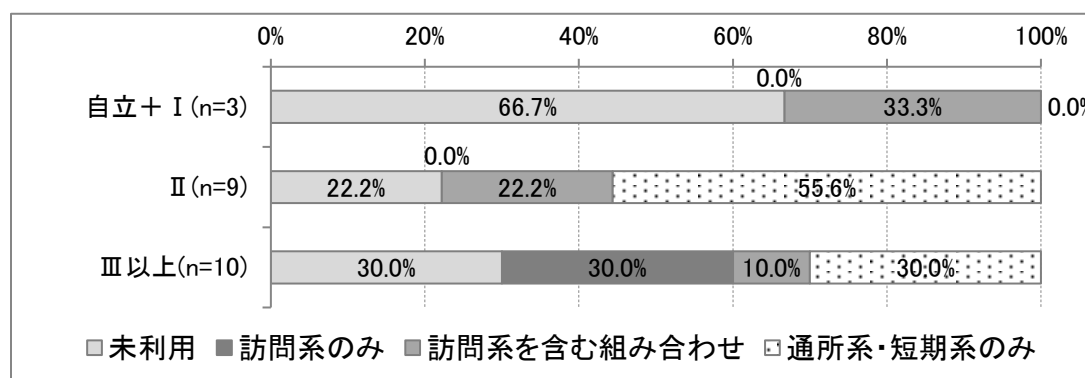
図表 4-9 要介護度別・サービス利用の組み合わせ(その他世帯)



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「未利用」が66.7%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が33.3%となっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「訪問系を含む組み合わせ」が22.2%となっている。「Ⅲ以上」では「未利用」、「訪問系のみ」、「通所系・短期系のみ」が30.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系を含む組み合わせ」が10.0%となっている。

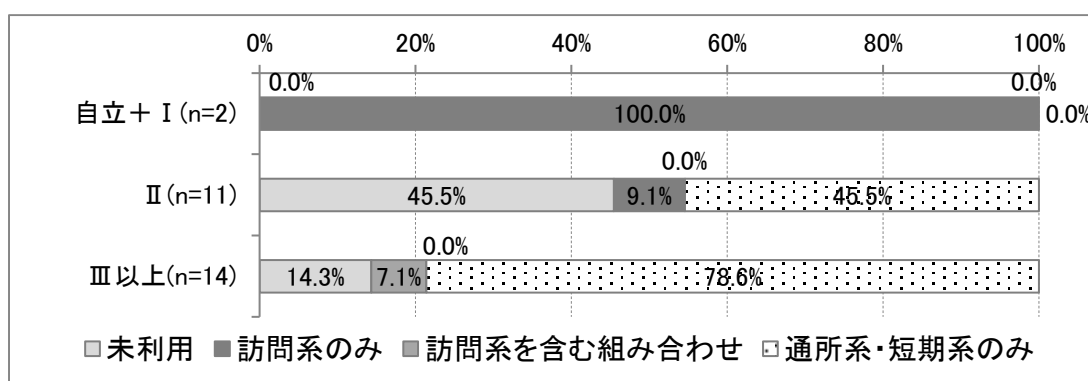
図表 4-10 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ(単身世帯)



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「訪問系のみ」が100.0%と最も割合が高くなっている。「Ⅱ」では「未利用」、「通所系・短期系のみ」が45.5%と最も割合が高く、次いで「訪問系のみ」が9.1%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が78.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が14.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が7.1%となっている。

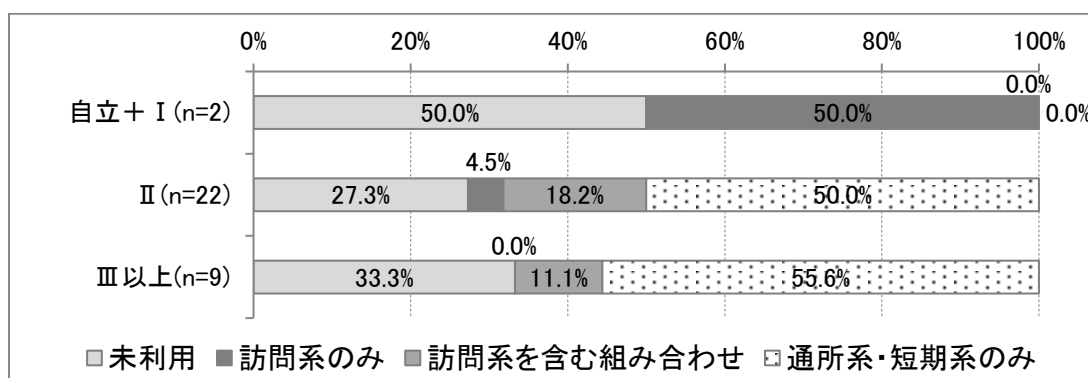
図表 4-11 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）】

サービス利用の組み合わせを認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「未利用」、「訪問系のみ」が50.0%と最も割合が高くなっている。「Ⅱ」では「通所系・短期系のみ」が50.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」が27.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が18.2%となっている。「Ⅲ以上」では「通所系・短期系のみ」が55.6%と最も割合が高く、次いで「未利用」が33.3%、「訪問系を含む組み合わせ」が11.1%となっている。

図表 4-12 認知症自立度別・サービス利用の組み合わせ（その他世帯）



(4) 「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」

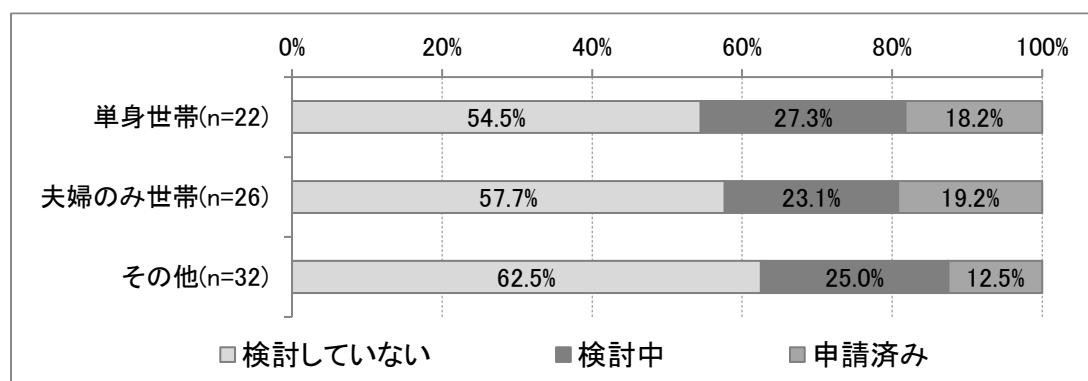
【着目すべきポイント】

- ここでは、「要介護度別・認知症自立度別」の「世帯類型別の施設等検討の状況」について、集計分析をしています（図表 4-13～図表 4-19）。
- 「施設等検討の状況」について「入所・入居は検討していない」の割合を高めることは、在宅介護実態調査で想定する「アウトカム」の1つです。
- ここでは「世帯類型」ごとの特徴を集計分析することで、地域目標を達成するためのサービス整備方針の検討につなげることなどを想定しています。

【世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）】

施設等の検討状況を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「検討していない」が54.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.3%、「申請済み」が18.2%となっている。「夫婦のみ世帯」では「検討していない」が57.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が23.1%、「申請済み」が19.2%となっている。「その他」では「検討していない」が62.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が25.0%、「申請済み」が12.5%となっている。

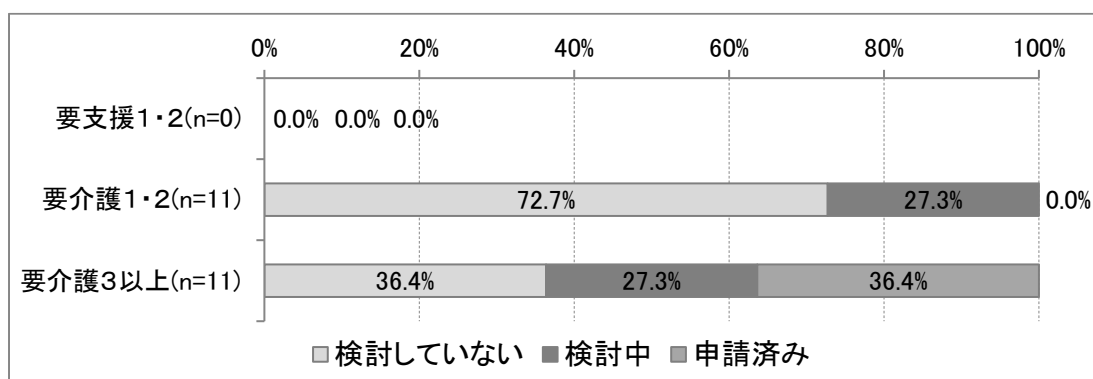
図表 4-13 世帯類型別・施設等検討の状況（全要介護度）



【要介護度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が72.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.3%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」、「申請済み」が36.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が27.3%となっている。

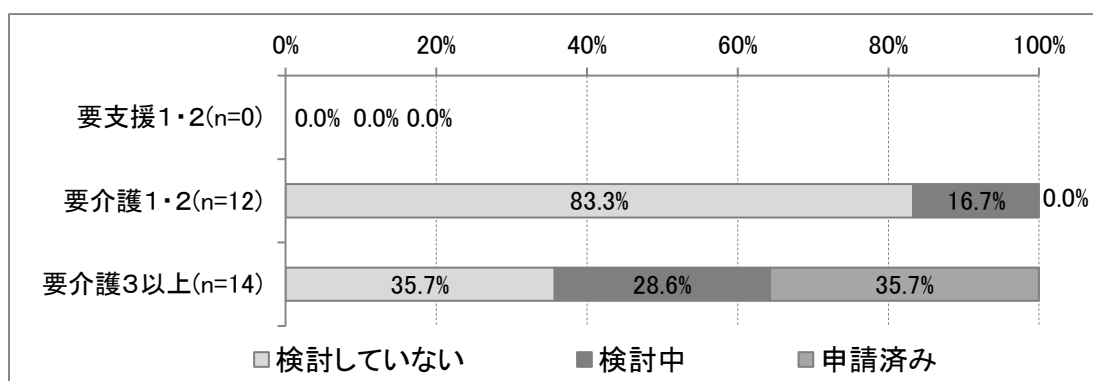
図表 4-14 要介護度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が83.3%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が16.7%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」、「申請済み」が35.7%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が28.6%となっている。

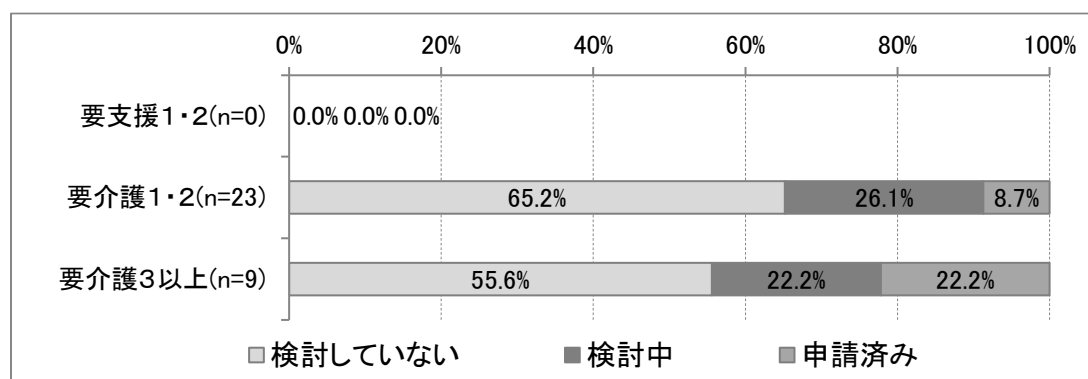
図表 4-15 要介護度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【要介護度別・施設等検討の状況(その他世帯)】

施設等の検討状況を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「検討していない」が65.2%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が26.1%、「申請済み」が8.7%となっている。「要介護3以上」では「検討していない」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が22.2%となっている。

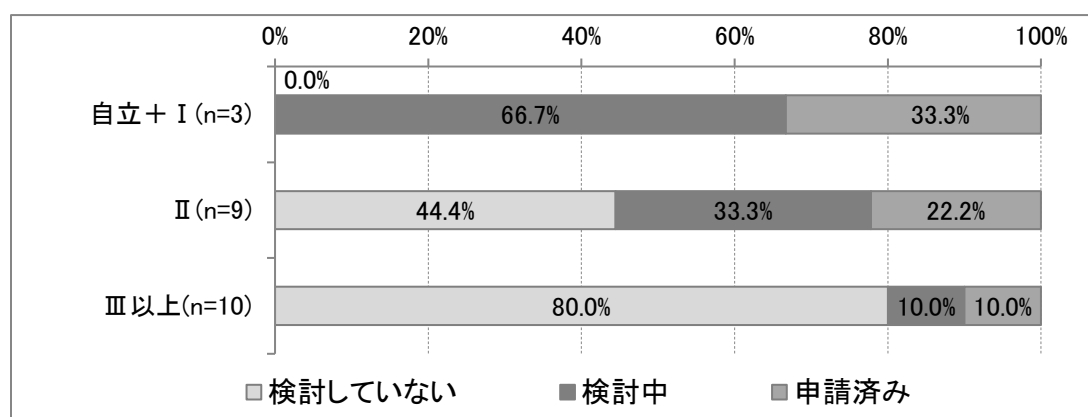
図表 4-16 要介護度別・施設等検討の状況（その他世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況(単身世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「検討中」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が33.3%となっている。「Ⅱ」では「検討していない」が44.4%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が33.3%、「申請済み」が22.2%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」、「申請済み」が10.0%となっている。

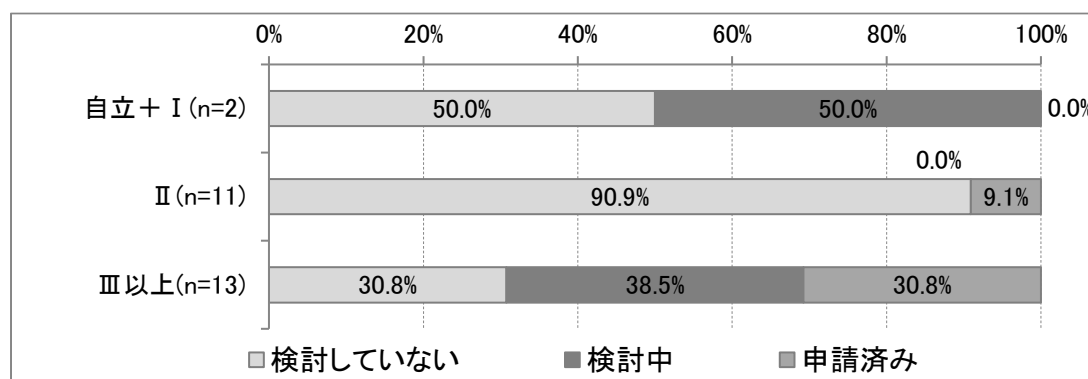
図表 4-17 認知症自立度別・施設等検討の状況（単身世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況(夫婦のみ世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」、「検討中」が50.0%ともっとも割合が高くなっている。「Ⅱ」では「検討していない」が90.9%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が9.1%となっている。「Ⅲ以上」では「検討中」が38.5%ともっとも割合が高く、次いで「検討していない」、「申請済み」が30.8%となっている。

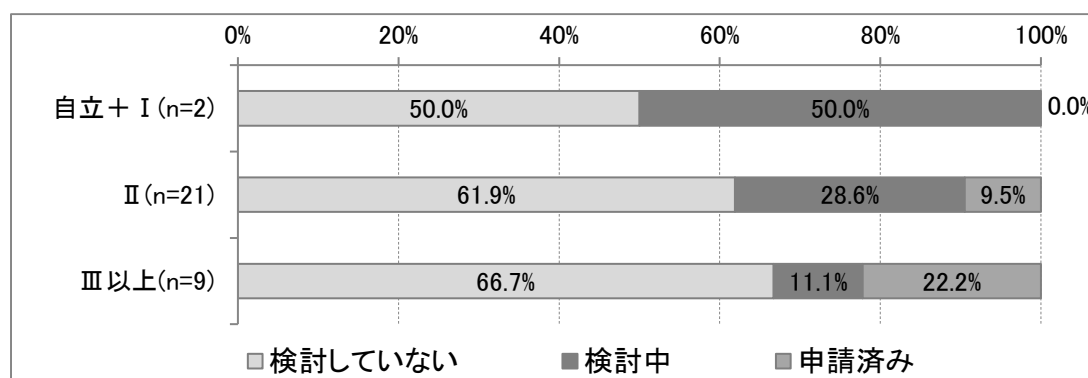
図表 4-18 認知症自立度別・施設等検討の状況（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別・施設等検討の状況(その他の世帯)】

施設等の検討状況を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「検討していない」、「検討中」が50.0%ともっとも割合が高くなっている。「Ⅱ」では「検討していない」が61.9%ともっとも割合が高く、次いで「検討中」が28.6%、「申請済み」が9.5%となっている。「Ⅲ以上」では「検討していない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「申請済み」が22.2%、「検討中」が11.1%となっている。

図表 4-19 認知症自立度別・施設等検討の状況（その他の世帯）



5 医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制の検討

5.1 集計・分析の狙い

- ここでは、医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの検討につなげるための集計を行います。
- 具体的には、世帯類型別・要介護度別の「主な介護者が行っている介護」や「訪問診療の利用の有無」、「訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ」などの分析を行います。

5.2 集計結果と着目すべきポイント

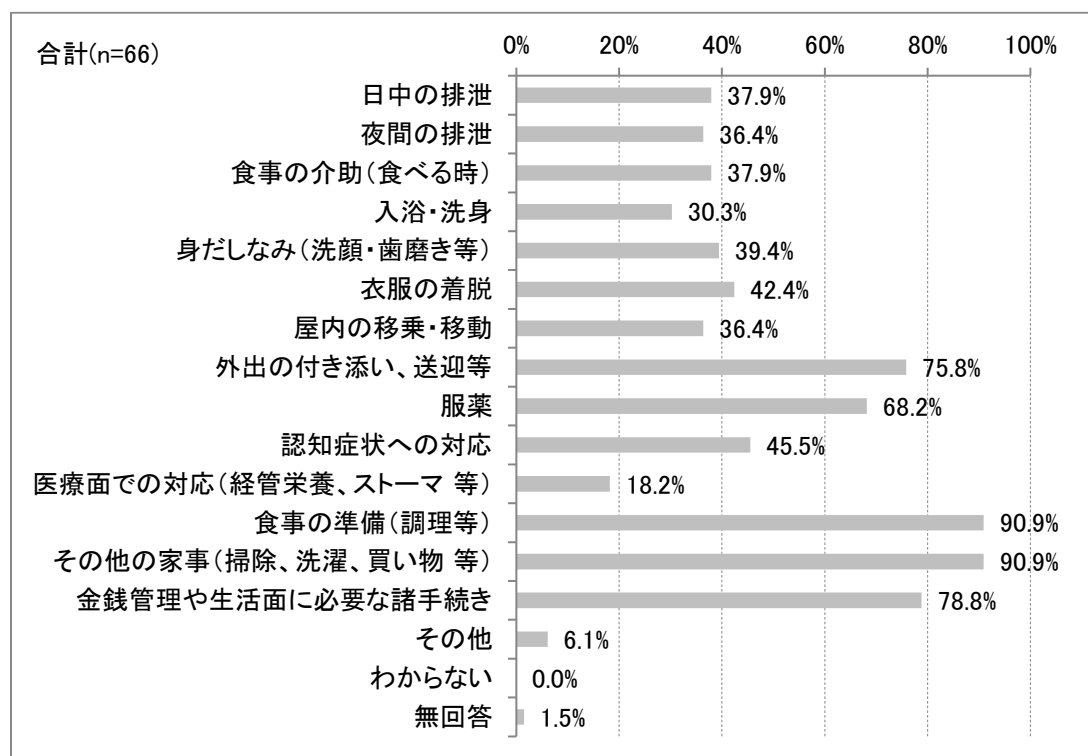
(1) 基礎集計

- 「主な介護者が行っている介護」について、要介護度別・世帯類型別の集計を行っています（図表 5-1～図表 5-3）。
- ここでは、特に「医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）」に着目し、家族等の主な介護者が「医療面での対応」を行っている割合を把握することができます。

【★主な介護者が行っている介護】

「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」の割合が高く、それぞれ90.9%となっている。次いで、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き（78.8%）」、「外出の付き添い、送迎等（75.8%）」となっている。

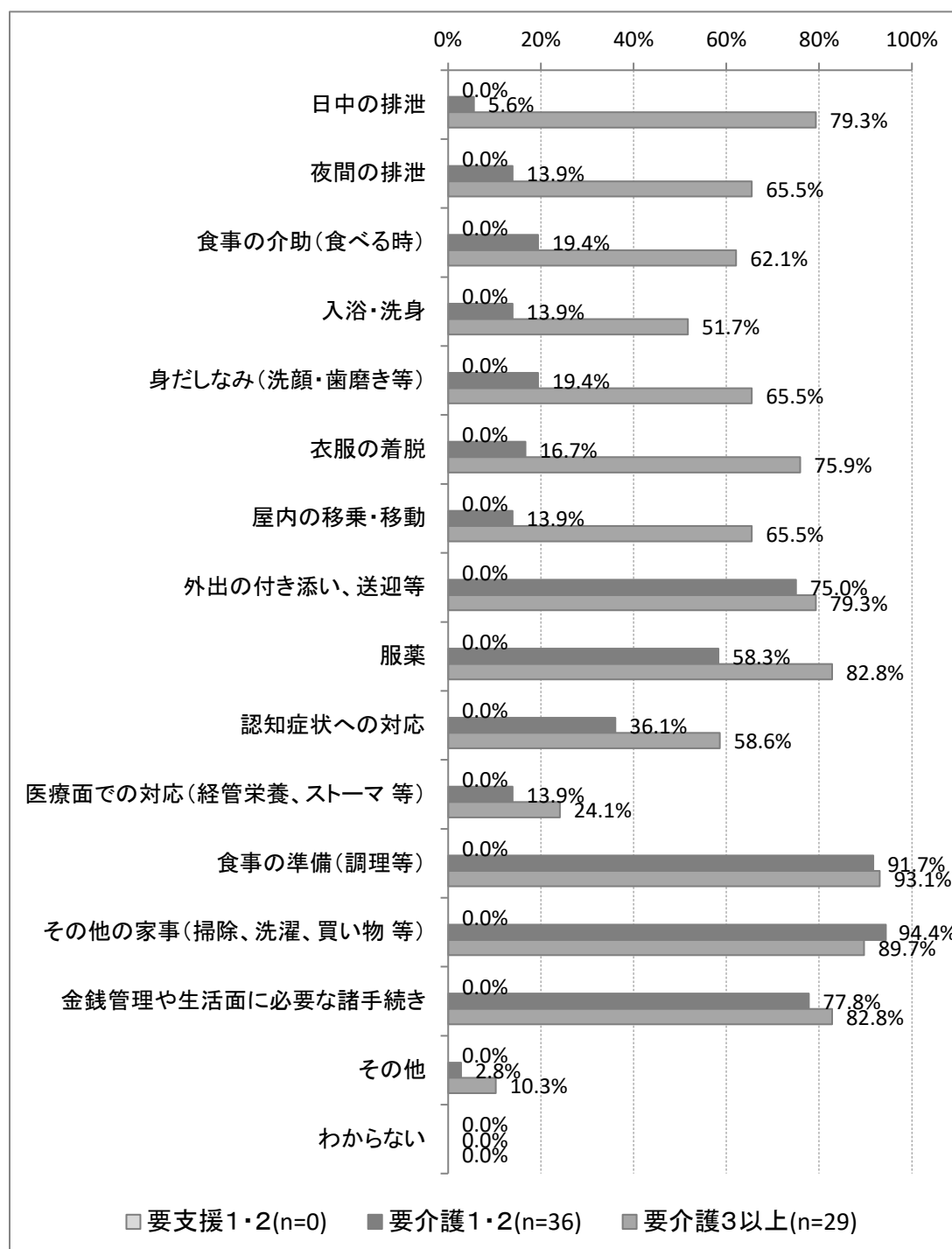
図表 5-1 ★主な介護者が行っている介護



【要介護度別・★主な介護者が行っている介護】

介護者が行っている介護を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が94.4%と最も割合が高く、次いで「食事の準備（調理等）」が91.7%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が77.8%となっている。「要介護3以上」では「食事の準備（調理等）」が93.1%と最も割合が高く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が89.7%、「服薬」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が82.8%となっている。

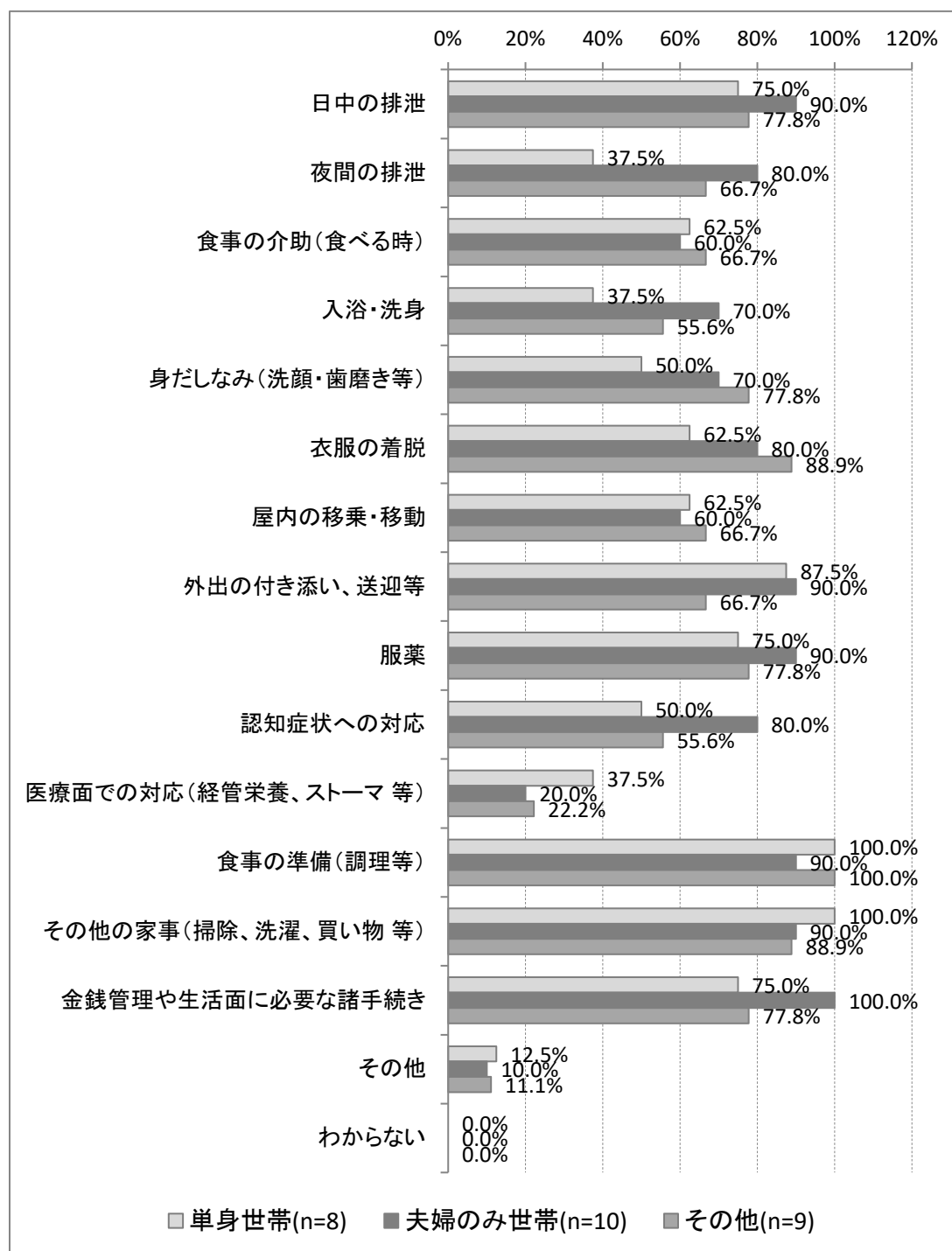
図表 5-2 要介護度別・★主な介護者が行っている介護



【世帯類型別・★主な介護者が行っている介護(要介護3以上)】

介護者が行っている介護を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が87.5%、「日中の排泄」、「服薬」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が75.0%となっている。「夫婦のみ世帯」では「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「日中の排泄」、「外出の付き添い、送迎等」、「服薬」、「食事の準備（調理等）」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が90.0%、「夜間の排泄」、「衣服の着脱」、「認知症状への対応」が80.0%となっている。「その他」では「食事の準備（調理等）」が100.0%ともっとも割合が高く、次いで「衣服の着脱」、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物 等）」が88.9%、「日中の排泄」、「身だしなみ（洗顔・歯磨き等）」、「服薬」、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が77.8%となっている。

図表 5-3 世帯類型別・★主な介護者が行っている介護（要介護3以上）



(2) 訪問診療の利用割合

【着目すべきポイント】

- 「訪問診療の利用の有無」について、世帯類型別・要介護度別の集計を行っています（図表 5-4～図表 5-6）。
- 特に、「要介護度別の訪問診療の利用割合」を「将来の要介護度別の在宅療養者数」に乘じること
で、「将来の在宅における訪問診療の利用者数」の粗推計を行うことも可能です。

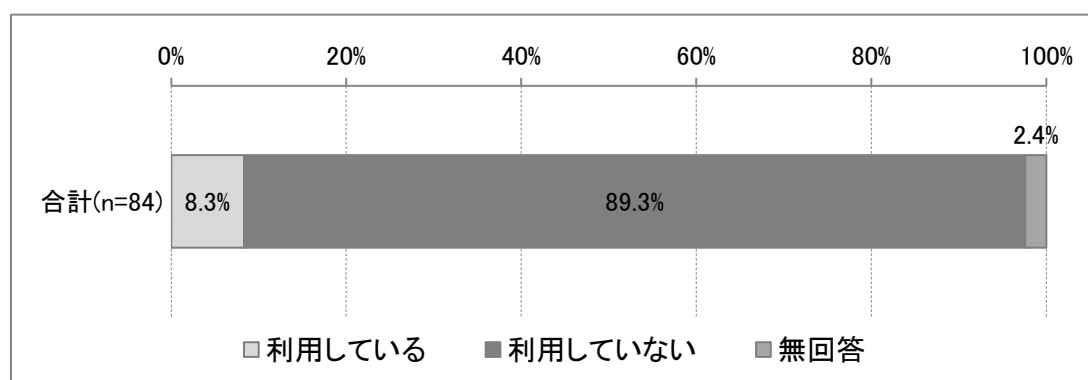
【留意事項】

- ここでの「訪問診療」には、訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含まれていません。
- また、上述の「将来の在宅における訪問診療の利用者数」を推計方法は、現在の訪問診療の利用割合を前提としたものであり、地域の状況の変化によっては誤差が大きくなることが想定されます。粗推計のための手法である点については、注意が必要です。
- 必要に応じて、地域医療構想の検討における「2025 年の在宅医療等で対応が必要な医療需要」の
需要量予測の結果等もご覧ください。

【★訪問診療の利用の有無】

「利用していない」の割合が最も高く 89.3%となっている。次いで、「利用している（8.3%）」となっている。

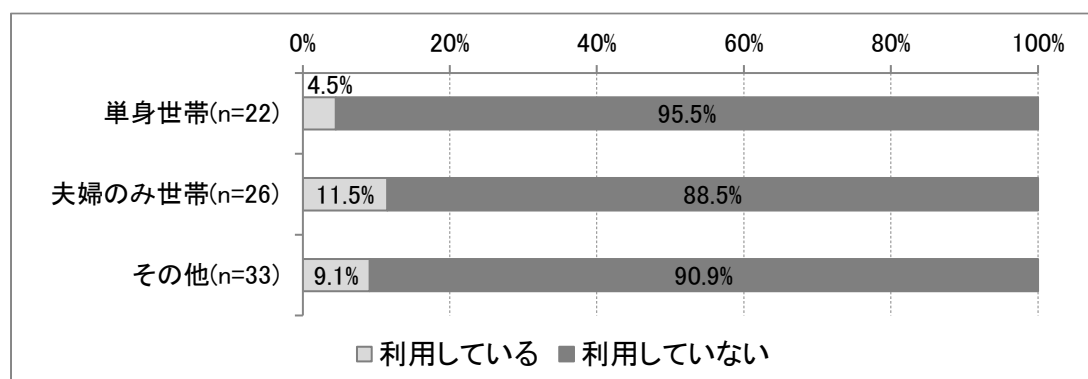
図表 5-4 ★訪問診療の利用の有無



【世帯類型別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を世帯類型別にみると、「単身世帯」では「利用していない」が95.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が4.5%となっている。「夫婦のみ世帯」では「利用していない」が88.5%と最も割合が高く、次いで「利用している」が11.5%となっている。「その他」では「利用していない」が90.9%と最も割合が高く、次いで「利用している」が9.1%となっている。

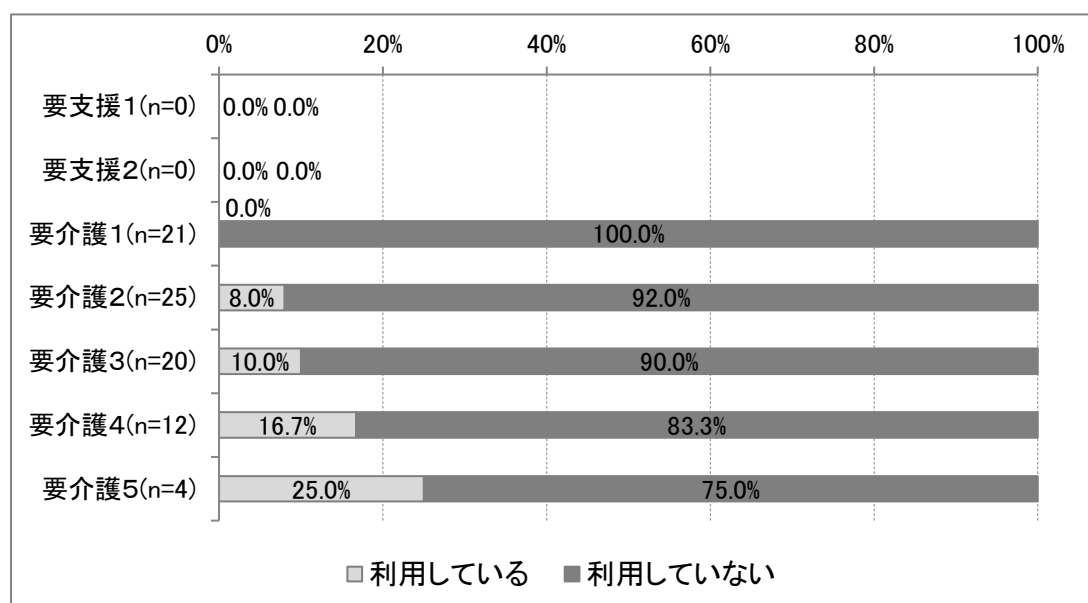
図表 5-5 世帯類型別・★訪問診療の利用割合



【要介護度別・★訪問診療の利用割合】

訪問診療の利用の有無を二次判定結果別にみると、「要介護1」では「利用していない」が100.0%と最も割合が高くなっている。「要介護2」では「利用していない」が92.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が8.0%となっている。「要介護3」では「利用していない」が90.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が10.0%となっている。「要介護4」では「利用していない」が83.3%と最も割合が高く、次いで「利用している」が16.7%となっている。「要介護5」では「利用していない」が75.0%と最も割合が高く、次いで「利用している」が25.0%となっている。

図表 5-6 要介護度別・★訪問診療の利用割合



(3) 訪問診療の利用の有無別のサービス利用の組み合わせ

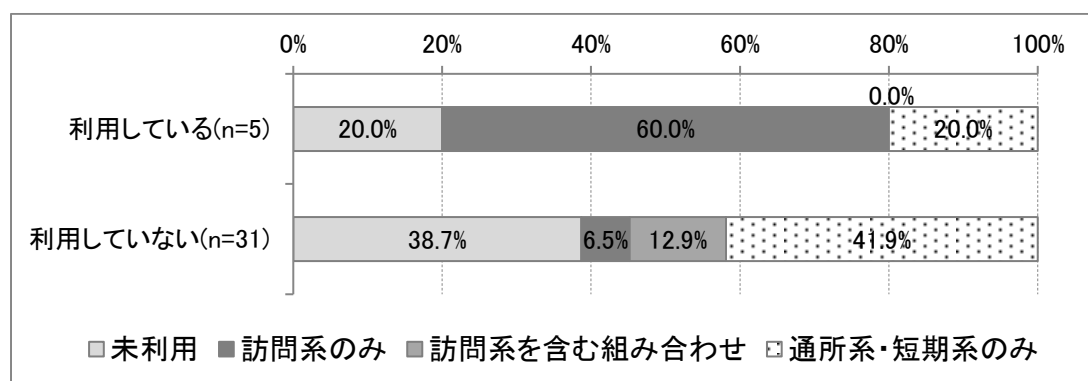
【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上の「サービス利用の組み合わせ」を集計しています（図表5-7）。
- 特に、今後在宅で療養生活を送る医療ニーズの高い中重度の要介護者の増加が見込まれる地域では、今後どのようなサービスに対する利用ニーズが高まるかを予測することにもつながります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）】

サービス利用の組み合わせを訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系のみ」が60.0%と最も割合が高く、次いで「未利用」、「通所系・短期系のみ」が20.0%となっている。「利用していない」では「通所系・短期系のみ」が41.9%と最も割合が高く、次いで「未利用」が38.7%、「訪問系を含む組み合わせ」が12.9%となっている。

図表 5-7 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の組み合わせ（要介護3以上）



(4) 訪問診療の利用の有無別の訪問系・通所系・短期系サービスの利用の有無

【着目すべきポイント】

- 訪問診療の利用の有無別に、要介護3以上について、訪問系・通所系・短期系のそれぞれのサービス利用の有無を集計しています（図表 5-8～図表 5-10）。
- 地域によっては、例えば「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない場合に、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なることも想定されます。

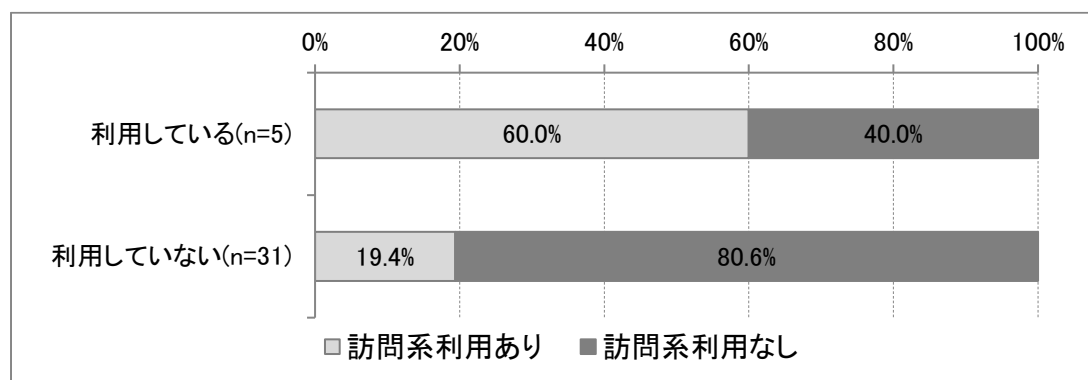
【留意事項】

- 上記の例のように、訪問診療の利用の有無で短期系の利用割合が大きく異なる場合についても、必ずしも「医療ニーズの高い要介護者」の受け入れが可能なショートステイが十分に整っていない」ことに原因があるとは限りません。
- 集計分析結果の解釈は、地域の実情等に照らし合わせながら、専門職を含む関係者間での議論・考察を経て行う必要があります。

【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）】

訪問系の利用の有無を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「訪問系利用あり」が 60.0%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用なし」が 40.0%となっている。「利用していない」では「訪問系利用なし」が 80.6%と最も割合が高く、次いで「訪問系利用あり」が 19.4%となっている。

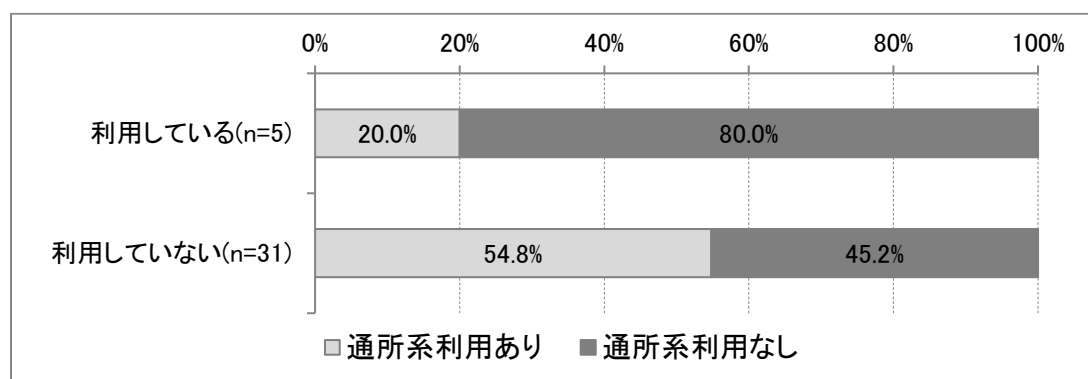
図表 5-8 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（訪問系、要介護3以上）



【★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無(通所系、要介護3以上)】

通所系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「通所系利用なし」が80.0%ともっとも割合が高く、次いで「通所系利用あり」が20.0%となっている。「利用していない」では「通所系利用あり」が54.8%ともっとも割合が高く、次いで「通所系利用なし」が45.2%となっている。

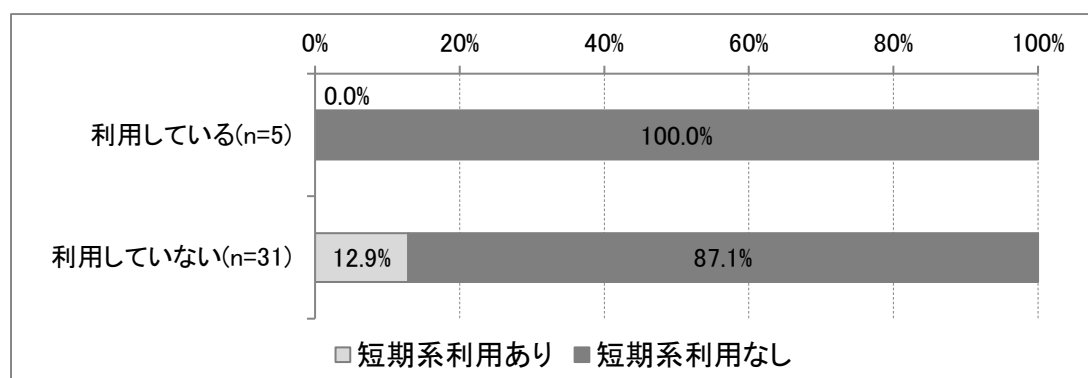
図表 5-9 ★訪問診療の利用の有無別・サービスの利用の有無（通所系、要介護3以上）



【★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無(短期系、要介護3以上)】

短期系の利用の有無（定期巡回を除く）を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「短期系利用なし」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。「利用していない」では「短期系利用なし」が87.1%ともっとも割合が高く、次いで「短期系利用あり」が12.9%となっている。

図表 5-10 ★訪問診療の利用の有無別・サービス利用の有無（短期系、要介護3以上）



6 サービス未利用の理由など

6.1 集計・分析の狙い

- ここでは、各地域において支援・サービスの提供体制の構築を含む各種の取組を検討する際に、参考になると考えられるいくつかの集計結果を整理しています。
- 主要なデータは、テーマ1～テーマ5において整理をしていますが、ここで整理する集計結果も必要に応じてご活用ください。

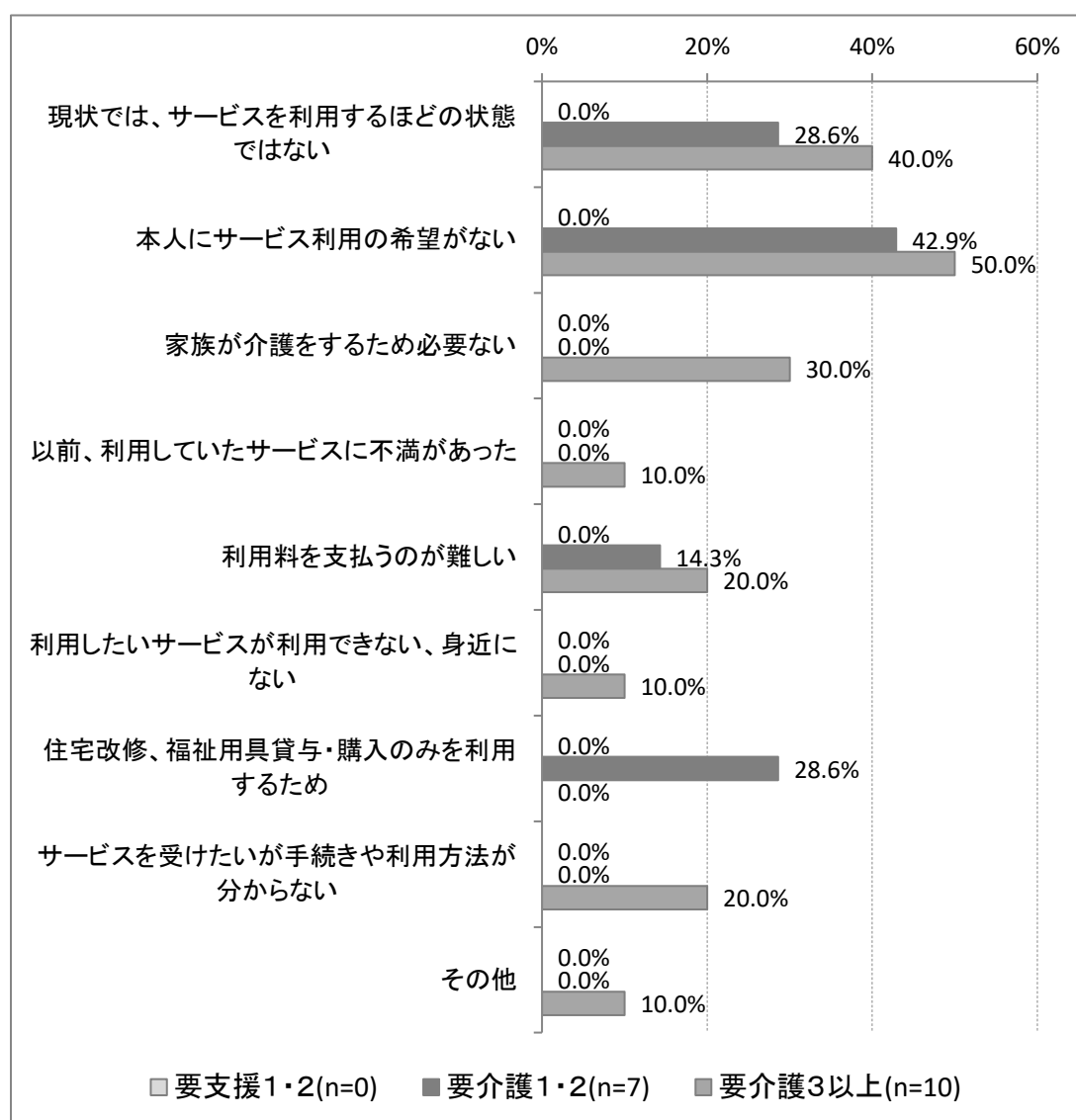
6.2 集計結果（参考）

(1) 要介護度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【要介護度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「本人にサービス利用の希望がない」が42.9%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が28.6%、「利用料を支払うのが難しい」が14.3%となっている。「要介護3以上」では「本人にサービス利用の希望がない」が50.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.0%、「家族が介護をするため必要ない」が30.0%となっている。

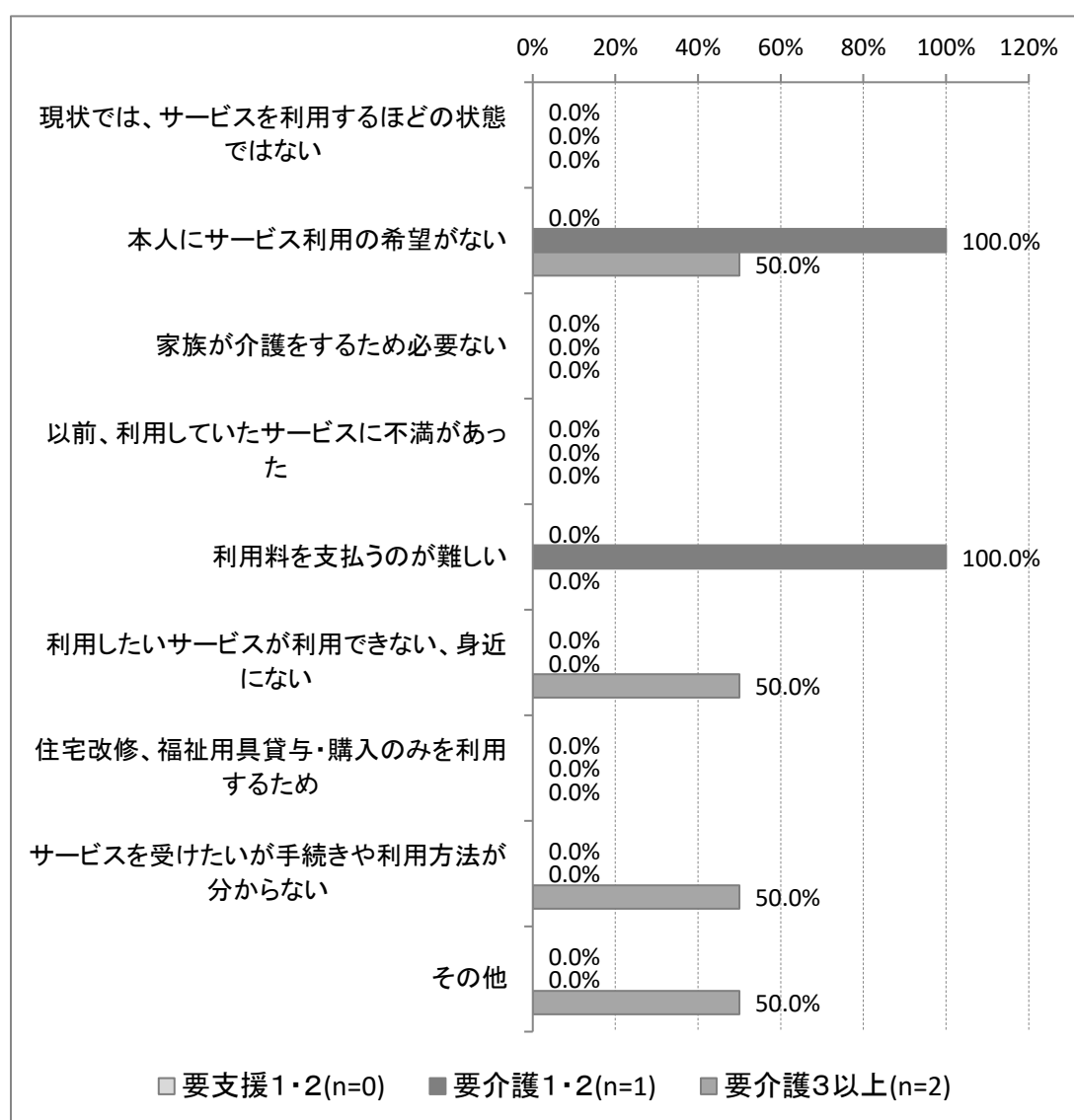
図表 6-1 要介護度別の★サービス未利用の理由



【要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。「要介護3以上」では「本人にサービス利用の希望がない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」、「その他」が50.0%ともっとも割合が高くなっている。

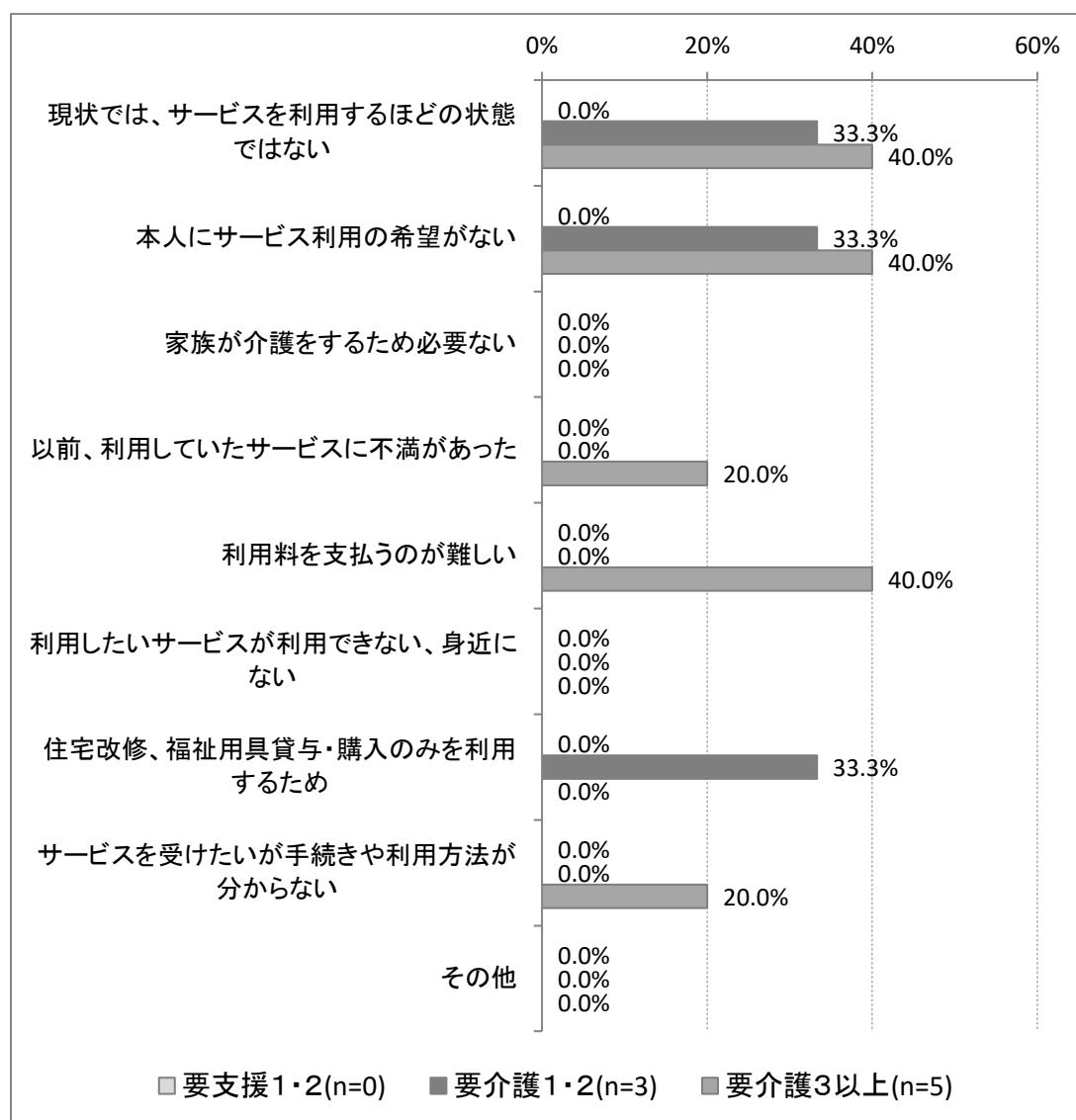
図表 6-2 要介護度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)



【要介護度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が33.3%と最も割合が高くなっている。「要介護3以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」が40.0%と最も割合が高く、次いで「以前、利用していたサービスに不満があった」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が20.0%となっている。

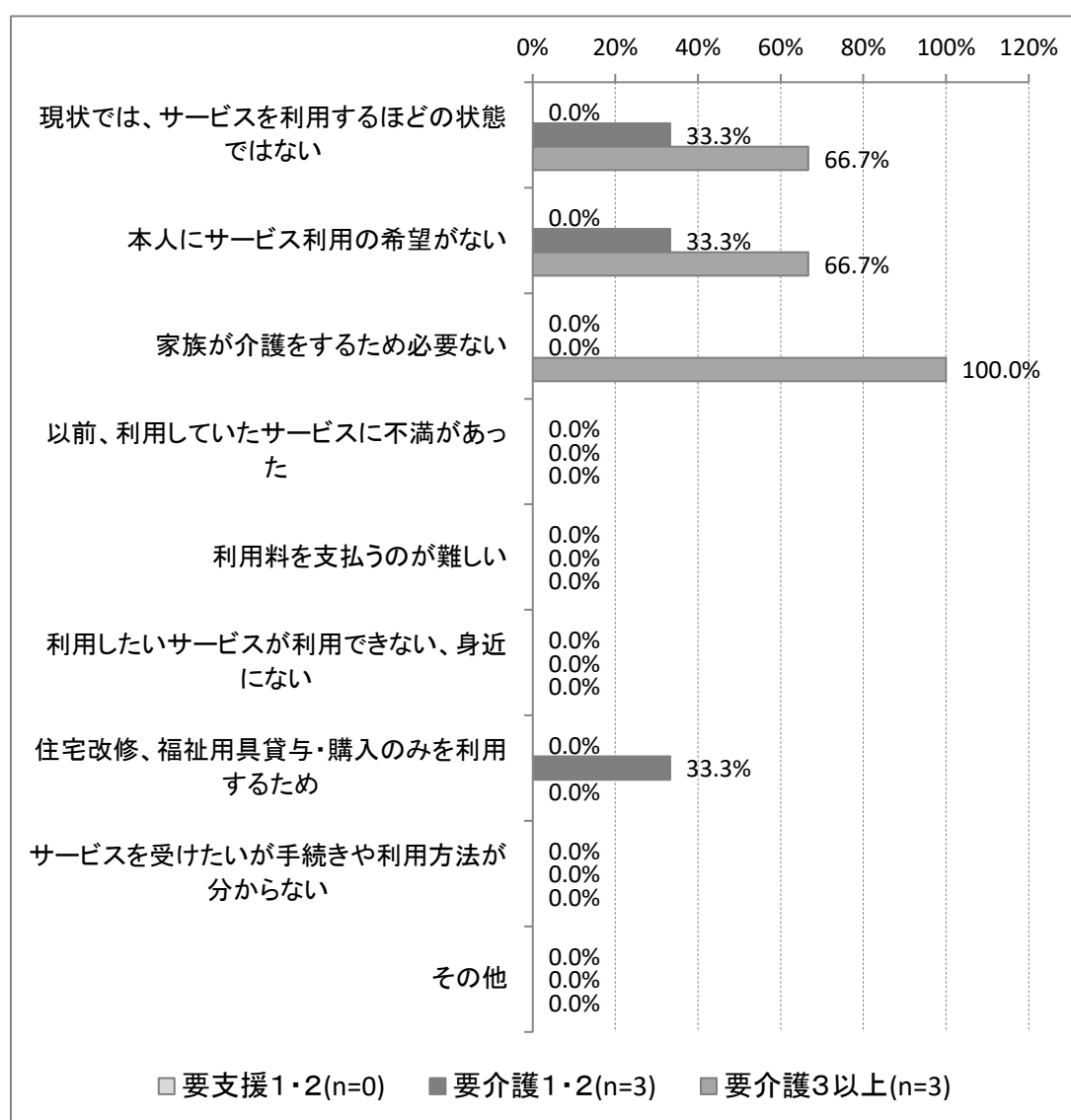
図表 6-3 要介護度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



【要介護度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が33.3%と最も割合が高くなっている。「要介護3以上」では「家族が介護をするため必要ない」が100.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」が66.7%となっている。

図表 6-4 要介護度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）

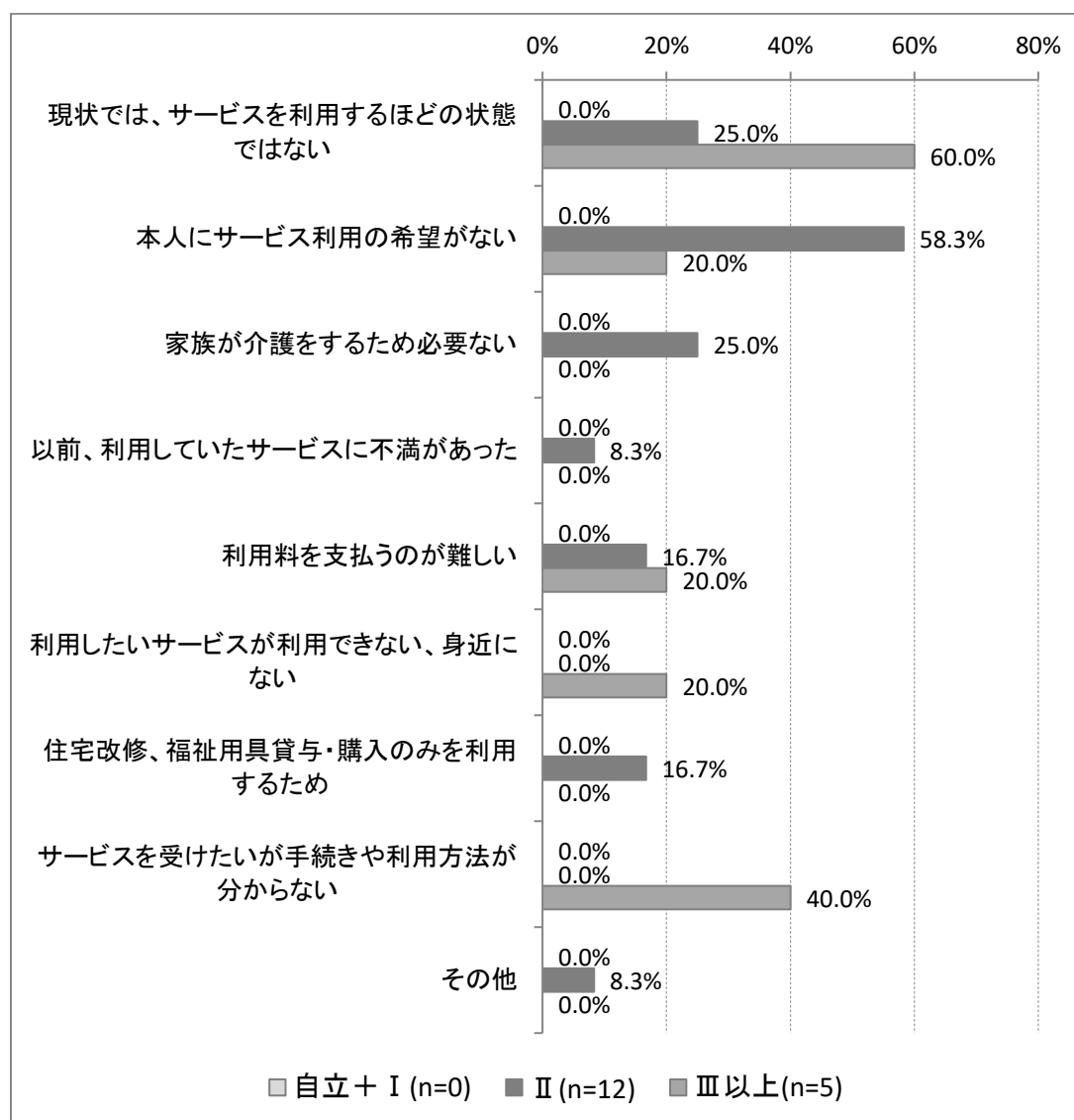


(2) 認知症自立度別・世帯類型別のサービス未利用の理由

【認知症自立度別の★サービス未利用の理由】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」が58.3%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「家族が介護をするため必要ない」が25.0%、「利用料を支払うのが難しい」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が16.7%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が40.0%、「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」が20.0%となっている。

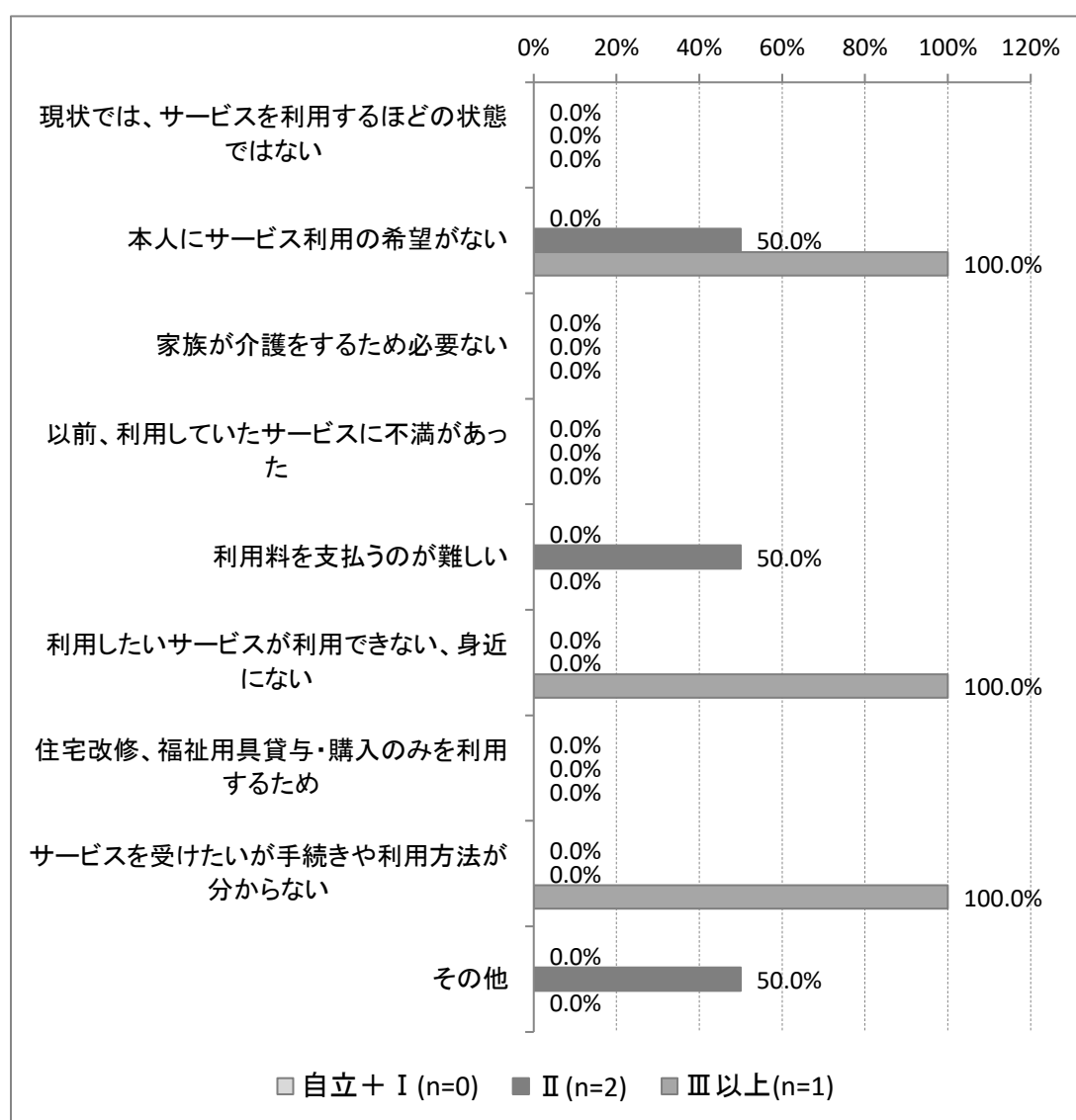
図表 6-5 認知症自立度別の★サービス未利用の理由



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(単身世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」、「利用料を支払うのが難しい」、「その他」が 50.0% ともっとも割合が高くなっている。「Ⅲ以上」では「本人にサービス利用の希望がない」、「利用したいサービスが利用できない、身近にない」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 100.0% ともっとも割合が高くなっている。

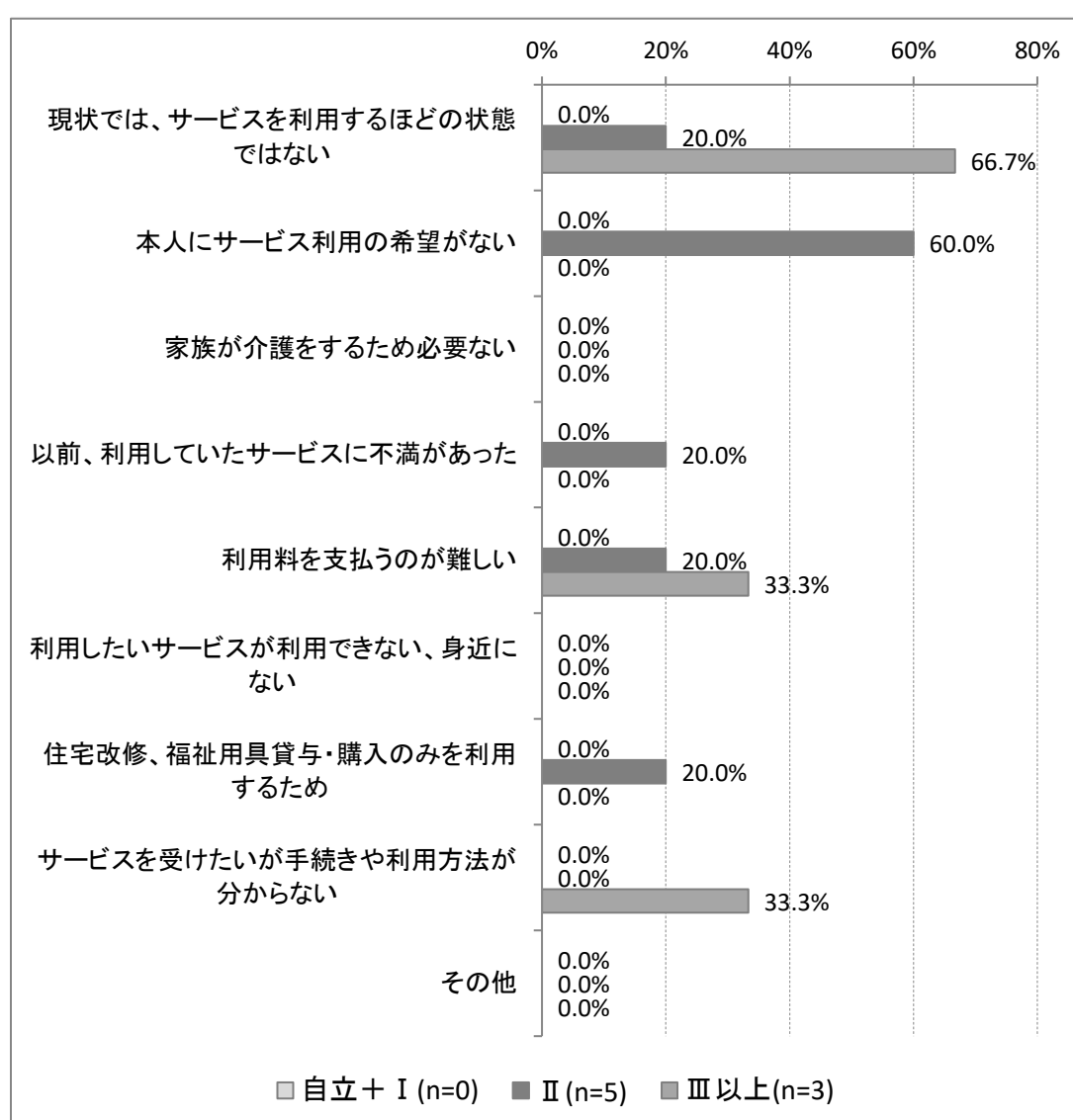
図表 6-6 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（単身世帯）



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(夫婦のみ世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」が60.0%ともっとも割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「以前、利用していたサービスに不満があった」、「利用料を支払うのが難しい」、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が20.0%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が66.7%ともっとも割合が高く、次いで「利用料を支払うのが難しい」、「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が33.3%となっている。

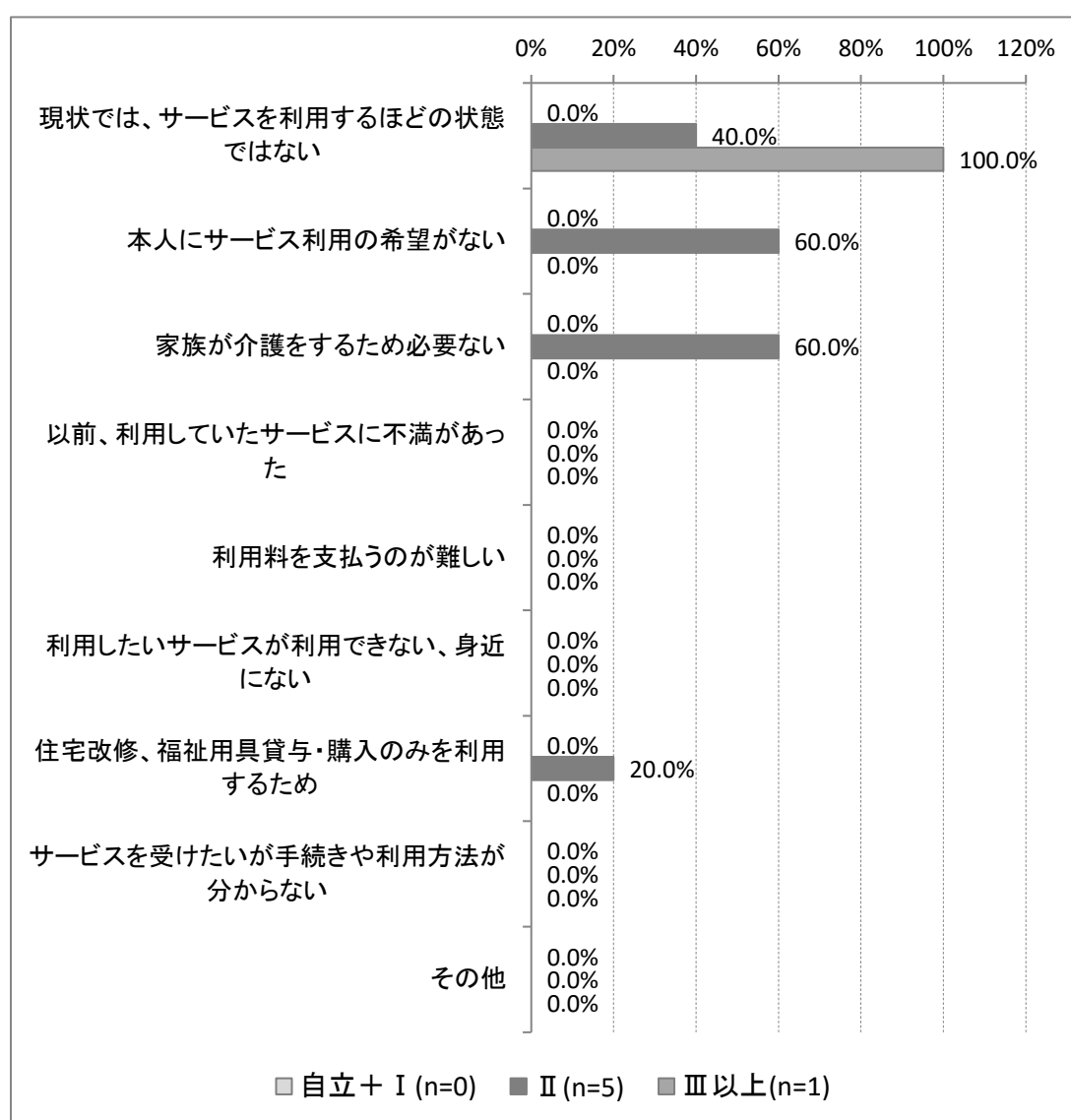
図表 6-7 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（夫婦のみ世帯）



【認知症自立度別の★サービス未利用の理由(その他世帯)】

未利用の理由を認知症高齢者自立度別にみると、「Ⅱ」では「本人にサービス利用の希望がない」、「家族が介護をするため必要ない」が60.0%と最も割合が高く、次いで「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が40.0%、「住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため」が20.0%となっている。「Ⅲ以上」では「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が100.0%と最も割合が高くなっている。

図表 6-8 認知症自立度別の★サービス未利用の理由（その他世帯）

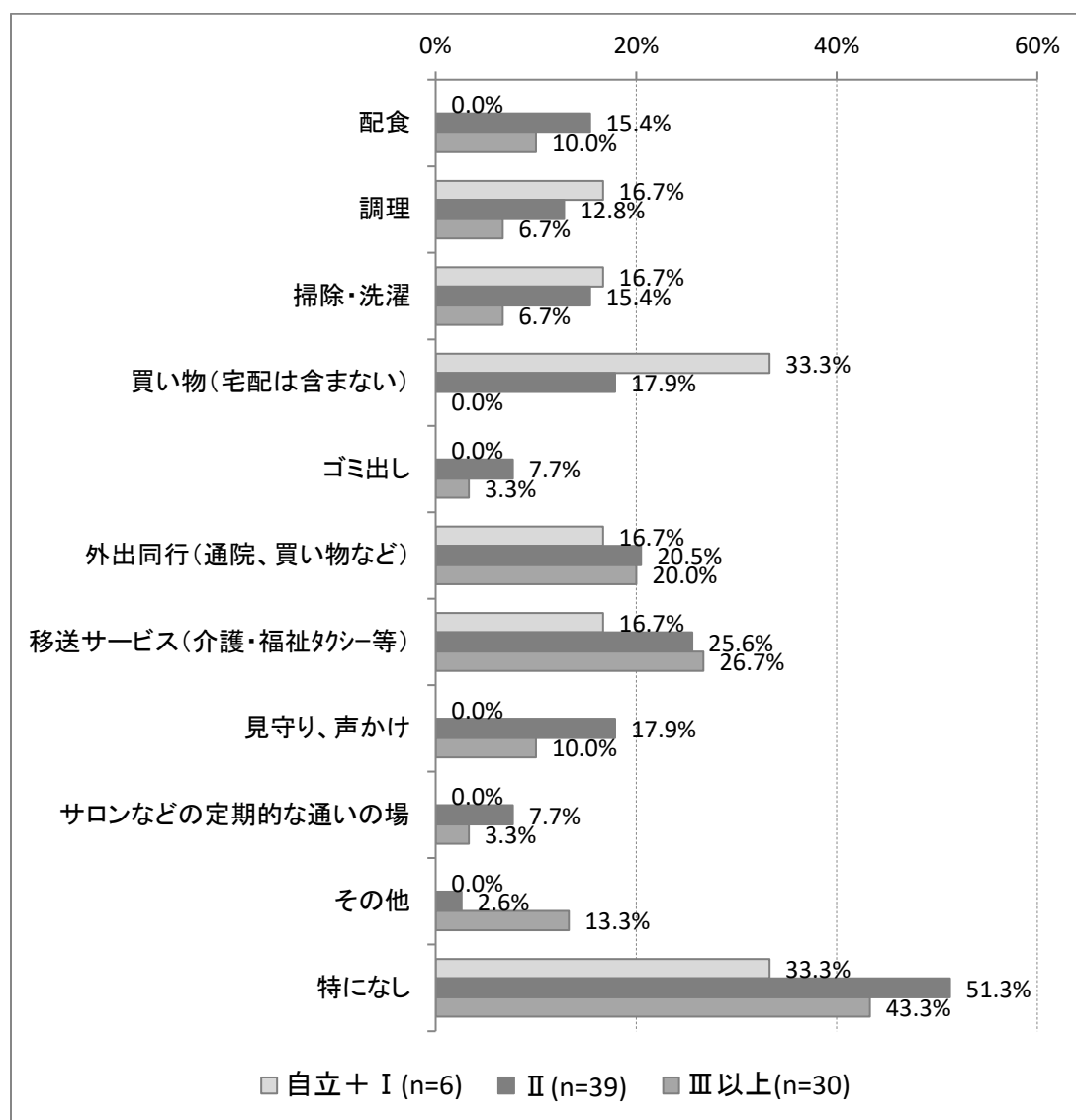


(3) 認知症自立度別の今後の在宅生活に必要と感じる支援・サービス

【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「買い物（宅配は含まない）」が 33.3% ともっとも割合が高く、次いで「調理」、「掃除・洗濯」、「外出同行（通院、買い物など）」が 16.7% となっている。「Ⅱ」では「特になし」が 51.3% ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 26.7%、「外出同行（通院、買い物など）」が 20.5% となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が 43.3% ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が 26.7%、「外出同行（通院、買い物など）」が 20.0% となっている。

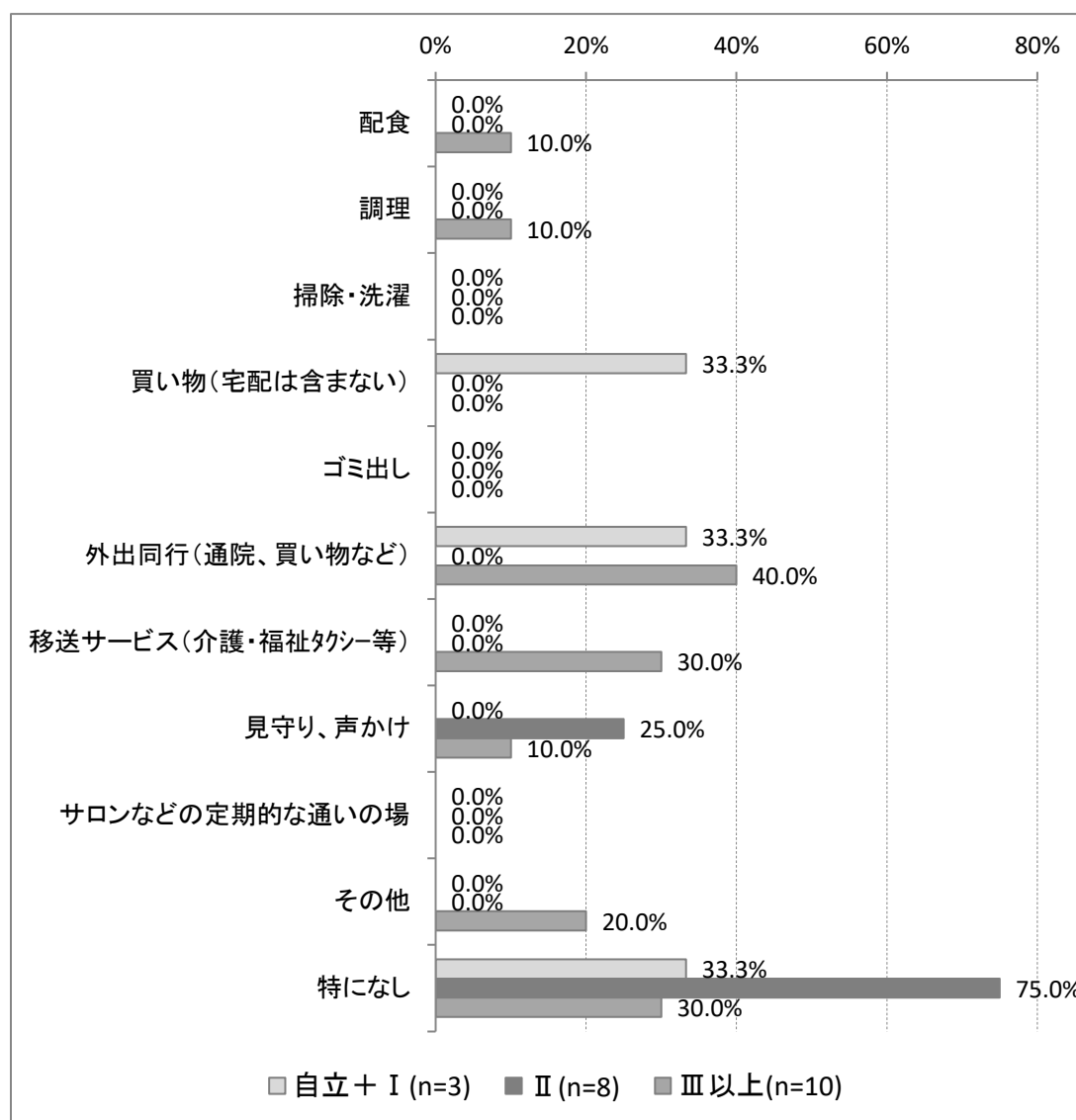
図表 6-9 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立+Ⅰ」では「買い物(宅配は含まない)」、「外出同行(通院、買い物など)」、「特になし」が33.3%と最も割合が高くなっている。「Ⅱ」では「特になし」が75.0%と最も割合が高く、次いで「見守り、声かけ」が25.0%となっている。「Ⅲ以上」では「外出同行(通院、買い物など)」が40.0%と最も割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」、「特になし」が30.0%、「その他」が20.0%となっている。

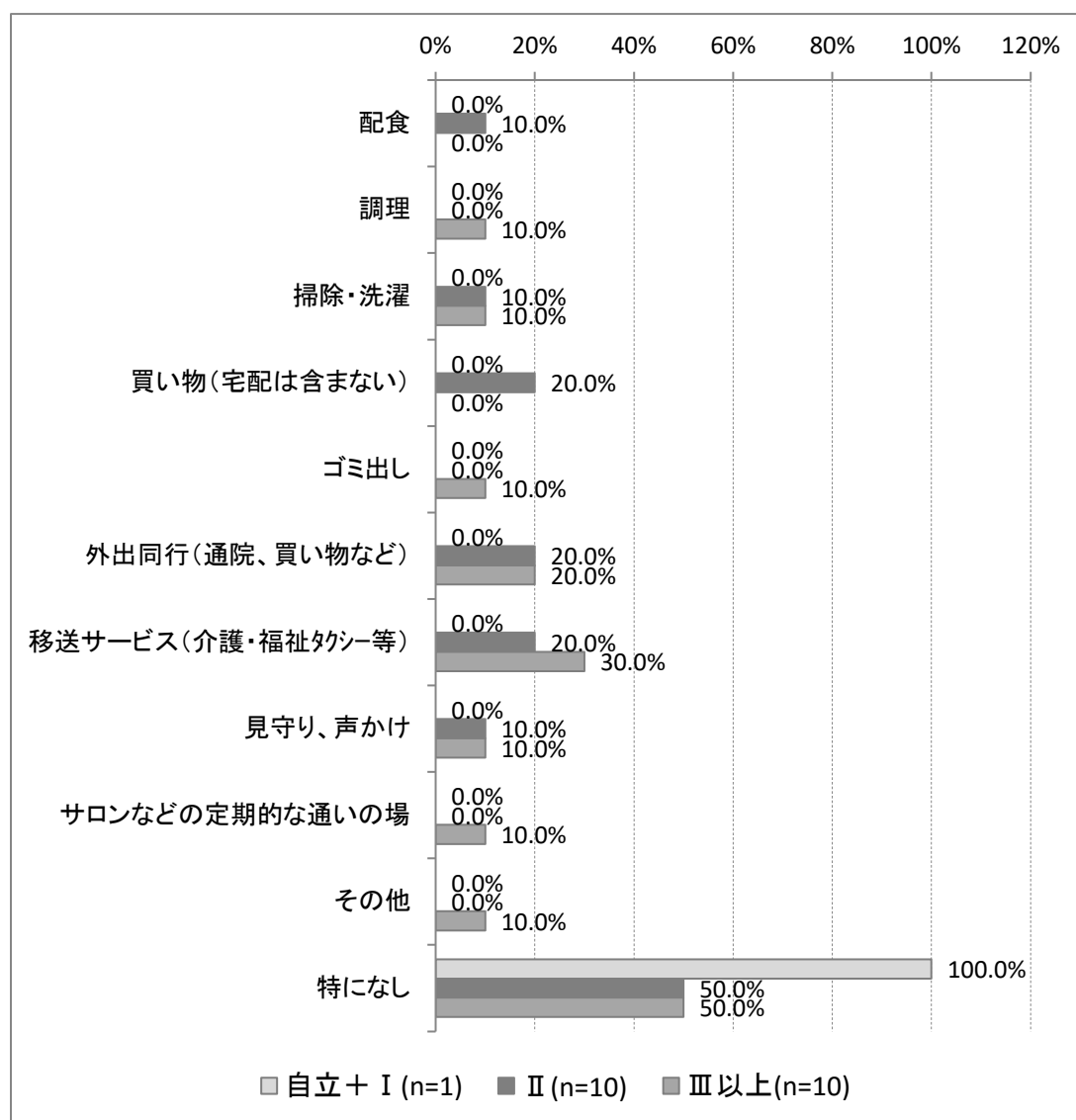
図表 6-10 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(単身世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「特になし」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。「Ⅱ」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「買い物(宅配は含まない)」、「外出同行(通院、買い物など)」、「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が20.0%、「配食」、「掃除・洗濯」、「見守り、声かけ」が10.0%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が50.0%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス(介護・福祉タクシー等)」が30.0%、「外出同行(通院、買い物など)」が20.0%となっている。

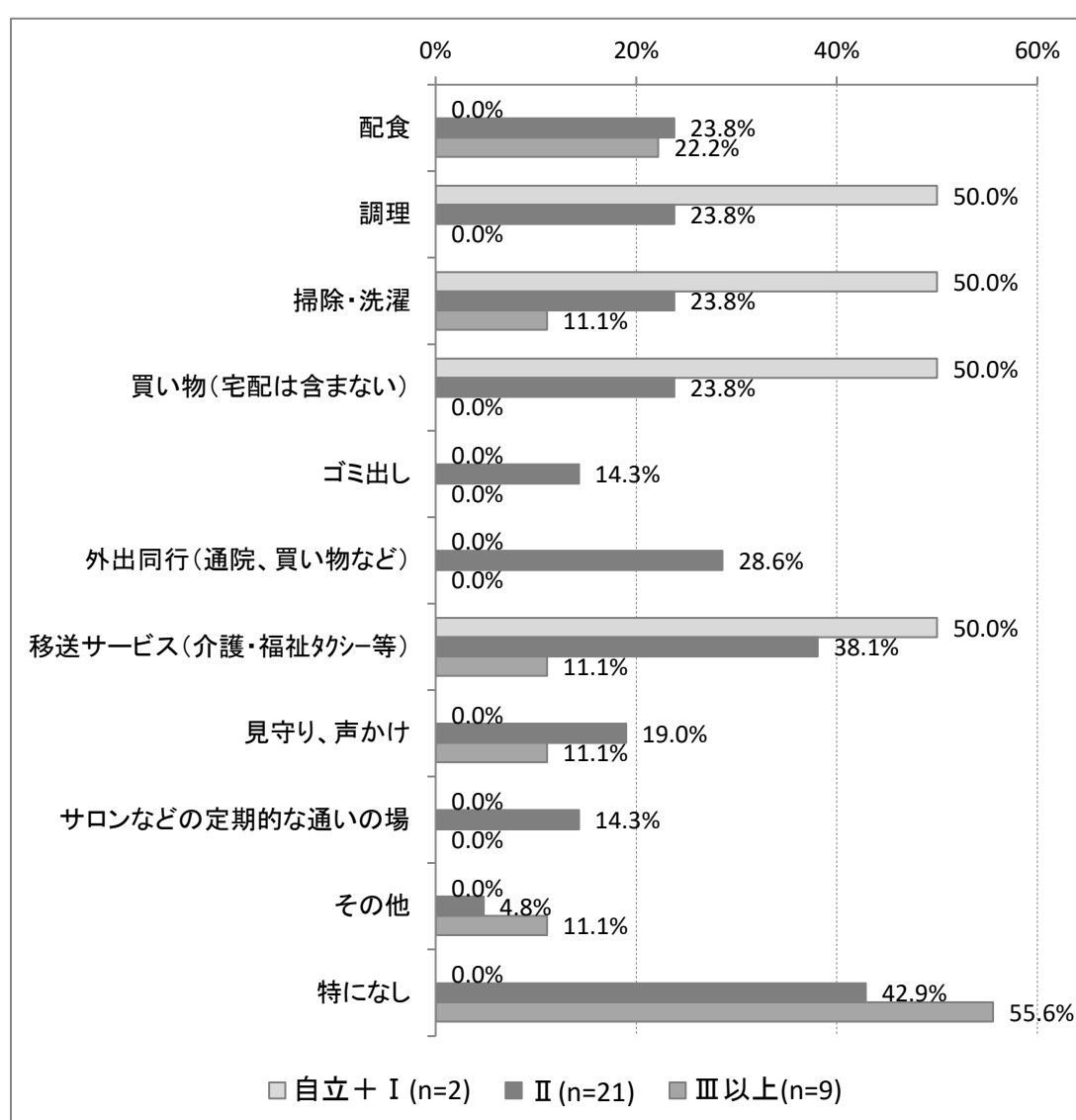
図表 6-11 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(夫婦のみ世帯)



【認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス(その他世帯)】

保険外の支援・サービスの必要性を認知症高齢者自立度別にみると、「自立＋Ⅰ」では「調理」、「掃除・洗濯」、「買い物（宅配は含まない）」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が50.0%ともっとも割合が高くなっている。「Ⅱ」では「特になし」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が38.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が28.6%となっている。「Ⅲ以上」では「特になし」が55.6%ともっとも割合が高く、次いで「配食」が22.2%、「掃除・洗濯」、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」、「見守り、声かけ」、「その他」が11.1%となっている。

図表 6-12 認知症自立度別の★在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（その他世帯）

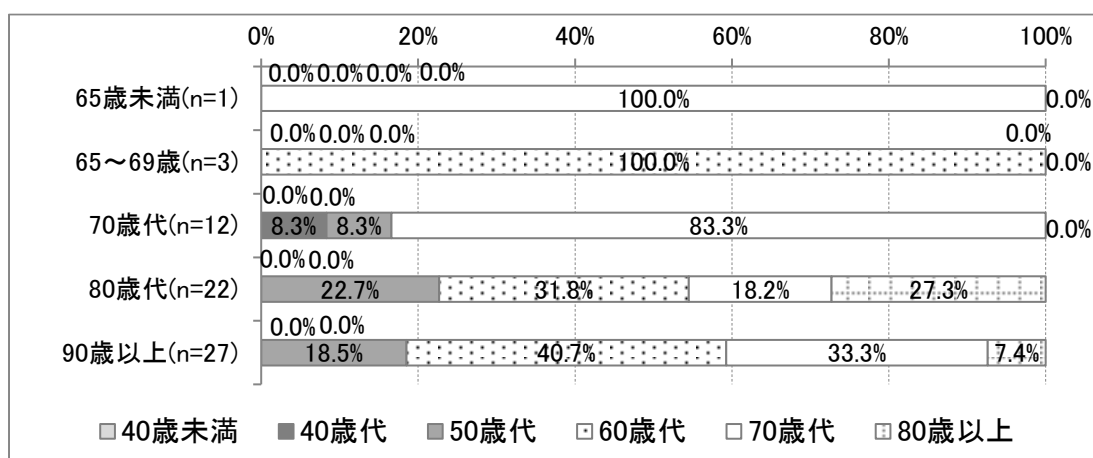


(4) 本人の年齢別・主な介護者の年齢

【本人の年齢別・主な介護者の年齢】

介護者の年齢を本人年齢別にみると、「65歳未満」では「70歳代」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。「65～69歳」では「60歳代」が100.0%ともっとも割合が高くなっている。「70歳代」では「70歳代」が83.3%ともっとも割合が高く、次いで「40歳代」、「50歳代」が8.3%となっている。「80歳代」では「60歳代」が31.8%ともっとも割合が高く、次いで「80歳以上」が27.3%、「50歳代」が22.7%となっている。「90歳以上」では「60歳代」が40.7%ともっとも割合が高く、次いで「70歳代」が33.3%、「50歳代」が18.5%となっている。

図表 6-13 本人の年齢別・主な介護者の年齢

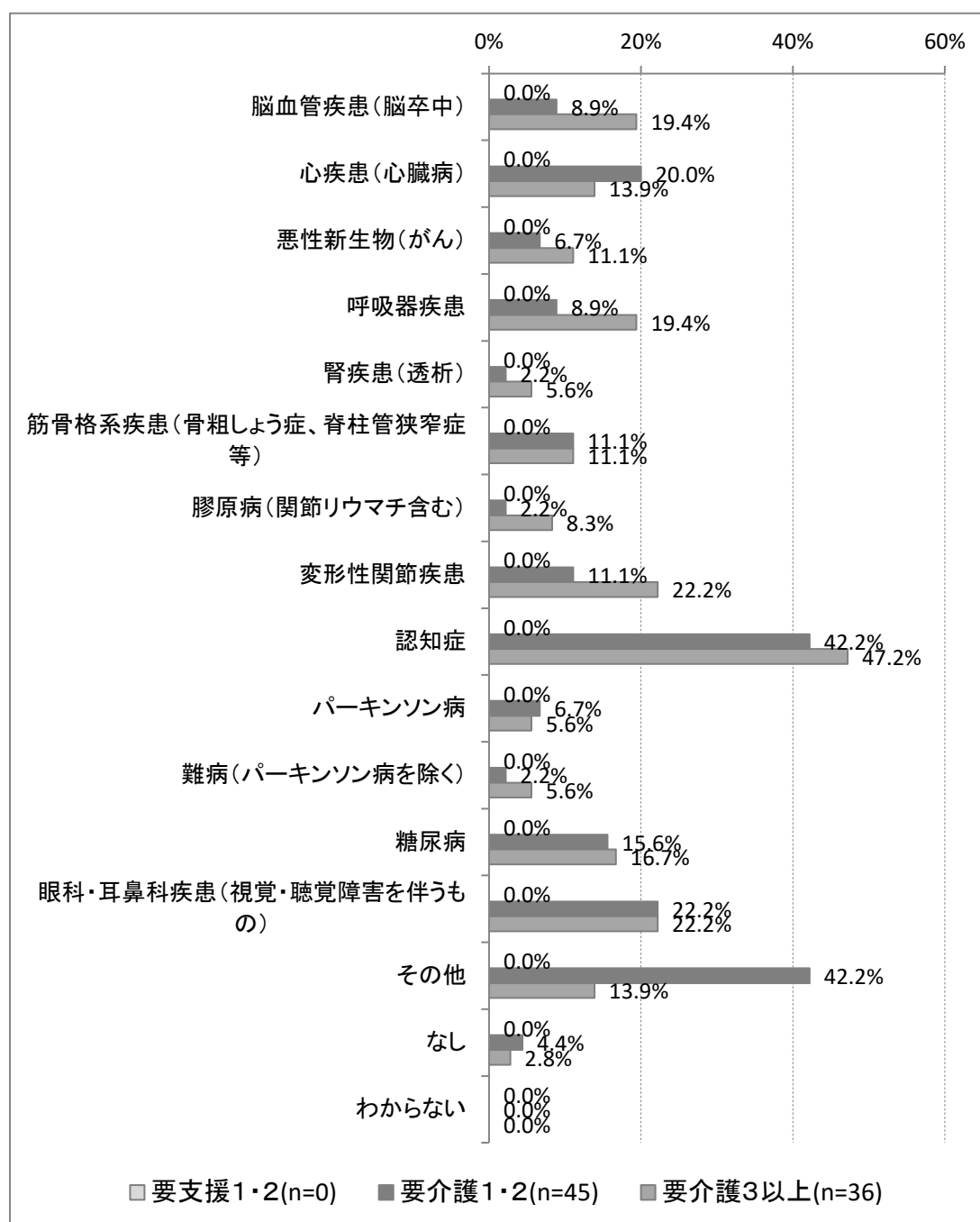


(5) 要介護度別の抱えている傷病

【要介護度別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を二次判定結果別にみると、「要介護1・2」では「認知症」、「その他」が42.2%と最も割合が高く、次いで「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が22.2%、「心疾患（心臓病）」が20.0%となっている。「要介護3以上」では「認知症」が47.2%と最も割合が高く、次いで「変形性関節疾患」、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が22.2%、「脳血管疾患（脳卒中）」、「呼吸器疾患」が19.4%となっている。

図表 6-14 要介護度別・★抱えている傷病



(6) 訪問診療の利用の有無別の抱えている傷病

【★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病】

抱えている傷病を訪問診療の利用の有無別にみると、「利用している」では「心疾患（心臓病）」が42.9%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が28.6%、「脳血管疾患（脳卒中）」、「呼吸器疾患」、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」、「変形性関節疾患」、「認知症」、「難病（パーキンソン病を除く）」、「なし」が14.3%となっている。「利用していない」では「認知症」が47.9%ともっとも割合が高く、次いで「その他」が30.1%、「眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）」が24.7%となっている。

図表 6-15 ★訪問診療の利用の有無別・★抱えている傷病

